

今宿五郎江 11

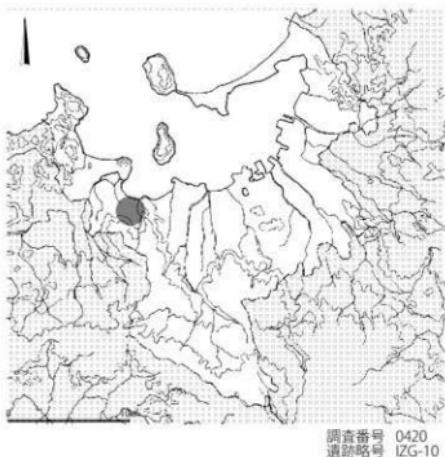
— 今宿五郎江遺跡第10次調査報告(3) —

2012

福岡市教育委員会

い　ま　じ　ゅ　く　ご　ろ　う　え
今宿五郎江 11

—今宿五郎江遺跡第10次調査報告(3)—



2012

福岡市教育委員会

序

福岡市の西部に位置する今宿平野は、中国の史書にその名を残す糸島平野の東を占め、歴史的にみても重要な位置にある地域です。しかし今、土地区画整理事業が進行し、日々街へと姿を変えつつあります。

福岡市では、工事等により現状での保存が不可能となった埋蔵文化財について、記録による保存を図ることとし、そのための発掘調査を行ってきました。本書は、この目的で伊都土地区画整理事業地内において実施した今宿五郎江遺跡調査の報告書として刊行するものです。

本報告の刊行は、関係各位の多大なご理解とご協力の結果であることをここに記し、心からお礼を申し上げます。また、本書が今宿平野の歴史について、理解を深めるための資料として資するところがあれば幸いです。

平成24年3月16日

福岡市教育委員会
教育長 酒井龍彦

はじめに

- 1 本書は、2004（平成16）年から2005（平成17）年度にわたり、福岡市西区今宿町地内伊都土地区画整理事業地で福岡市教育委員会がおこなった、今宿五郎江遺跡第10次調査の報告である。
- 2 本書は今宿五郎江遺跡第10次調査について、分割して報告するうちの第3である。本書では、溝427及び包含層出土遺物のうち既報告の木製品以外の遺物を報告する。
- 3 発掘調査は、文化財保護法57条の3（改正前）に基づく通知を受け、埋蔵文化財保存についての協議を行った結果、福岡市都市整備局伊都区画整理事務所の依頼により、記録保存を目的として、教育委員会埋蔵文化財課（当時）が実施したものである。作業は、関係各位のご理解とご協力のもと、円滑に遂行することができた。この場で深く感謝申し上げる。
- 4 発掘調査は、埋蔵文化財課（現埋蔵文化財第2課）杉山富雄が担当し、2区および3区の調査では阿部泰之の協力を得た。本書編集は、杉山がおこなった。今回報告の遺物実測は、編者、森本幹彦、西拓己（福岡大学）が行った。
- 5 出土資料および調査記録は、福岡市埋蔵文化財センターで収蔵管理し、利用に供する予定である。

凡例

- 1 位置の記録は、伊都土地区画整理事業に伴い設置された基準点（日本測地系）を利用し、その座標値で示した。
- 2 図中に用いる方位は国土座標の座標北であり、真北から0° 19' 西偏している。
- 3 報告中では、遺構・遺物に対し、調査中から整理の過程を通じて登録した通し番号を表記した。また、報告後、これを収蔵管理に際しての登録番号とする。このため、報告中の表記が煩雑となるが、調査から収蔵までの過程の情報を一貫して管理し、台帳・図・日誌等関係情報を極力参照、検証できるようなかたちで残してゆきたいとの意図からである。また、番号の種別を明示する必要のあるときは、遺構については区分の記号M、遺物については記号Rを付している。

調査番号	0420		
調査地地番	福岡市西区今宿町 地内	分布地図番号	112
工事面積	130 ha	調査対象面積	10,000 m ²
調査実施面積	2,998 m ²	調査期間	2004年4月4日～2005年7月6日

本文目次

1. 今宿五郎江遺跡第10次調査の概要 発掘調査の概要、調査報告	1
2. 溝427 出土遺物	
(1) 溝427 の土層	1
(2) 溝427 出土遺物	1
25 層出土土器、16 層出土土器、 18 層出土土器、22 層出土土器、 半島系土器 ガラス小玉、銅鏡、 貨泉、土製品、紡錘車、石鍤、未 分類の石器(縁部潰れ石器)、叩石、 砥石、石包丁、石斧	
3. 包含層出土遺物	
(2) 包含層出土遺物	4
瓦、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、 白磁、越州窯系青磁、輸入陶磁器、 綠釉陶器、中世陶磁器、石鏡、繩 文土器、弥生土器・土師器、石鍤、 砥石、鋳型、鉄器、銅鏡、銅鏡、 銅製鋏先	

図目次

図 1 今宿五郎江10次地点位置図 (1 : 2000)	iv
図 2 今宿五郎江10次地点全体図 (1 : 500)	2
図 3 今宿五郎江10次地点土層断面模式図	4
図 4 溝427 25層出土土器 (1 : 4)	5
図 5 溝427 16層出土土器 (1) (1 : 4)	6
図 6 溝427 16層出土土器 (2) (1 : 4)	7
図 7 溝427 16層出土土器 (3) (1 : 6)	8
図 8 溝427 16層出土土器 (4) (1 : 6)	9
図 9 溝427 16層出土土器 (5) (1 : 4)	10
図10 溝427 16層出土土器 (6) (1 : 4)	11
図11 溝427 16層出土土器 (7) (1 : 4)	12
図12 溝427 18層出土土器 (1) (1 : 4)	13
図13 溝427 18層出土土器 (2) (1 : 4)	14
図14 溝427 22層ほか出土遺物 (1 : 4, 1 : 1)	15
図15 溝427 出土土製品・石器(1) (1 : 2)	16
図16 溝427 出土石器 (2) (1 : 2)	17
図17 溝427 出土石器 (3) (1 : 2, 1 : 4)	18
図18 溝427 出土石器 (4) (1 : 2)	19
図19 溝427 出土石器 (5) (1 : 3)	20
図20 溝427 出土石器 (6) (1 : 3)	21
図21 溝427 出土石器 (7) (1 : 2)	22
図22 包含層出土遺物 (1) (1 : 4)	23
図23 包含層出土遺物 (2) (1 : 4)	24

図24 包含層出土遺物 (3) (1 : 4)	25
図25 包含層出土遺物 (4) (1 : 4)	26
図26 包含層出土遺物 (5) (1 : 3)	27
図27 包含層出土遺物 (6) (1 : 3)	28
図28 包含層出土遺物 (7) (1 : 3)	29
図29 包含層出土遺物 (8) (1 : 3)	30
図30 包含層出土遺物 (9) (1 : 3)	31
図31 包含層出土遺物 (10) (1 : 2)	32
図32 包含層出土遺物 (11) (1 : 1, 1 : 2, 1 : 3)	33
図33 包含層出土遺物 (12) (1 : 1)	34
図34 包含層出土遺物 (13) (1 : 1, 1 : 2)	35

表目次

表 1 遺物観察表 (1)	36
表 2 遺物観察表 (2)	37
表 3 遺物観察表 (3)	38
表 4 遺物観察表 (4)	39
表 5 遺物観察表 (5)	40
表 6 遺物観察表 (6)	41
表 7 遺物観察表 (7)	42
表 8 遺物観察表 (8)	43
表 9 遺物観察表 (9)	44
表10 遺物観察表 (10)	45
表11 遺物観察表 (11)	46
表12 遺物観察表 (12)	47
表13 遺物観察表 (13)	48
表14 遺物観察表 (14)	49
表15 遺物観察表 (15)	50
表16 遺物観察表 (16)	51
表17 遺物観察表 (17)	52



図1 今宿五郎江10次地点位置図 (1:2000)

1. 今宿五郎江遺跡第 10 次調査の概要

発掘調査の概要

今宿五郎江遺跡第 10 次調査では、遺跡の中心となる台地の南東の周縁部に位置し、台地落際から東の谷部までを含む範囲に調査区を設定した。

発掘調査は平成 16(2004) 年度から翌 17 年度まで継続し、調査面積は 2,998m² となった。

調査遺構は、西の 9 次地点から続き、段丘崖線に沿い掘削されたものと考えられる溝 427 のほかに弥生時代から中世に至る各時期のものが含まれる。また溝 427 に重複堆積する 5b 層の他、重層的に生成した包含層も調査した。結果、遺物量は弥生土器を中心としてコンテナ 1,430 箱ほどの分量となった。その大半は溝 427 及び包含層 5b 層からの出土である。また、木質遺物も多数含まれている。

調査報告

本書を含め分冊刊行した。報告 (1)* で調査概要及び、溝 427 以外の遺構と出土遺物について報告した。報告 (2)** で、溝 427 及び出土木製品ならびに、包含層及び他遺構出土木製品について報告した。続く本書では、溝 427 及び包含層出土遺物について報告する。

遺物個々についての記述は、巻末表に一括し掲げた (表 1 ~ 17)。表は遺物番号順に配列している。

2. 溝 427 出土遺物

(1) 溝 427 の土層

溝 427 の埋積土層は上位から 25 層、16 層、18 層、22 層にまとめた。25 層は、調査区北半部に分布する。団粒状の地山土を含み、木炭の薄層を挟む部分もあって、人為的な要因で形成された可能性がある。16 層は、黒褐色泥炭質の粘土層である。18 層は、泥炭質粘土と砂層のレンズ状の互層となっている部分である。22 層は溝最下層で、黒褐色泥炭質粘土層である。16 層・22 層は静水環境下での、18 層は流水環境下での生成か。土器類の出土量は、16 層で最も多く、次いで 18 層、25 層、22 層の順である。出土したのは搬入土器を除きいずれも弥生土器である。

(2) 溝 427 出土遺物

土器は層ごとに、その他の遺物は器種ごとに示す。

25 層出土土器 図 4 に表ほかを示す。甕 7523 は、底部がやや凸面状。3146 は外面を箆削り調整した丸底で、いずれも中位以上の体部に叩き目調整痕が残る。

16 層出土土器 図 5・6 に壺、図 7・8 に大形壺、図 9 に高环ほか、図 10・11 に甕及び器台を示す。壺底部はやや凸面状のものと平底のものがある。大形壺のうち、4272・7509・0531・0544・7511 は調査区中央部、溝西岸側から投棄された土器群に含まれる。図 9 高环 7473、注口 6807 は搬入土器である。杯 7241 は、内面中に黒色樹脂が付着している。漆か。甕底部はやや凸面状となるものがある。図 10 甕 6072 は台付き。図 11 甕 7490・7488 は窓を設ける資料である。

18 層出土土器 図 12 に壺、高环ほかを、図 13 に甕、器台を示す。壺 6326、7480 は搬入土器で、前者は東海系、後者は山陰系とする資料である。鉢 1381 は焼成後底部に穿孔を行う。甕は各様の口縁部形状の資料がある。7491 は窓付き甕である。

22 層出土土器 図 14 に示す。7514 は台付き甕、右列の 3111、7478 は手捏ね土器、3064 も整形を同様の手法で行っている。焼成も甘く、樹皮状に剥落する。

半島系土器 例数が少ないため、別位置資料もまとめて図 14 に示す。5702 以下左列の 4 点が溝 427 出土資料で、6972 が瓦質土器であるほかの 3 点は楽浪系土器である。他は、包含層 5b 層他か

*『今宿五郎江 7 ~ 今宿五郎江第 10 次調査報告 (1) ~』福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1009 集 2008

**『今宿五郎江 10 ~ 今宿五郎江第 10 次調査報告 (2) ~』福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1110 集 2011

らの出土である。9686・6229は他資料とよく似た胎土で、瓦質、灰色の土器であるが、口縁端にかかる調整は刷毛目調整と見える資料である。

ガラス小玉 例数が少ないため、他位置出土資料もまとめて図14に示す。このうち、溝427出土資料は1262で、18層からの出土である。その他は包含層からの出土で、位置は台地部と谷部とで半ばする。いずれも、材質は明るい青色半透明のガラスで、発泡し、ややにぶい光沢をもつ。重量はいずれも0.1gを前後する値となる。

銅鑼 出土例数が少ないとから、図32・33に纏めて示す。全15点のうち、溝427出土資料は掲載順に131・1081・1836・893の4点があり、25層出土131のはかは16層からの出土である。それ以外のうち、2850は矢板列1058+矢板痕跡埋積土から出土した。その他は包含層から出土した。

本調査区出土銅鑼は身の部分に注目して分類することができる。図33の2850以下、3832までと893以下、図34の405・738までの2群である。前者は茎から続く鑼が刃部より一段厚く鋸出されたことがわかるもので、刃付けの研磨が中央に及び明瞭な稜を成すまで行われるもの(2850・435)と、それまでは及ばないものとがある。いずれも鑼部と刃部との境界部が残り、極を形成している。1081は、極部を整により作出しているように見える資料である。

後者は、刃縁から鑼まで平滑な単一の面となるまで研磨が及ぶものである。こちらのほうは概して細身で、あるいは、同一素材を研磨段階で作りわけたものか。いずれも茎は長軸方向帯状の削り面で構成されており、断面多角形状。逆刺もこの工程のなかで整形される。他の加工のみられない例でも、逆刺部の削り痕は明瞭である。

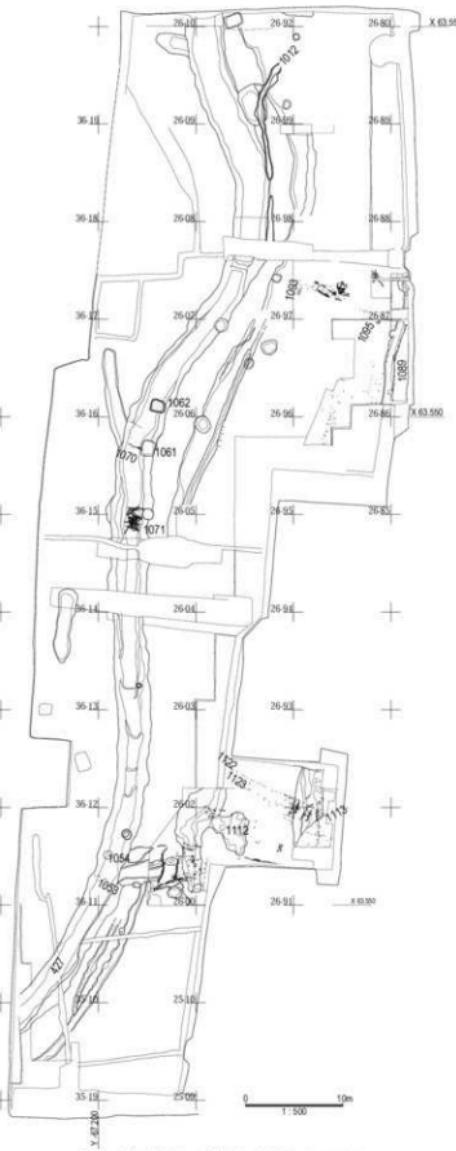


図2 今宿五郎江10次地点全体図 (1:500)

※ 図中、ゴチック体は、遺構番号、明朝体は調査格子(100m×100m)を示す。

貨泉 図34上段に示す。1261は18層からの出土である。表面は溶出するものか、ごく薄い。銭面は明瞭である。

土製品 図15に示す。6164～2102は土製丸玉で、僅かに指押えの圧痕を残し整形する。

2595・2815・5019は土製円盤で、いずれも手捏ね整形。うち2815・5019は、中心部につまみ状の突起がつく。2595は表裏に円形の窪みをつけ、そこから刻線を刻んでおり、孔とそれに掛けた紐とも見える。他2点のうち、5019の突起には孔がある。紐を表現して鏡を模したものとするが、5019には縁辺の向かい合う位置に2孔を設けおり、蓋とも見える。

6287・8371はそれぞれ鋸鍤形、鍤形の網錐の形状をもつ。実際の用に供されたものか否かは判然としないが、形状としては要件を整えている。

紡錘車 図16下段に示す。大部分の石材は滑石であるが、変成岩、火山岩を利用するものが混じる。いずれも近傍の石材と見える。極端に大きさの違うものを除くと、ほぼ径4.8cmを中心とした範囲に納まるように見える。製作途上の資料もあり、加撃整形、研磨後の穿孔段階がわかる。穿孔は当初細い工具あたりをとり、その後仕上げ径の穿孔を行うような資料がそれぞれ出土している。

石錘 図16～18に示す。ほぼ全体に、加撃、削り、研磨による調整を行い整形するもの(図16・17、整形石錘)と素材の一部に加撃を加えて所要の部位を作り出すもの(図18、礫石錘)がある。石材は滑石製が大半である。ほかに玄武岩、片岩などを用いる。前者はさらに形状により、一端に平滑な面を作り出す鐘形(図16)と両端とも細くなる紡錘形(図17左列)、それらとはかけ離れた大きさのもの(図17右列)とに分類できる。さらに形状、紐溝のあり方から細分することができる(観察表)。

整形石錘鐘形のものは、長軸上にそれと直交する穿孔を1乃至2ヶ所行い、上端部とその間に溝を切る。下端面は他の部位より平滑になるものが多い。整形石錘紡錘形のものは、両端を結び表裏に溝を切るもののが一般的で、中央に周回する溝を切るもの、穿孔を行うものが混じる。

未分類の石器(縁部潰れ石器) 図19に示す。観察表では「敲打器」と記述する。模式的な例では、素材となる剥片の長辺側縁部に細かな剥離痕が連続し、更には打ち潰し状となるものがある。これが打面以外の周縁に及ぶもの、剥離、潰れ程度の強弱で変異がある。礫を利用し、同様な状態を示す資料もここに含める(図19下段)。

叩石 図20上段に示す。素材は円錐が一般的で、石材は砂岩、玄武岩、緑色岩を用いる。敲打痕だけでなく磨り面も残るものがあり、またその位置も各種の組合せがある。磨石との分別は難しい。

砥石 図20下段に示す。角柱状、板状等がある。5300は、2条の溝状の窪みが残る。軟質の砂岩で、むしろ磨石か。板状例は大形で、6939は砥面が凹面となる。その形状からより大形のものを分割したことがわかる。石材は殆どが砂岩と見えるものである。

石包丁 図21上段に示す。完成品だけでなく未成品も目立つ。石材は輝緑凝灰岩のほかに玄武岩、片岩など近傍の石材を用いた資料がある。6831は、刃部形状から組孔を1孔とするが、穿孔途中の

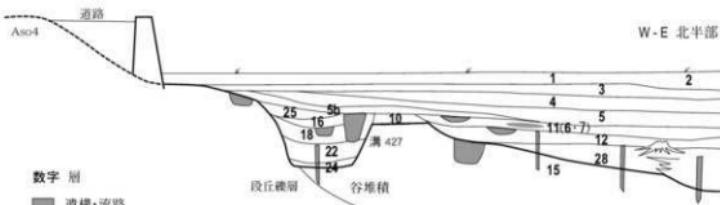


図3 今宿五郎江10次地点土壟断面模式図

工具痕が残る。途中破損したものの利用か。

石斧 図 21 下段に示す。6815 が柱状片刃石斧であるほかは、太形蛤歯石斧である。完成品の他、各段階の未成品がある。

3 包含層出土遺物

(1) 今宿五郎江第 10 地点の遺物包含層

包含層は、大きく 2 分することができる。溝 427 に重なる位置とその台地側、谷側両方を削り下げながら洗い出し状の堆積層である 5b 層と、溝 427 より谷部に形成されて主に谷部を重層埋積する砂層である。前者には 5 層下部、雨裂、凹地等、後者は、11 層、12 層以下の砂層がある。出土遺物の多くは、5b 層から出土している。

(2) 包含層出土遺物

瓦 図 22～25 に示す。軒瓦の出土ではなく、平瓦の分量が多い。いずれも凹面には布目压痕が残る。丸瓦のうち、前後端部を含む資料を図 22 に示す。凸面には叩き目調整痕の有無、格子目の形状、大小がある。側面には割り取り面が残る。図 23～25 に平瓦を示す。凸面には丸瓦と同様の叩き目のほか更に粗目の斜格子(図 24)、斜格子に平行線が加わる資料(図 23・24)ものがある。図 25 に凸面撫で調整による資料を示す。

以上の他に、図 25 に示す 340 は、怡土系瓦の前端部細片である。7082 は、鬼瓦の細片か、笠で深く細線を刻み込んで、左側辺部か。

土師器 図 26 上段に示す。丸底坏、高台坏、甕、壺のほかに、9731 は、焼成堅緻で、脚部に透し孔をもつ資料である。一見硯とも見えるが内底面は、緩い凹凸を残す平面となっている。

須恵器 図 26 下段、図 27 上段に示す。古墳時代後期以降各時期の資料を含む。6306 は小形の甕そうか。6957 は糸切底であり、あるいは施釉があったものか。

黒色土器 図 27 中段左列に示す 5133・6925 である。

瓦器 図 27 中段中・右列に示す。いずれも細片で、笠磨き調整は、幅広、疎である。

白磁 図 27 下段に示す。碗のほかに瓶がある。碗の口縁には、玉縁、端反りの資料がある。

越州窯系青磁 図 28・図 29 上段に示す。大半が碗細片資料である。輪高台、蛇の目高台がある。体部に接した位置でごく僅かの立ち上がりを見せるだけのものもある。図 28 中段の 5291 は皿、7062 は輪花碗、5248 は端反り碗の口縁部細片資料である。図 29 に示すのは、香炉(5209)、水注の各部(6873・6278)である。

輸入陶磁器 越州窯系青磁の他に各種少數づつ出土したので纏めて図 29 中段に示す。7448 は同安窯系青磁碗か、5231 は龍泉窯系青磁碗である。5021 は二彩壺か、5580 は長沙窯系陶器の貼花文部分である。5029 は緑釉碗で、胎土は極軟質。

緑釉陶器 図 29 下段に碗を、図 30 上段に皿を示す。圧倒的に碗が多い。碗の底部は輪高台、蛇の目高台及び糸切り底の資料がある。輪高台例の出土数が最も多い。蛇の目高台は、段を圓線で表現したような例がある。

中世陶磁器 図 30 上段に示す。6157 は、備前系陶器。5220 は明染付碗で輸入陶磁器。

石鍋 図 30 中段に示す。いずれも細片資料である。

繩文土器 図 30 下段に示す。上段 6297 以下 9752 までは粗製土器で、多孔質軟質である。繩文時代晚期か。

弥生土器・土師器 図 31 に示す。上段 7495 から 7504 は谷部の 11・12 層出土である。終末期弥

生土器、古墳時代前期土師器がある。7189・7466・7476は搬入土器である。

石錐 図32上段に示す。5b層出土で石錐破片を角柱状に整形、穿孔している。

砥石 図32上段に示す。板状で、条線が残る。

鋳型 図32に示す。5101は5b層出土の戈鋳型である。砥石として利用されたものか表面が削られている。凝灰質砂岩製、やや劣化が進み、部分的に器表剥落。

鉄器 図32に示す。256は5層出土の刀子、6626は11層出土の鉄斧である。

銅鏡 図33・34上段に示す。内容は先述した通り。包含層出土資料のうち、17層の1点を除くと5層、5b層及び関連遺構の出土である。

銅鏡 図34に示す。591は、全形の1/6程の鏡片である。薄肉彫りの鳥頭部と乳がのこり、平素縁であり、飛禽鏡か。文様及び乳の頂部が削られたように平坦になっている。

銅製鋤先 図34下段に示す。全て包含層5b層出土である。745はほぼ完存し、刃部の研ぎ、刃縁のはみ出しと見える状態も残っている。

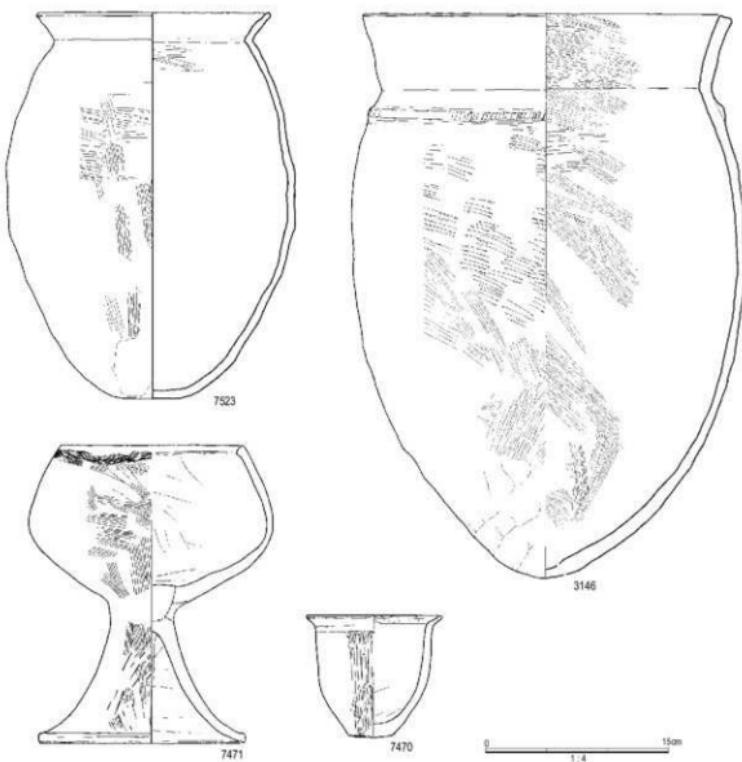


図4 溝427 25層出土土器(1:4)

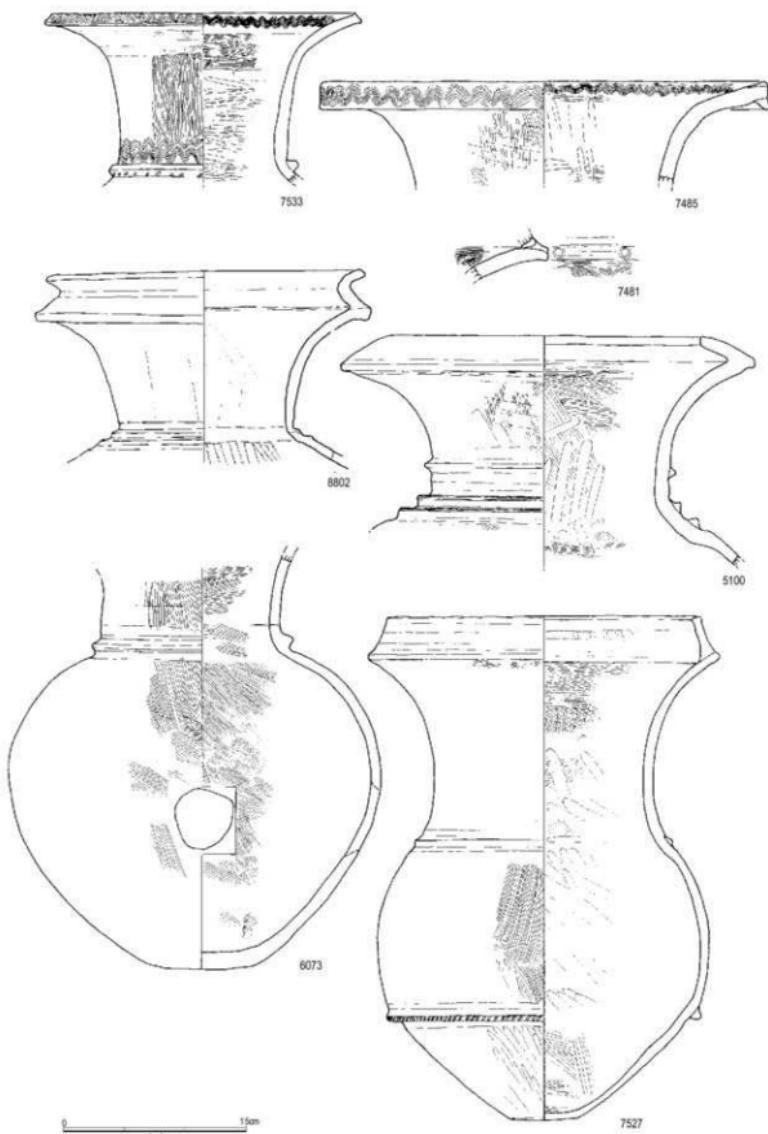


图5 满427 16层出土土器 (I) (1:4)

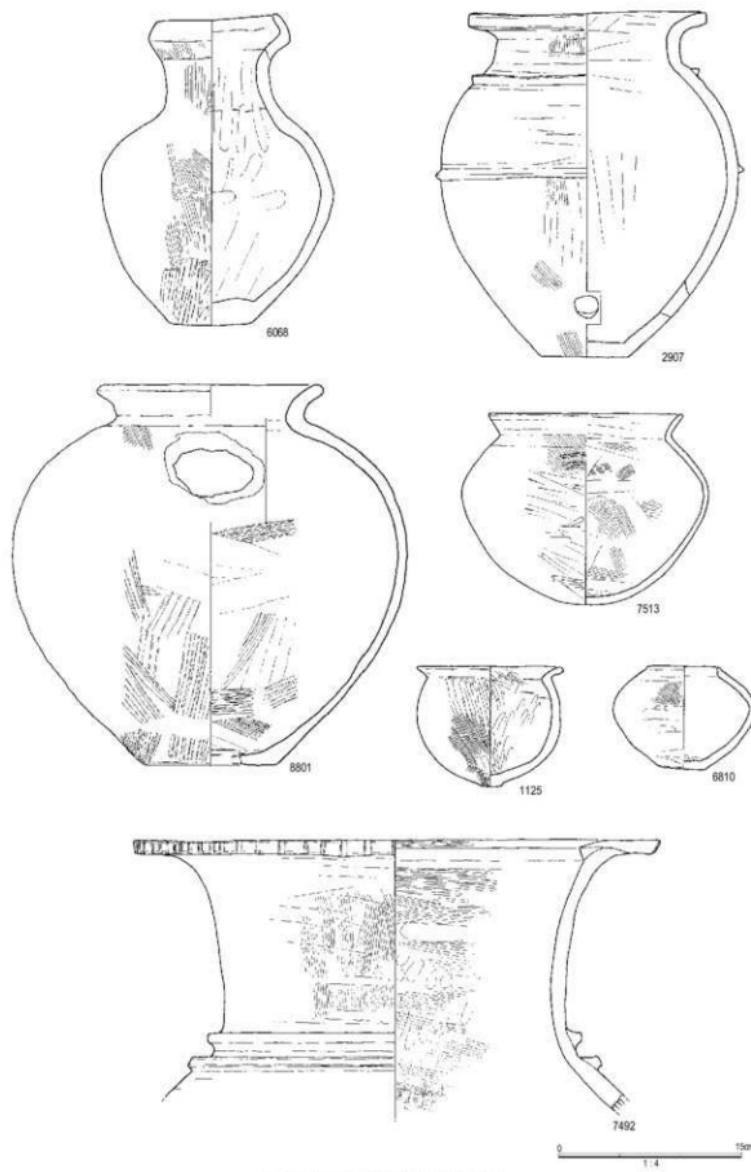


图6 满427 16层出土土器(2) (1:4)

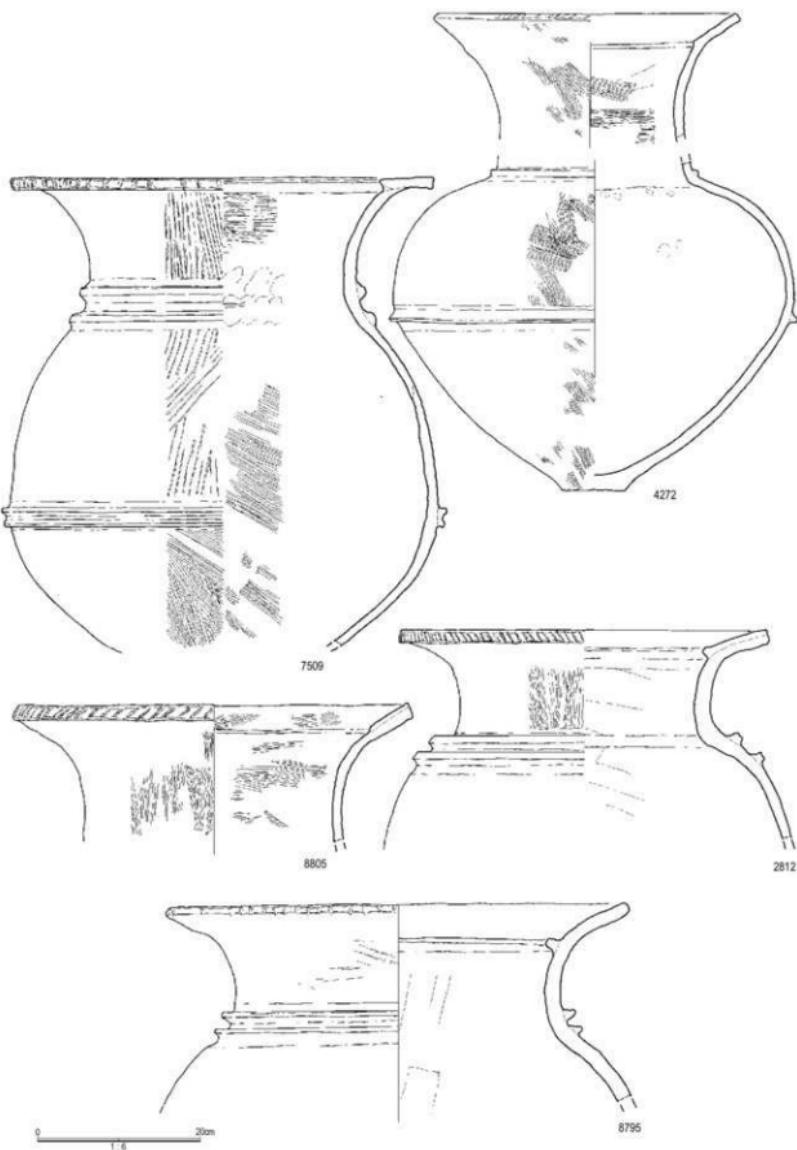


图7 满427 16层出土土器(3) (1:6)

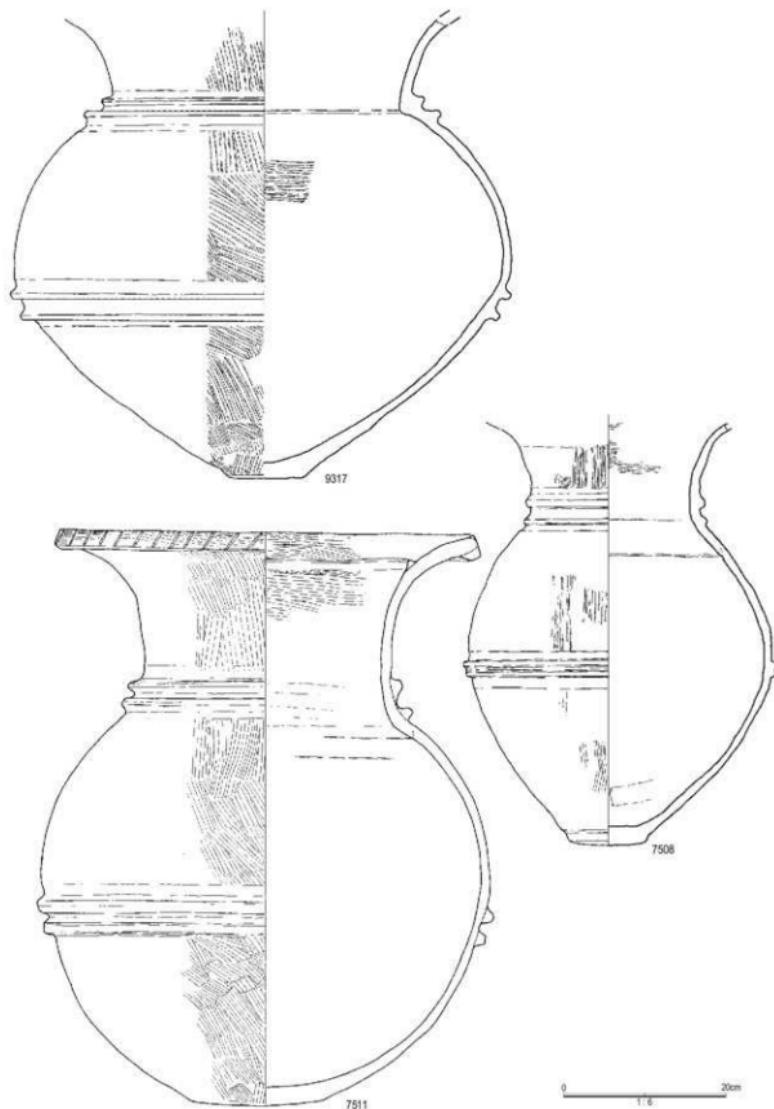


图8 满427 16层出土土器 (4) (1:6)

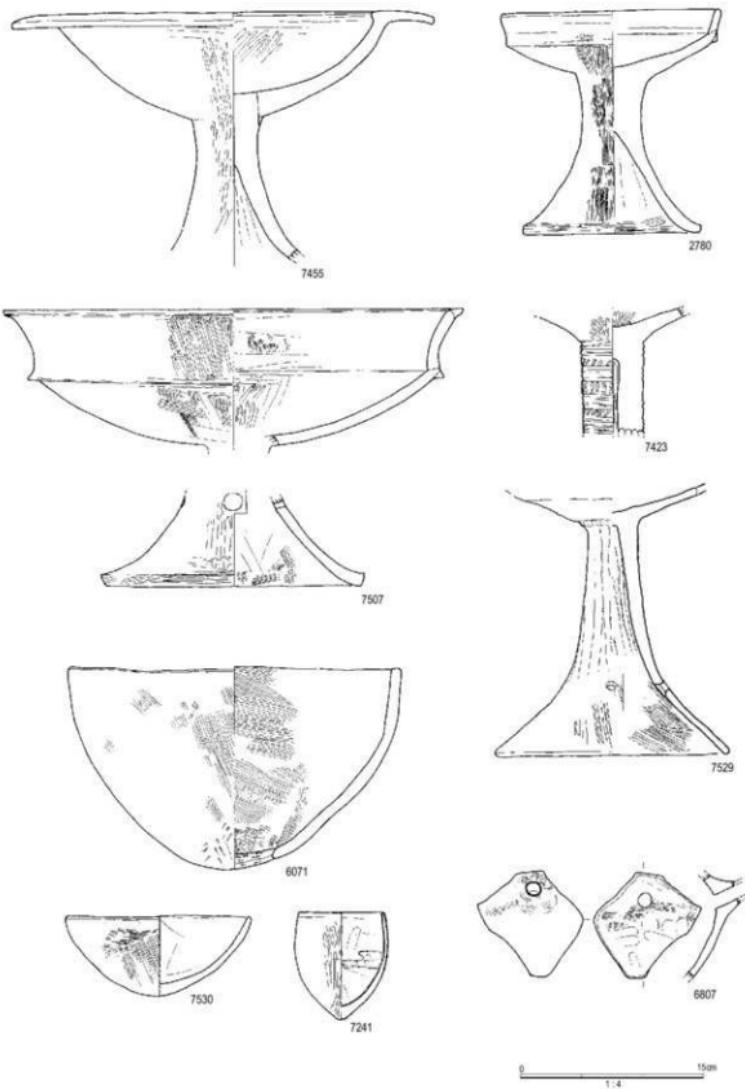


图9 满427 16层出土土器(5) (1:4)

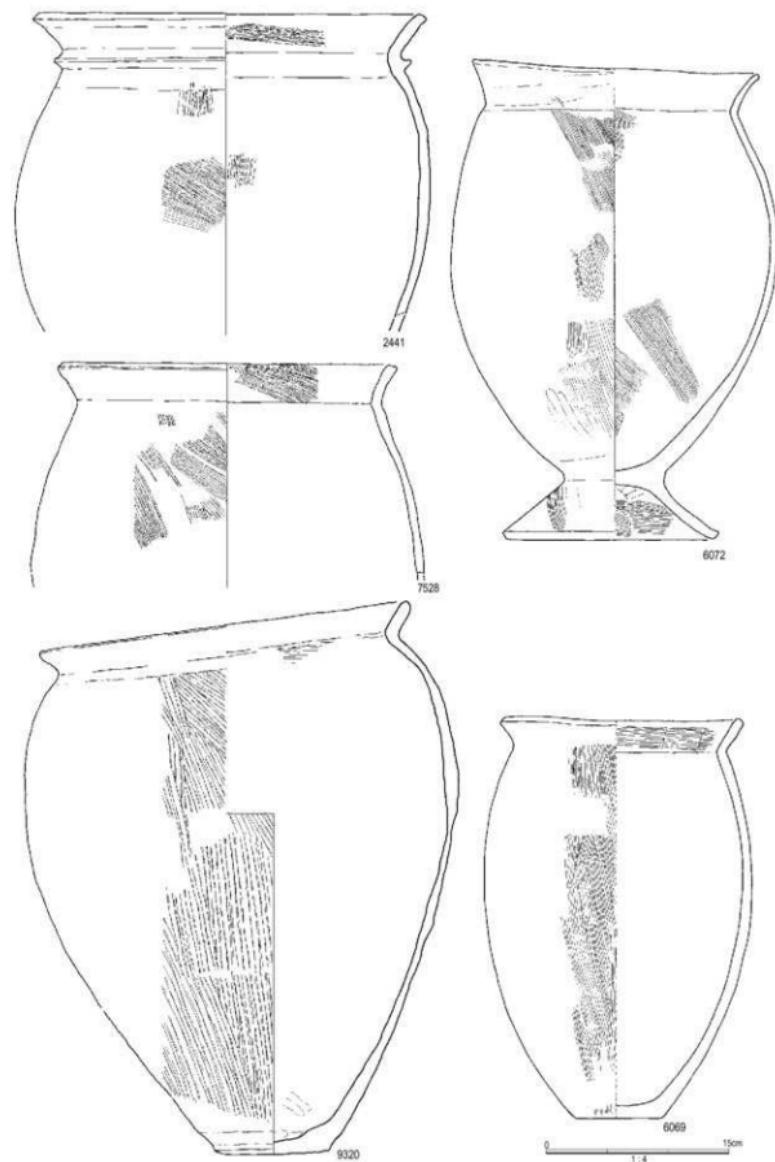


圖10 滿427 16層出土土器 (6) (1:4)

0 1:4 15cm

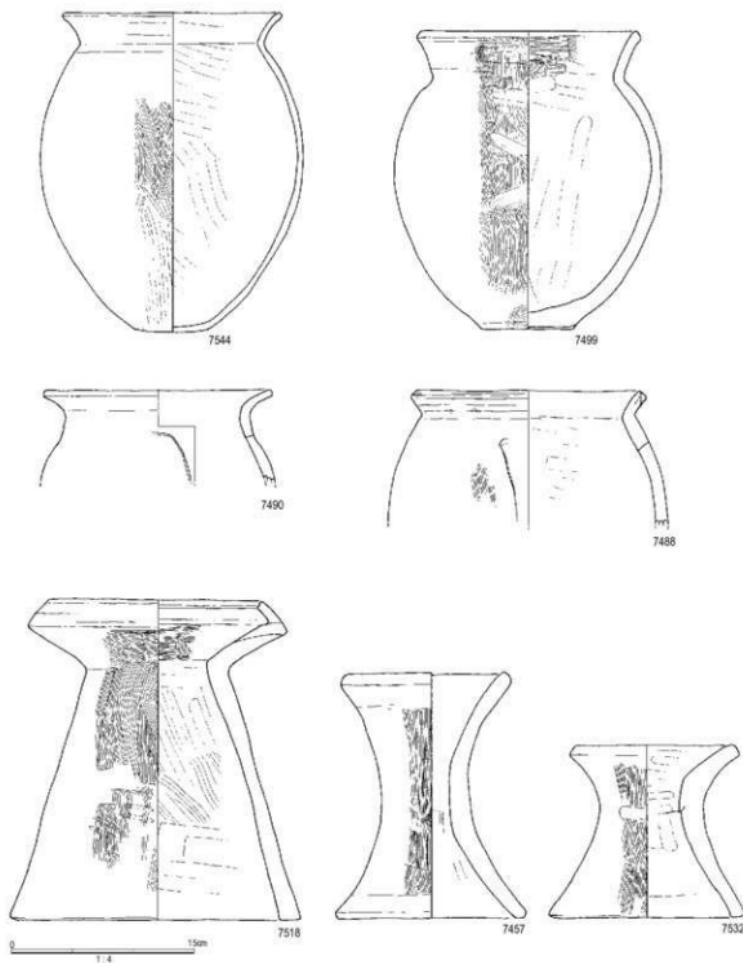


图11 满427 16 碗出土土器 (7) (1:4)

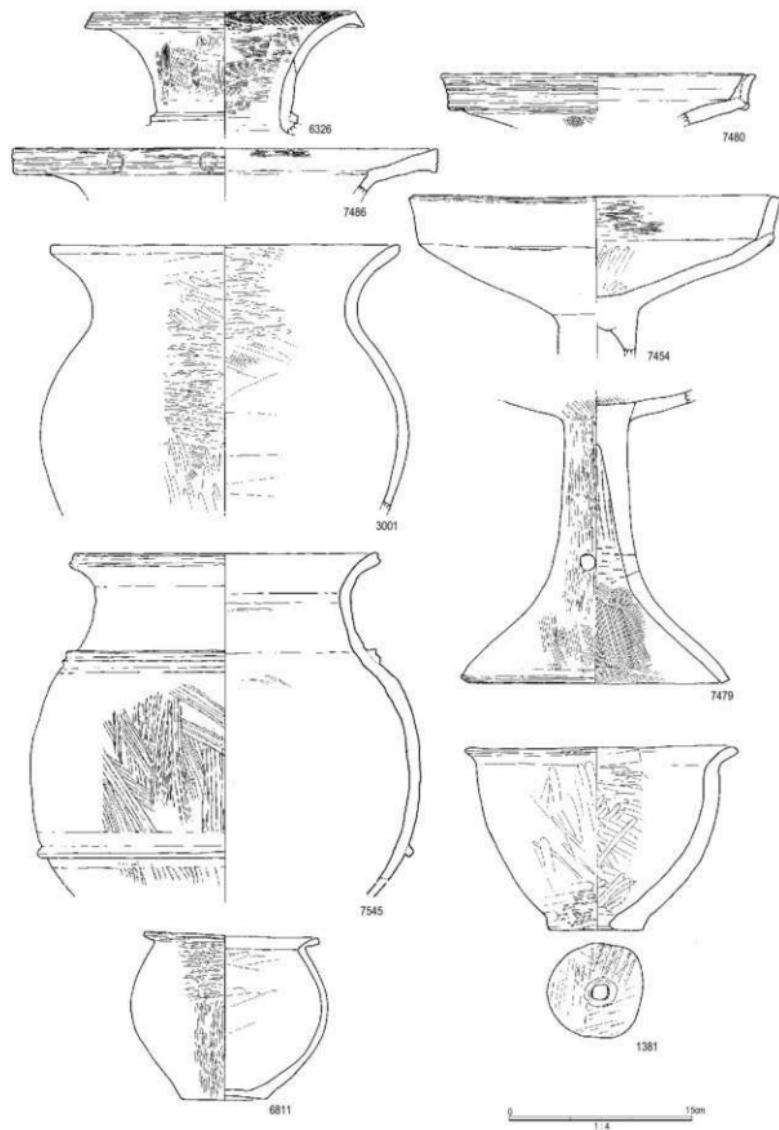


图12 满427 18层出土土器 (1) (1:4)

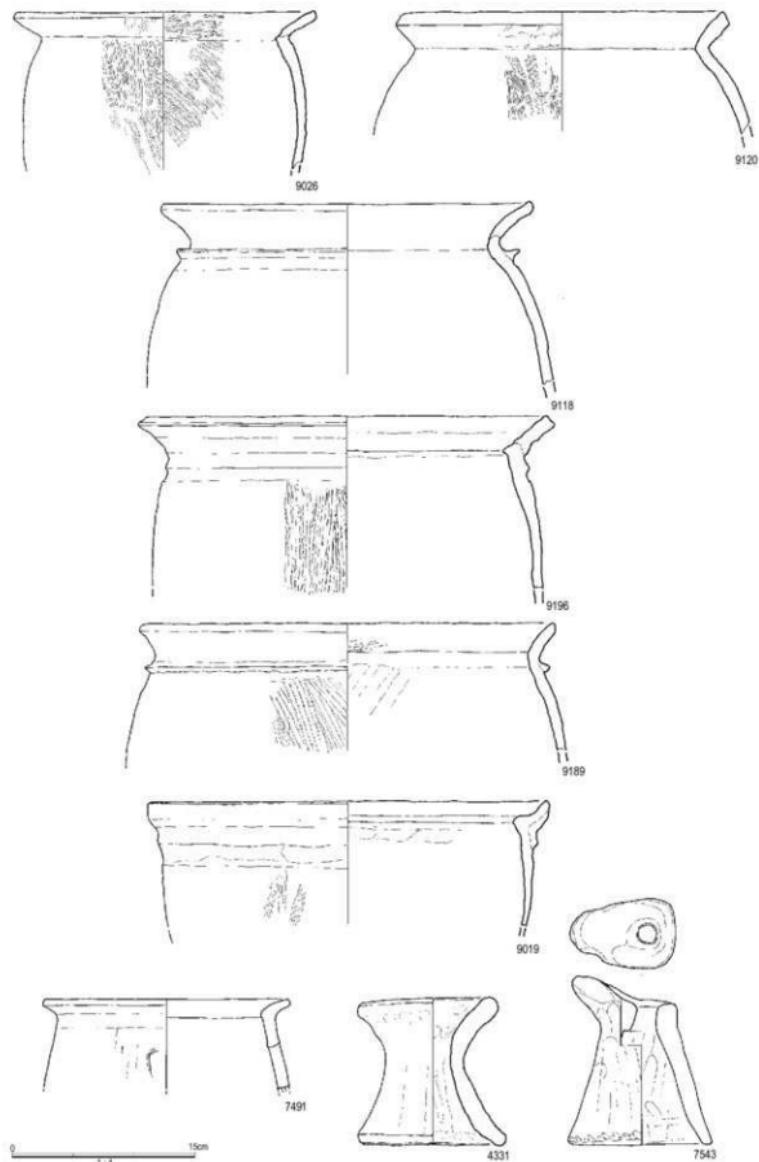


图13 满427 18层出土土器(2) (1:4)

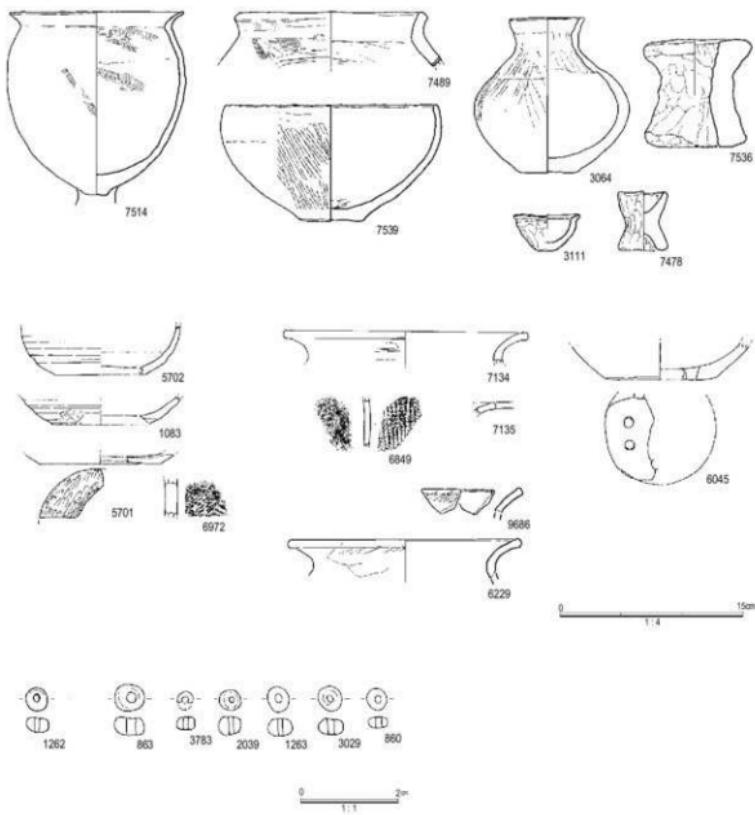


図14 溝427 22層ほか出土遺物 (1:4, 1:1)

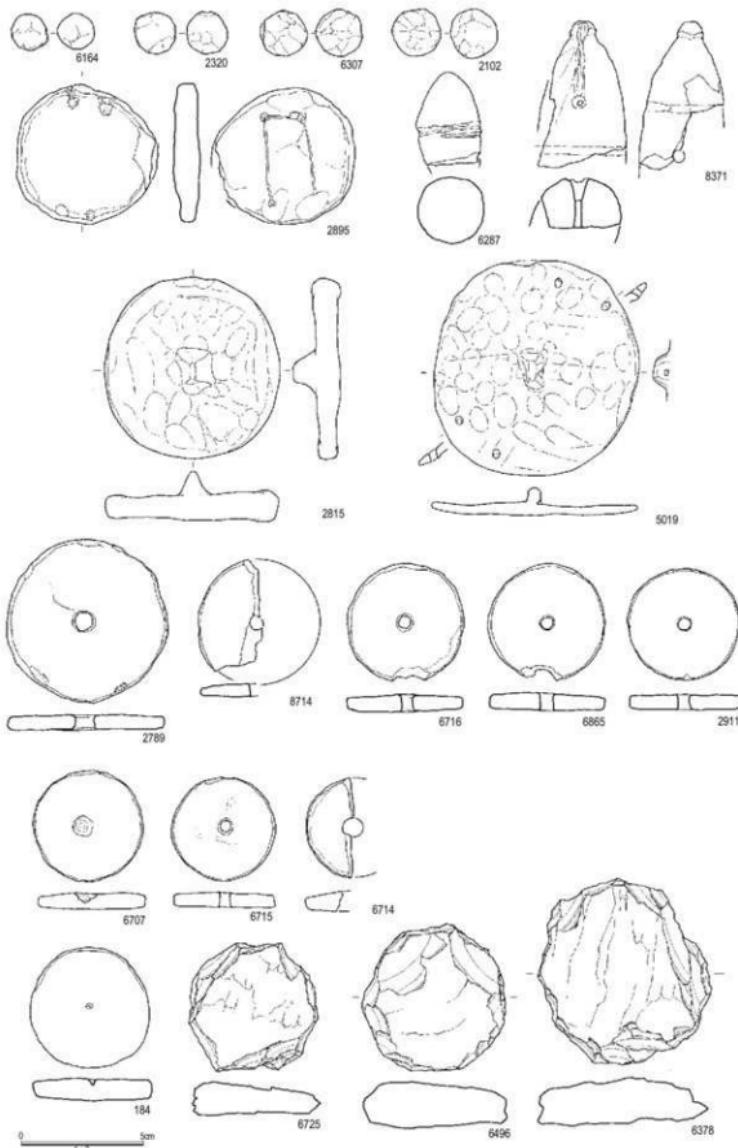


图15 满427出土土製品・石器(1) (1:2)

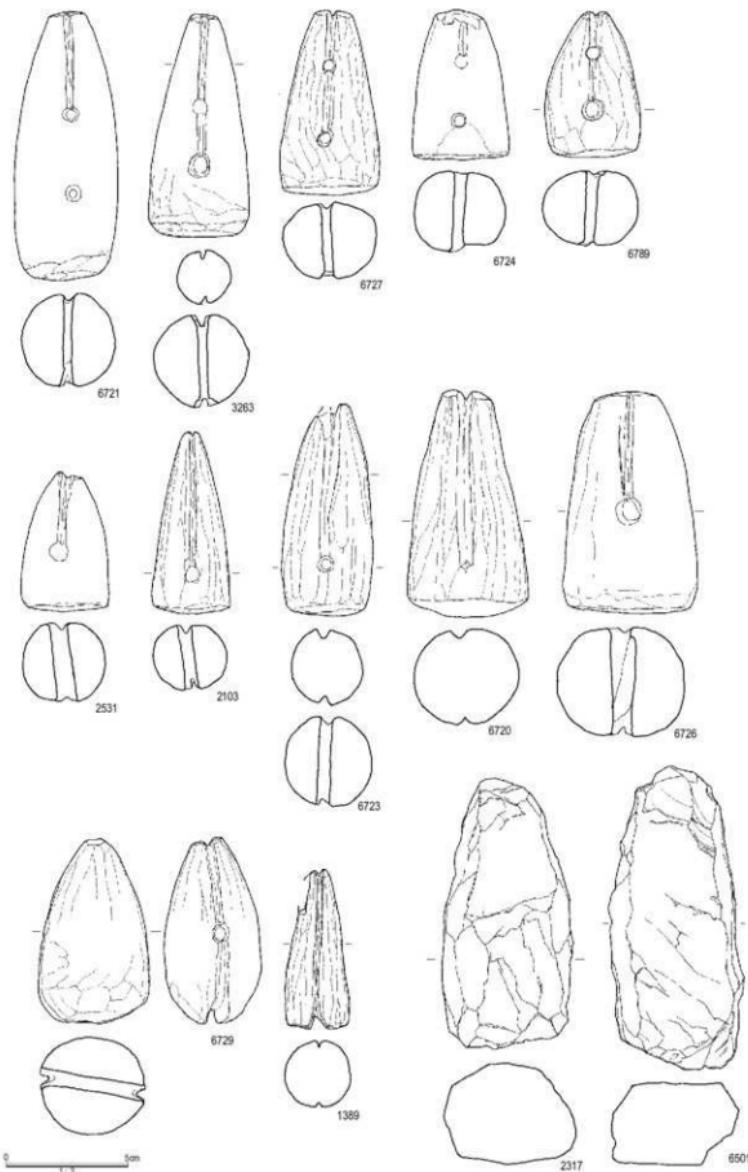


图16 满427出土石器(2) (1:2)

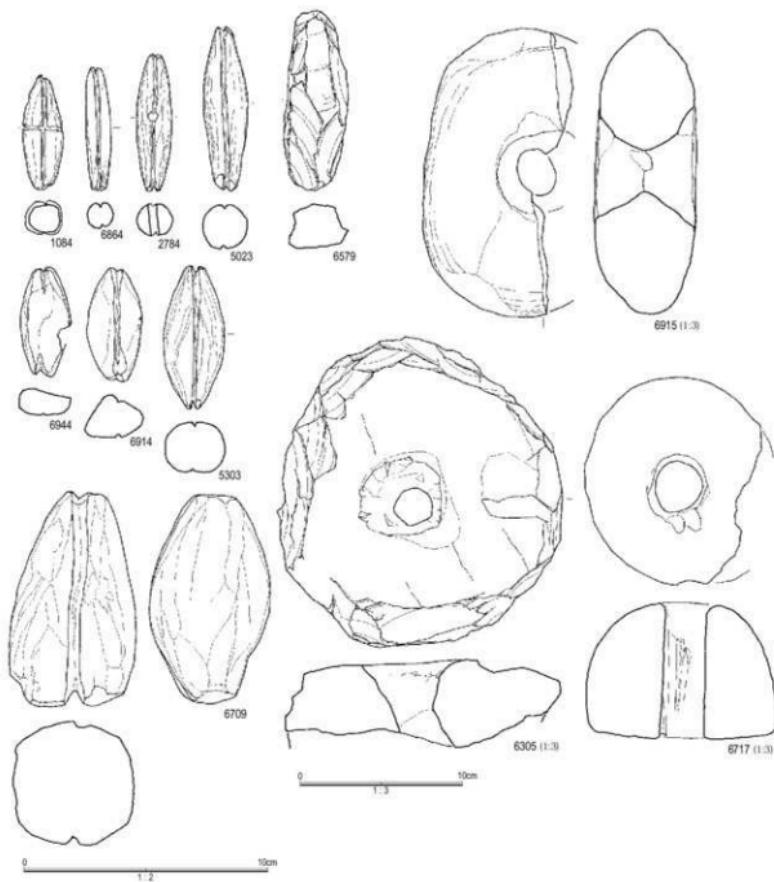


图17 满427出土石器 (3) (1:2, 1:4)

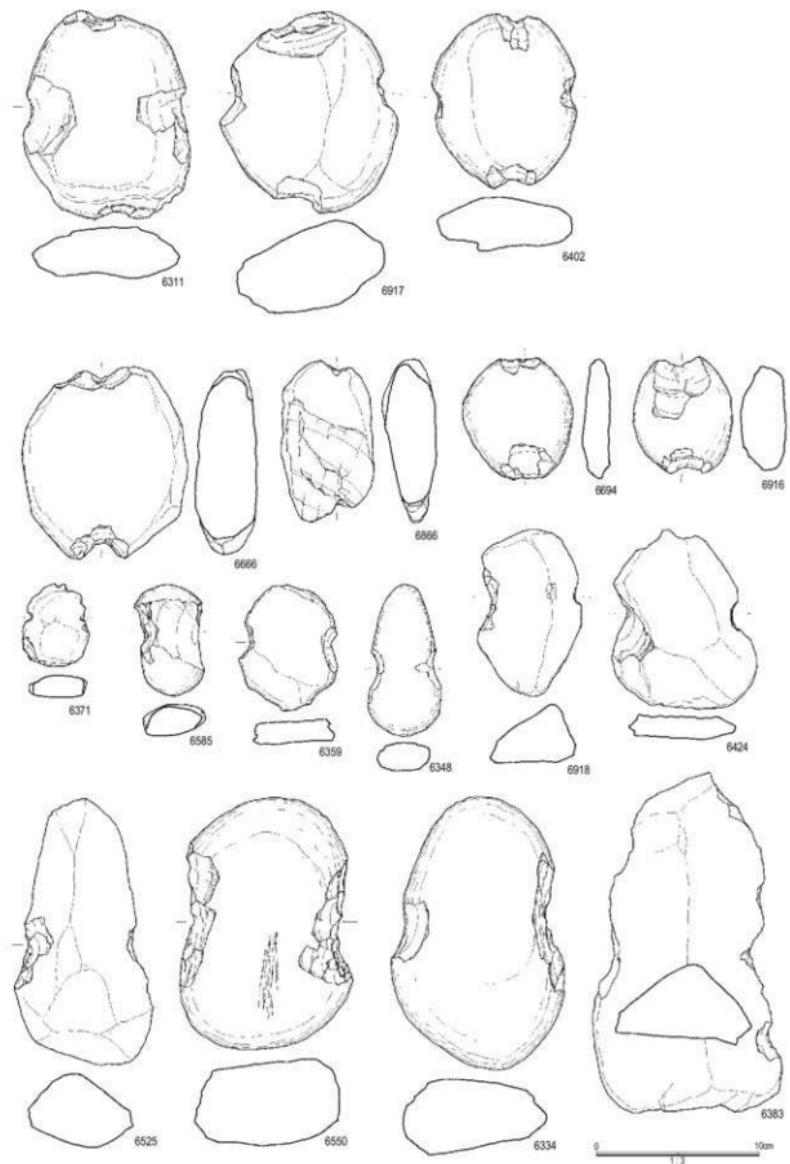


图18 满427出土石器(4) (1:2)

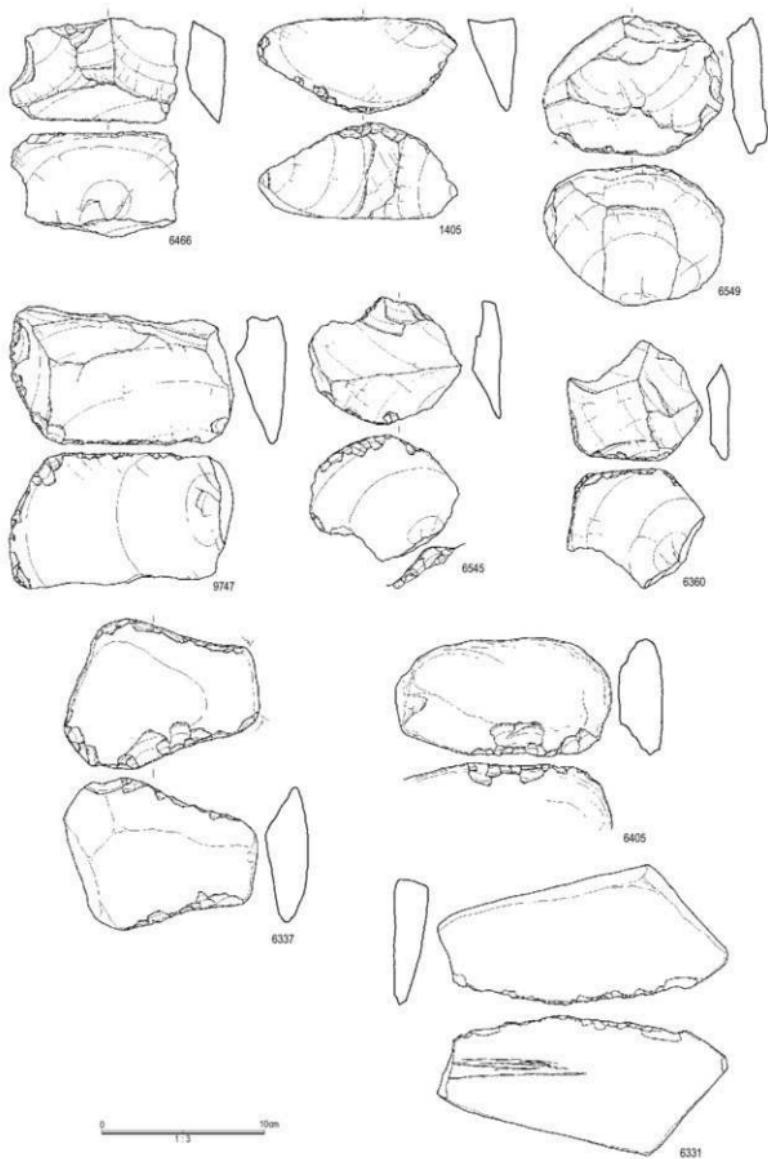


图19 满427出土石器(5) (1:3)



图20 满427出土石器(6)(1:3)

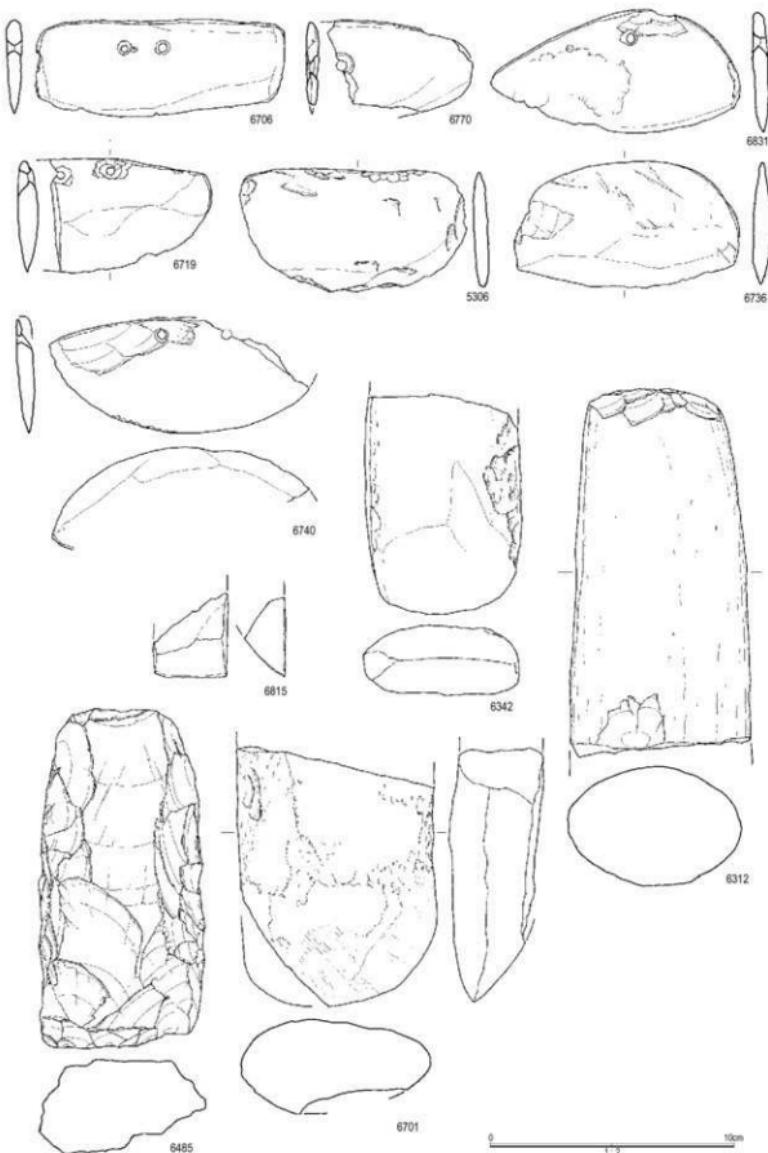


图21 满427出土石器 (7) (1:2)

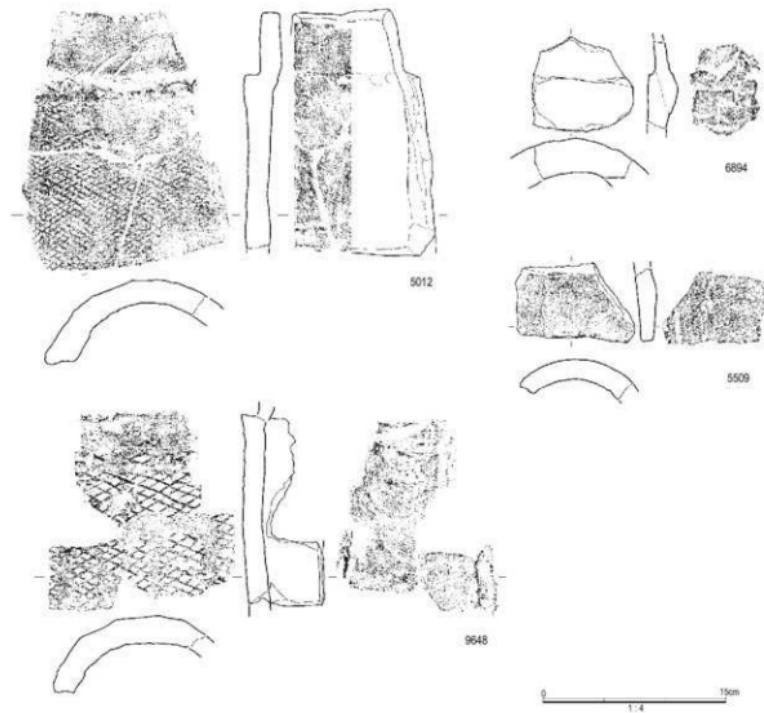


圖22 包含層出土遺物(1)(1:4)

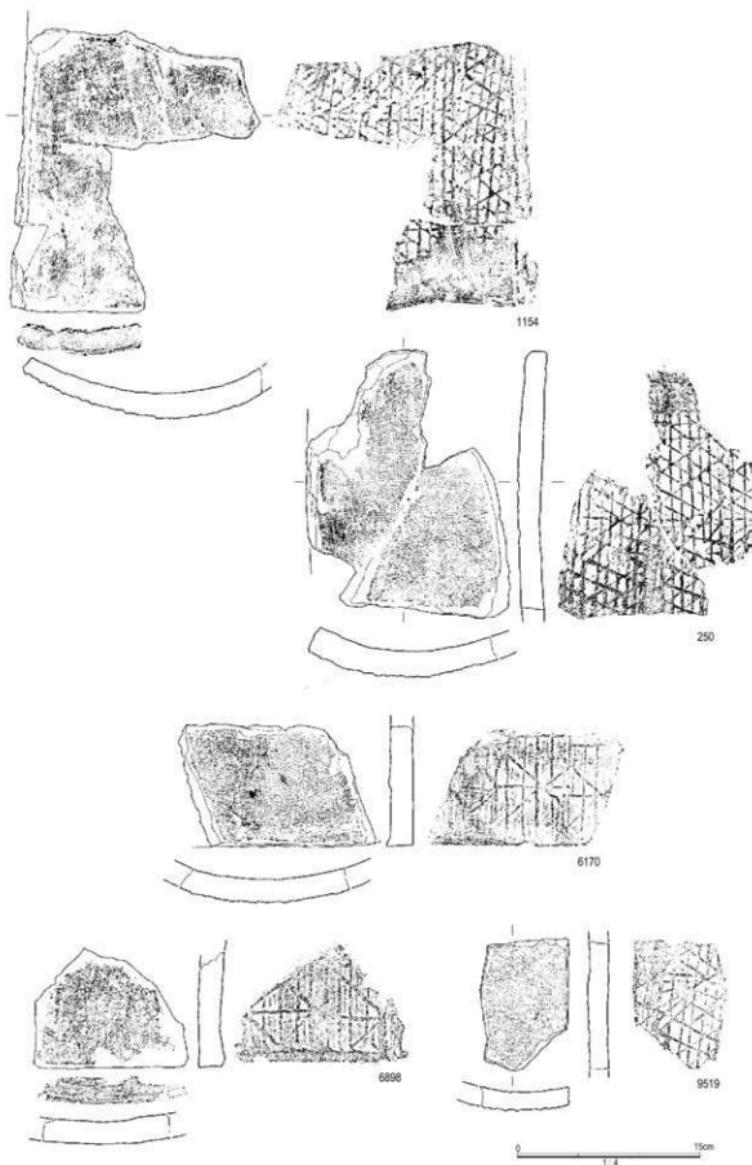


图23 包含层出土遗物(2) (1:4)

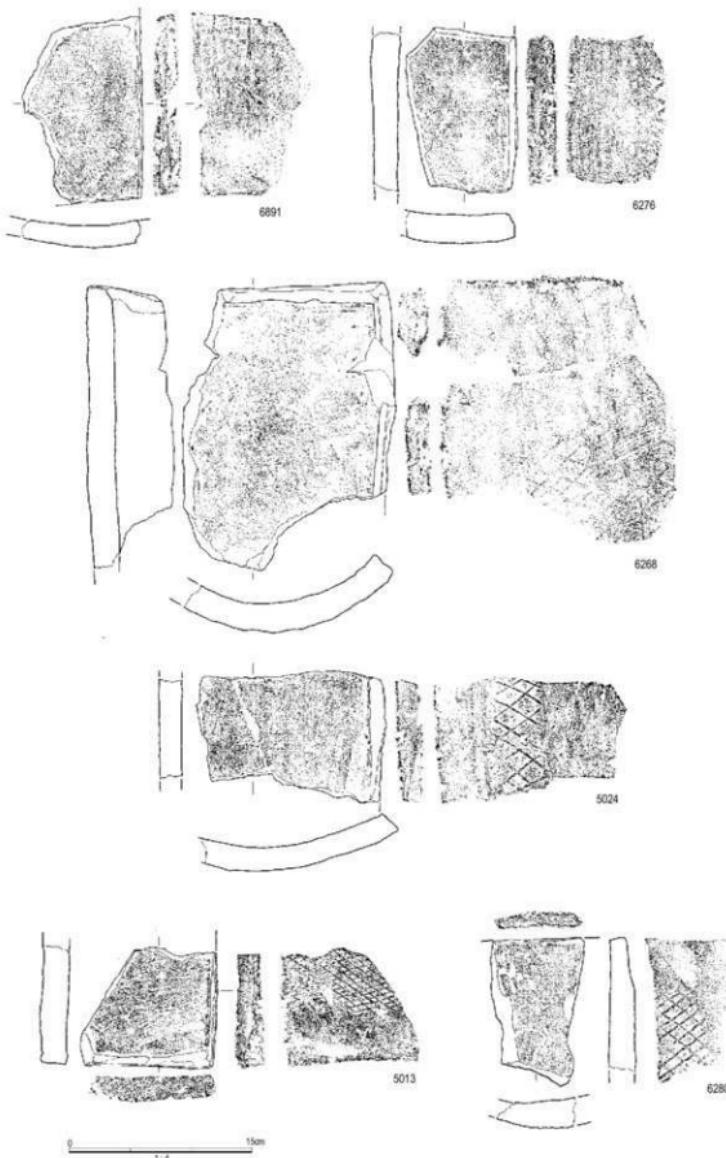


图24 包含层出土遗物(3)(1:4)

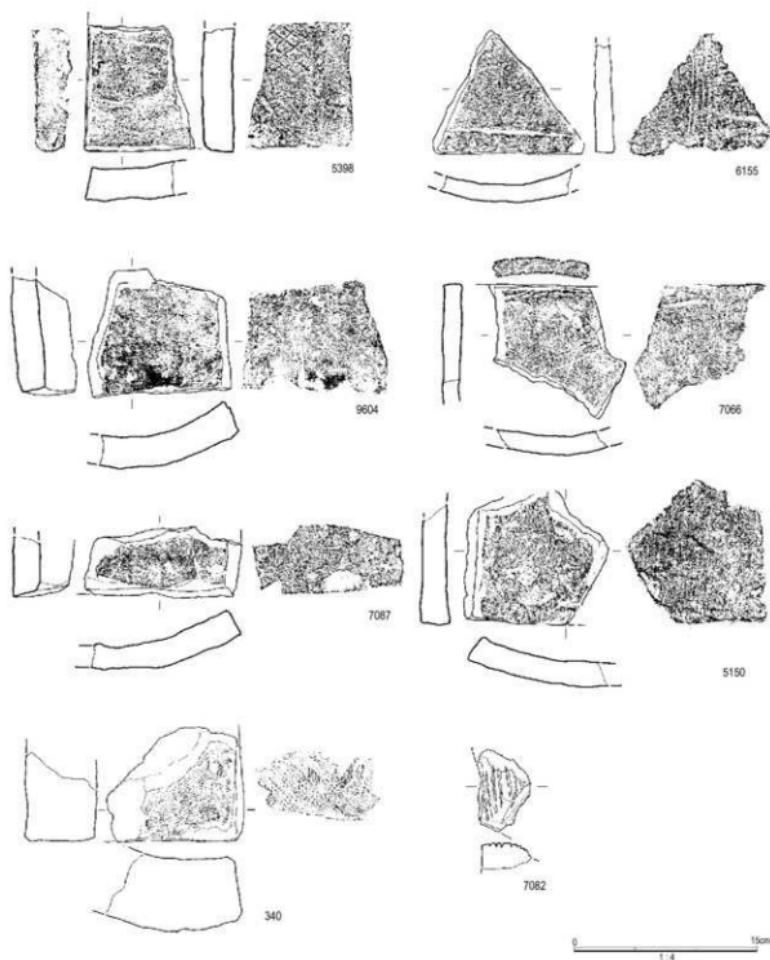


图25 包含层出土遗物(4)(1:4)

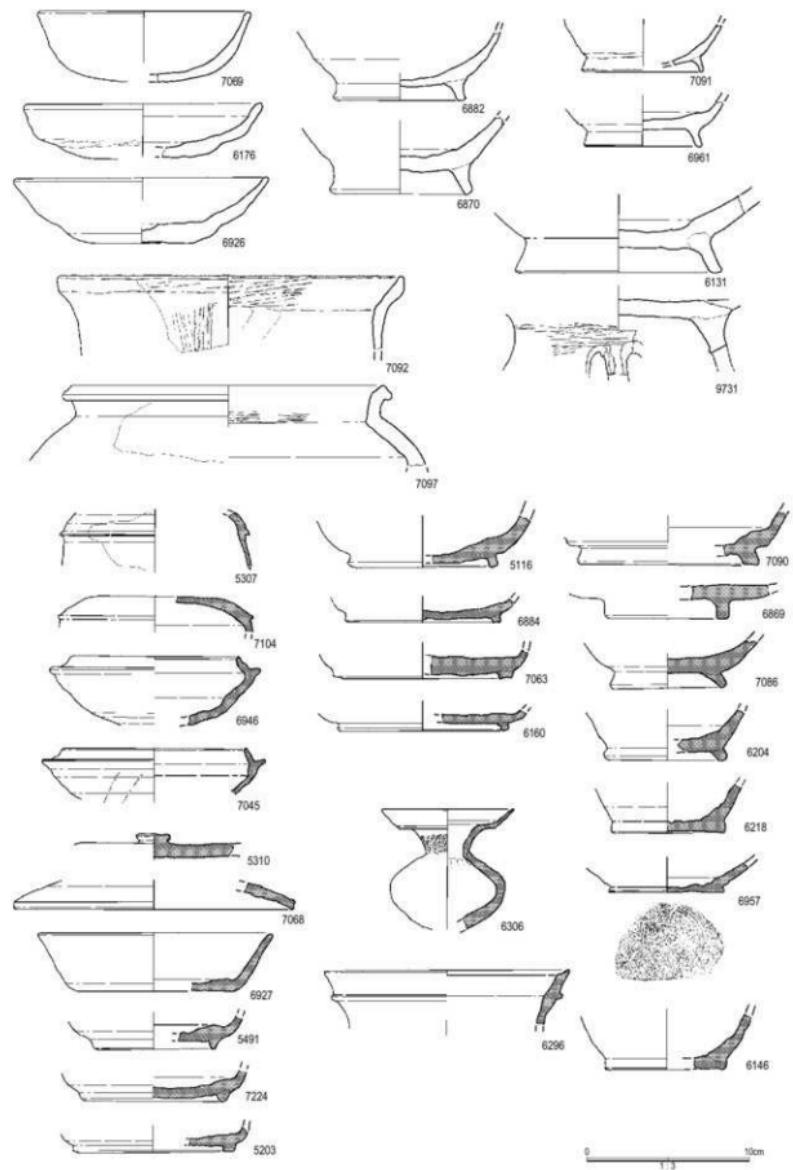
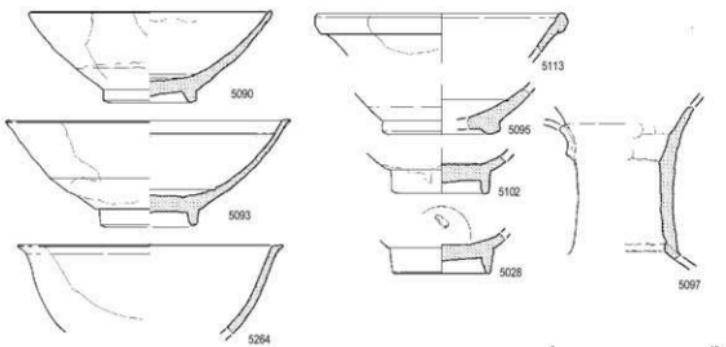
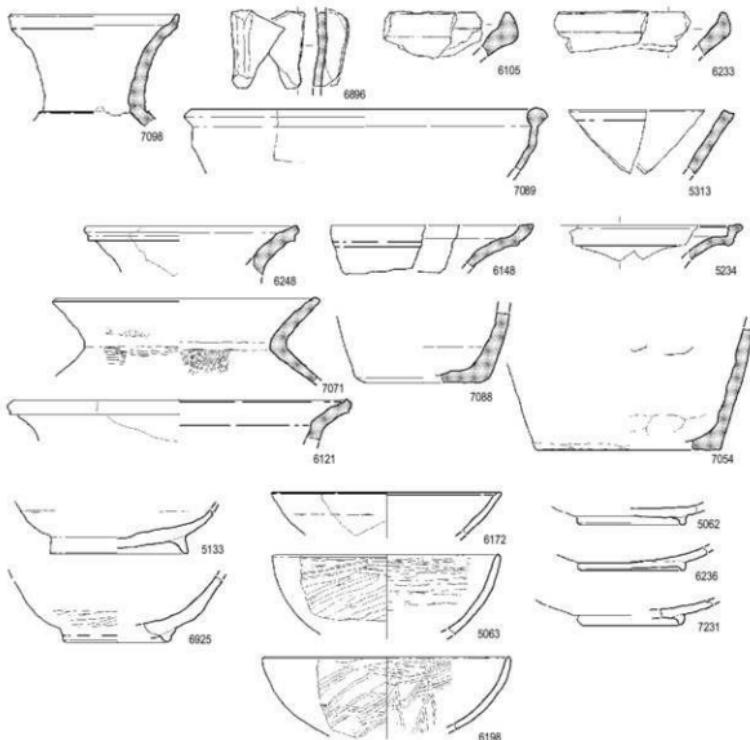


图26 包含层出土遗物(5) (1:3)



0 1:3 10cm

图27 包含层出土遗物 (6) (1:3)

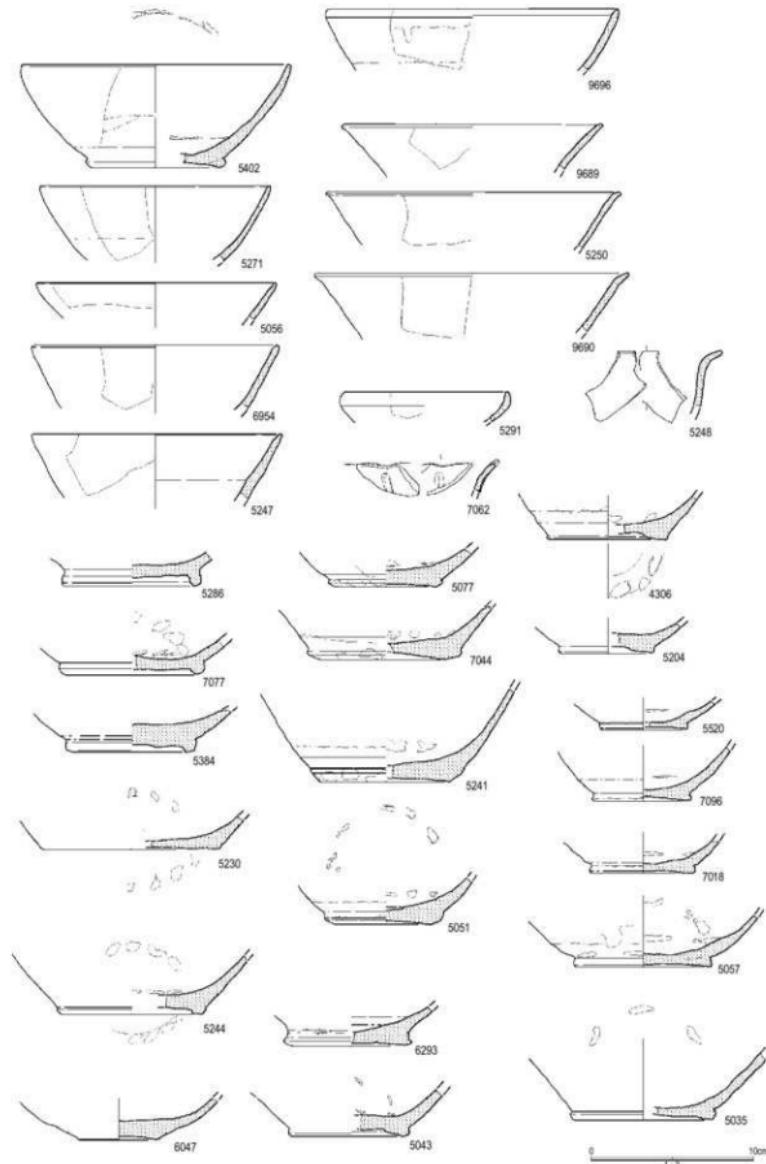


图28 包含层出土遗物(7) (1:3)

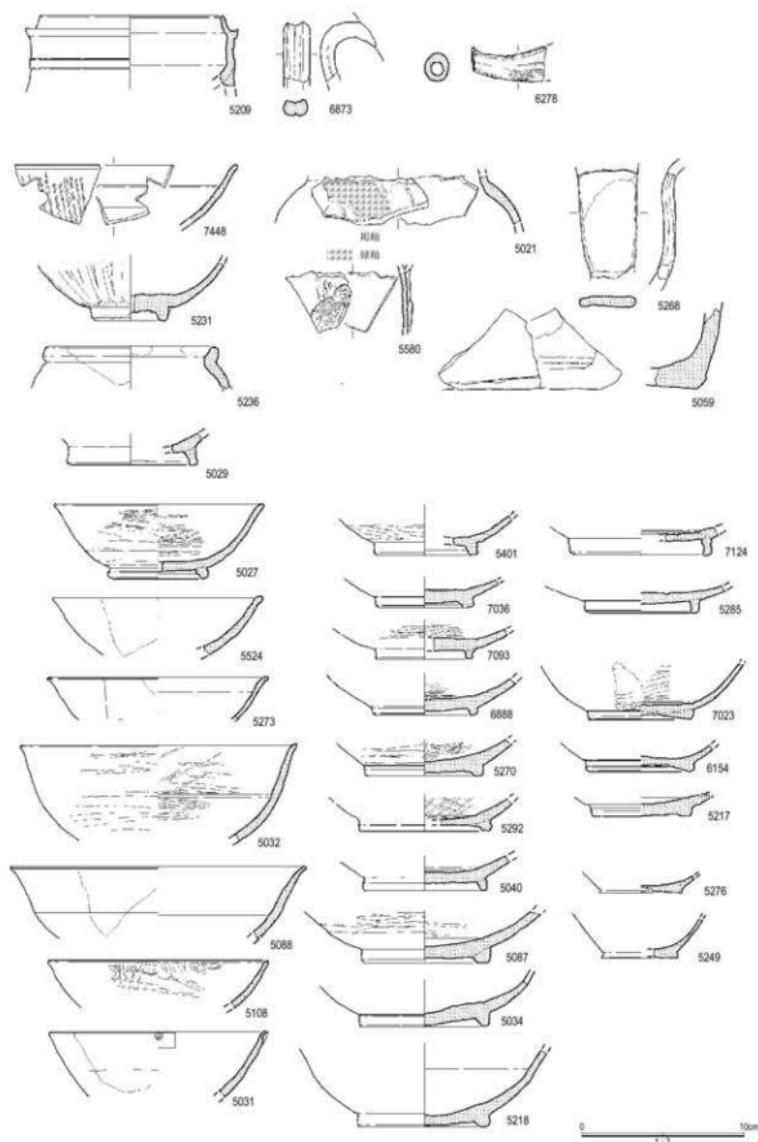


图29 包含层出土遗物(8)(1:3)

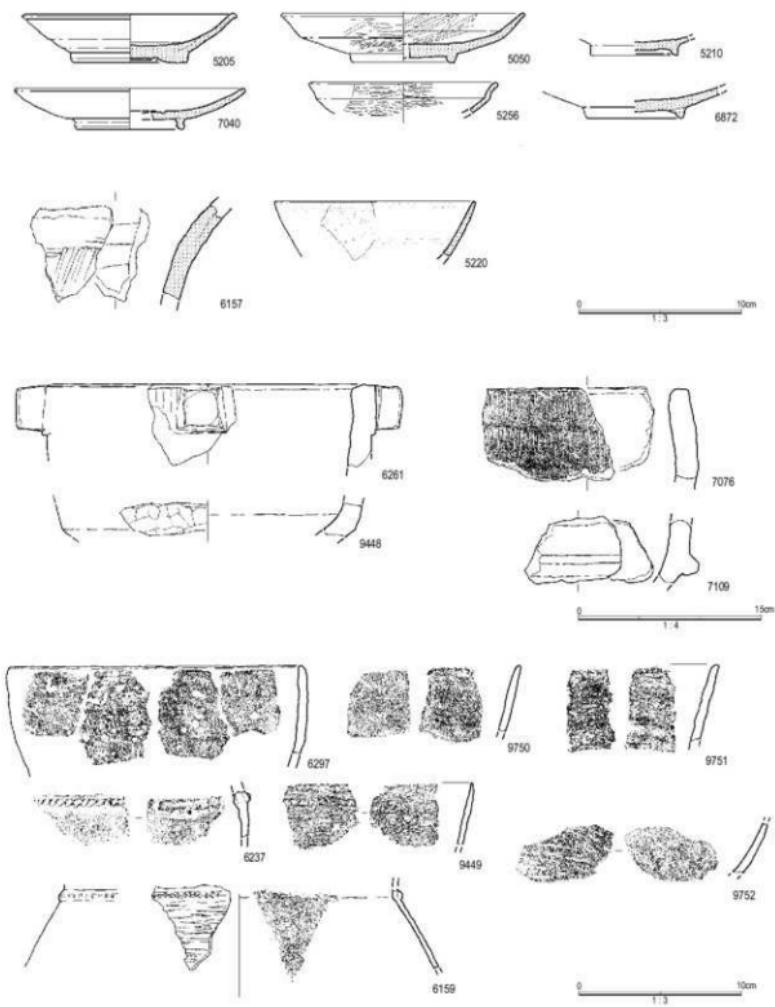


图30 包含层出土遗物(9)(1:3)

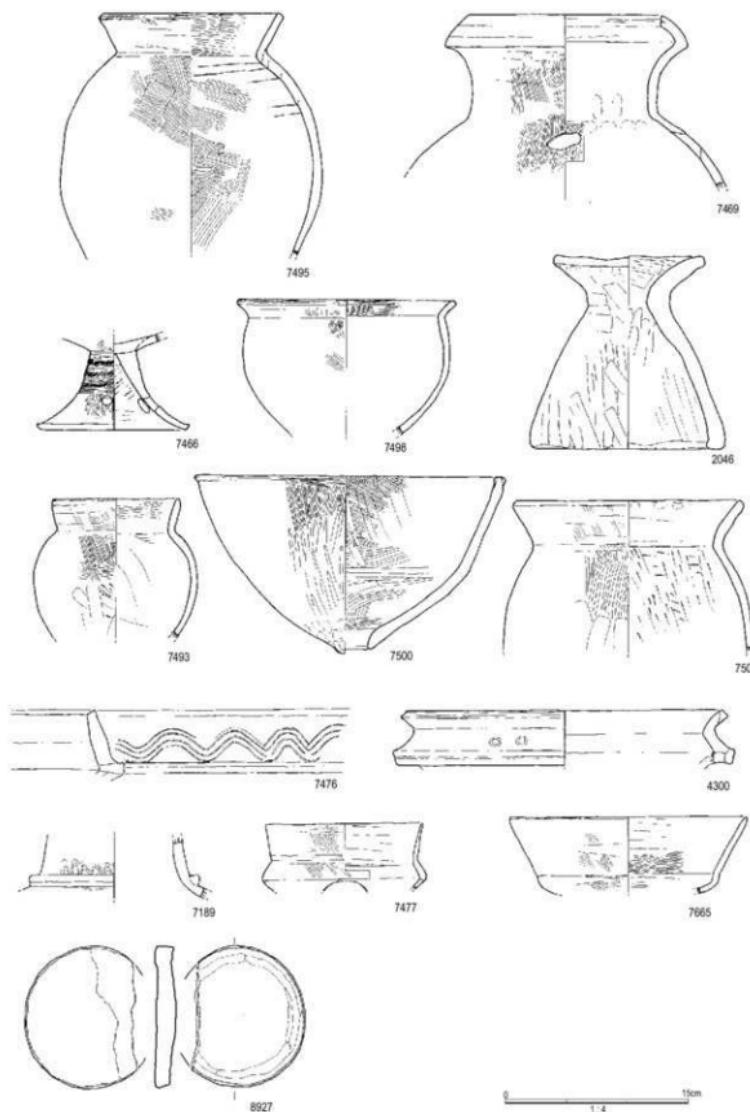


图31 包含层出土遗物(10) (1:2)

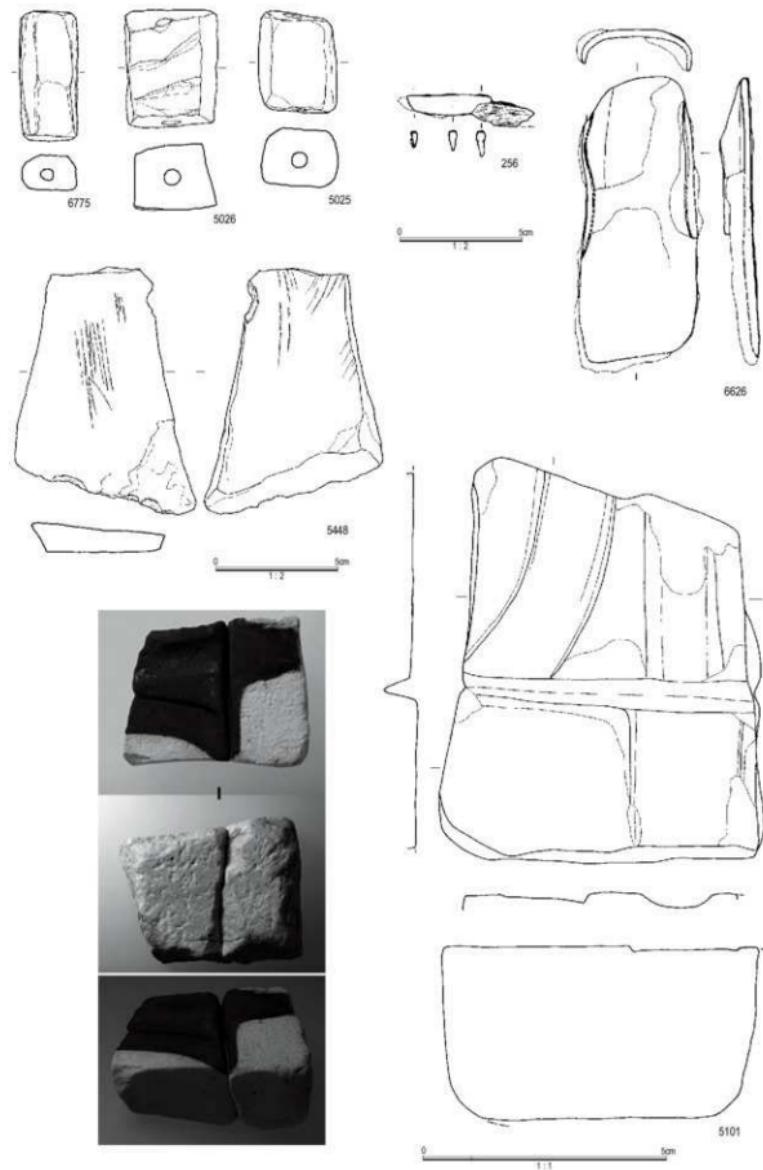


图32 包含层出土遗物 (1:1) (1:2, 1:3)

34

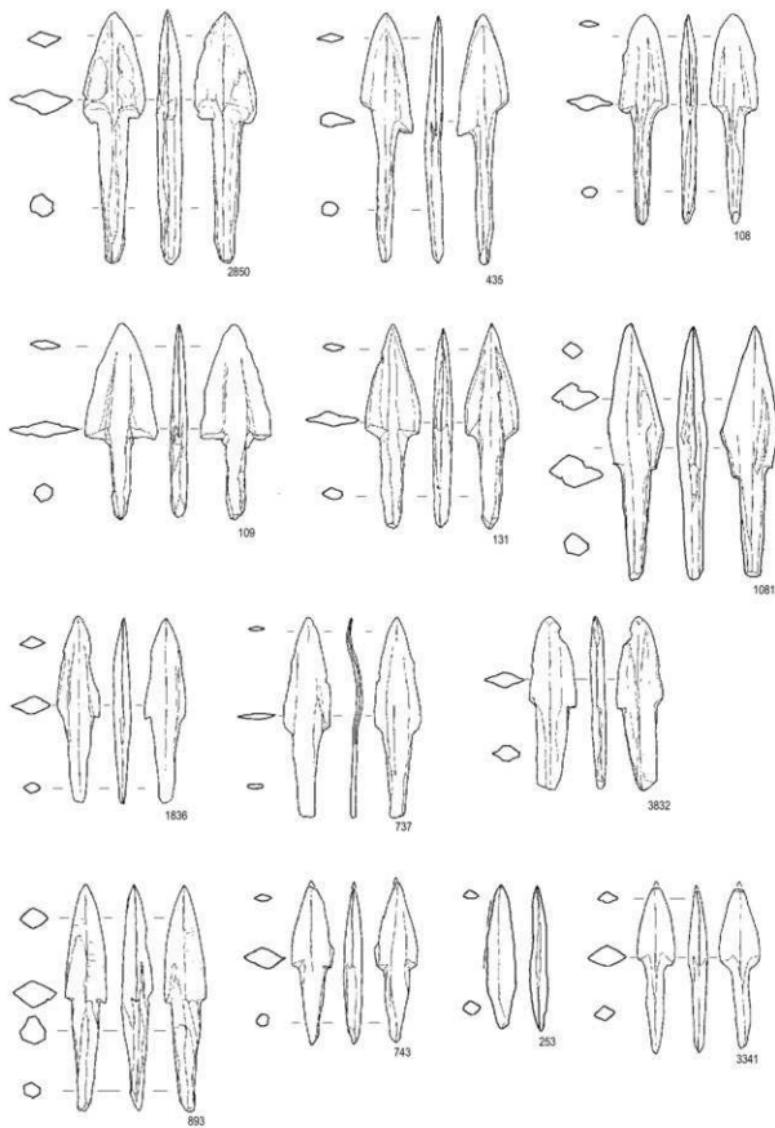


图33 包含层出土遗物(12) (1:1)

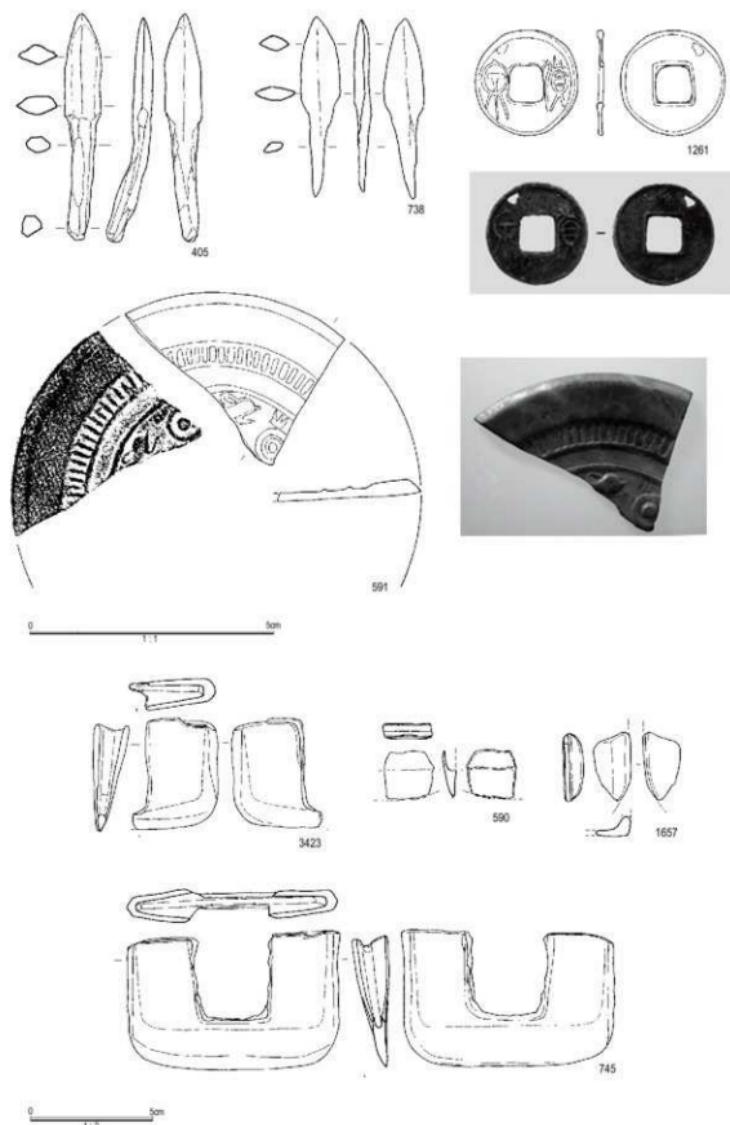


图34 包含层出土遗物(13)(1:1, 1:2)

表1 遺物観察表(1)

遺物番号	遺物	出土位置	遺物記述
108	青銅器 脊歯	5層下面 G26-8842	〈胎土・焼成〉材質:銅合金。〈調整〉背部研磨か、精たるため詳細不明。茎:長軸方向に削り取り、断面多角形状、基部は尖る。〈計測〉実測 長4.3cm×幅1.0cm×厚0.4cm / 3.7g (年代) 幼生/後期 (遺存) 完存。鋒が進行し、器表粉塵に剥落。(図33)
109	青銅器 脊歯	5層下面 G26-8841	〈胎土・焼成〉材質:銅合金。〈調整〉逆刺は基部を盤による整形。茎は、盤により縦方向に面取りし断面多面体の棒状。〈計測〉実測 長3.9cm×幅1.5cm×厚0.4cm / 4.3g (年代) 幼生/後期 (遺存) 全体に鋒が置く進行、粉状、器表剥落。(図33)
131	青銅器 脊歯	溝427 G26-9944	〈胎土・焼成〉材質:銅合金。〈調整〉逆刺は基部を盤による整形を認めるが、他部位は鋒のため不明。〈計測〉実測 長4.2cm×幅1.1cm×厚0.4cm / 3.4g (年代) 幼生/後期 (遺存) 全体に鋒が置く進行。器表粉状に剥離。(図33)
184	彷彿車	溝427 G26-0355	〈胎土・焼成〉石材:流紋岩か。〈調整〉上面、側面とも研磨調整。側面は複数の研磨面で構成。〈特記〉直角形、輪郭分明。〈計測〉実測 滝5.0cm×厚0.9cm / 41.0g (遺存) 完存。(図15)
250	瓦 平瓦	5層下底 G26-0711	〈胎土・焼成〉胚:精良、細緻多く重ね、やや軟質。器表:灰白色 (7.5Y 7/2)。〈調整〉上面:直角形、輪郭分明。凸面:格子目印き(粗目)。〈計測〉実測 長20.0cm×幅16.0cm×厚1.7cm (遺存) 後部小破損、側面一部の崩落。(図23)
253	青銅器 脊歯	溝427 /16層上面 G26-9742	〈胎土・焼成〉材質:銅合金。〈調整〉表面、刃部鋒のため還存せず。〈計測〉実測 長2.9cm×幅0.6cm ×厚0.4cm / 1.6g (年代) 幼生/後期 (遺存) 脊歯が著しく、器表粉状に剥落。(図33)
256	鉄器 刀子	5層 G26-9654	〈胎土・焼成〉材質:鉄。〈調整〉鍛造か (特記) 小型品。木製柄還存。〈計測〉実測 長5.3cm×長0.8cm×幅0.3cm / 3.7g。(図22)
340	瓦 平瓦		〈胎土・焼成〉胚:柱状性頑者。確確、やや軟質。器表:灰白色 (N 5.5)、斑状。〈調整〉凹面:撫で。凸面:輪郭目印き。前頭・側面:撫で。(計測) 実測 長9.0cm×幅11.0cm×厚1cm (遺存) 前端部細部、側面部を含む。(図25)
405	青銅器 牙隕	5b層 G26-0434	〈胎土・焼成〉材質:銅合金。〈調整〉茎は盤による整形か、輪郭詳細不明。(年代) 幼生/後期 (遺存) 前頭部細部。(計測) 実測 長4.8cm×幅0.4cm / 4.3g (図24)
435	青銅器 脊歯	5層下部 G26-9443	〈胎土・焼成〉材質:銅合金。〈調整〉先端部に刃付ける研磨。左右の逆刺が非対称で、片側は鋒角。茎は、直角を行く円形の断面形。(計測) 実測 長5.1cm×幅1.0cm×厚0.4cm / 4.2g (年代) 幼生/後期 (遺存) 片側の逆刺を欠く。(図33)
590	青銅器 脊歯	5層下面 G26-0955	〈胎土・焼成〉材質:銅合金。〈調整〉刃縁の角度は浅く、鋭い。(計測) 実測 長2.0cm×幅2.0cm×厚0.4cm / 3.1g (年代) 幼生/後期 (遺存) 刃部細部、器表に鋒が浮く。(図34)
591	青銅器 中国鏡	5層下面 G35-1023	〈胎土・焼成〉材質:銅合金。〈調整〉平縁では外縁に文書第4文帯、内縁は半肉厚の直線文を主文。(特記) 飛龍鏡に近づけるが、乳とヒゲの頭部との関係などから、四獸(直文)の可能性も。漢鏡7期 飛龍鏡たるは四獸(直文)。乳、虎、鹿頭部の頂部が平坦で、研磨されたものか。他の部も一部削離。(計測) 復原 98.4cm×厚0.3cm / 10.1kg (遺存) 純片。(図34)
737	青銅器 脊歯	雨裂1026 G26-1225	〈胎土・焼成〉材質:銅合金。〈調整〉頭部、敲打整形したものか。(特記) 中央部が大きく抉り、先端部屈曲する。(計測) 実測 長4.1cm×幅1.0cm×厚0.4cm / 1.3g (年代) 幼生/後期 (遺存) 全体に鋒を生じ、器表磨ガラス状。(図33)
738	青銅器 脊歯	雨裂1026 /底面 G26-0235	〈胎土・焼成〉材質:銅合金。〈調整〉表面荒れて、詳細不明。(計測) 実測 長3.6cm×幅0.8cm×厚0.4cm / 2.0g (年代) 幼生/後期 (遺存) 砂輪による削り落し跡、器表荒れ顕著。(図34)
743	青銅器 脊歯	5b層 G26-0242	〈胎土・焼成〉材質:銅合金。〈調整〉逆刺、斜面に鋒を入れ整形。(計測) 実測 長3.3cm×幅0.9cm×厚0.4cm / 2.6g (年代) 幼生/後期 (遺存) 砂輪による削り落し、器表磨ガラス状。(図33)
745	青銅器 脊歯	5b層 G26-0233	〈胎土・焼成〉材質:銅合金。〈調整〉鋒を生じる。頭上裏面の刃縁に、研磨時表面からのみ出し裏一面の縁に研磨。(調整) 内周部分はほとんど調整せず、鋒のしに近い。(計測) 実測 長5.8cm×幅0.7cm×厚1.5cm / 11.1g (年代) 幼生/後期 (遺存) 表面は闇食し、瘦痕。(図34)
860	ガラス小玉	5b層 G35-1035	〈胎土・焼成〉材質:ガラス。発泡。器表:透明、ガラス光沢、鮮やかな青色 (BB 4.5/9)。(調整) 巻き付け接合、環状に整形。(計測) 実測 径3.0cm×高0.2cm / 0.1g (年代) 幼生/後期 (図14)
863	ガラス小玉	雨裂1026 G26-0215	〈胎土・焼成〉材質:ガラス (比重重)。器表:朝鮮光沢。半透明、つよい青色 (BB 4.5/6)。(調整) ややひびき、孔辺に削り出る。(計測) 実測 径3.0cm×高0.4cm / 0.1g。(図14)
893	青銅器 脊歯	溝427 /16層 G35-1041	〈胎土・焼成〉材質:銅合金。〈調整〉表面は直角による断面形状に整形、突起を研ぎだす。側縁の面取りにより、逆刺を整形。茎はさるに断面形状で全面に取り扱う。(計測) 実測 長4.6cm×幅0.8cm×厚0.6cm / 4.8g (年代) 幼生/後期 (遺存) 完存。各種は明瞭に還存。(図33)
1081	青銅器 脊歯	溝427 /16層 G35-1041	〈胎土・焼成〉材質:銅合金。〈調整〉表面に盤状の加工により種々の溝を刻む。茎部は削りを盤による削り整形、併せて逆刺も刻む。(特記) 器形や逆刺に近い形態。(計測) 実測 口径5.2cm×底径1.1cm×厚0.6cm / 7.7g (年代) 幼生/後期 (遺存) 表面の還存が不良。(図33)
1083	束腰式土器か碗	溝427 /16層上面 G35-1032	〈胎土・焼成〉胎土:緻密の泥質土。表面は束腰土器に似るが、胎土含みがやや多い。表面:細孔等殆ど無し。器表:薄い灰褐色 (N 8.5)。(調整) 外面:強烈な削離で、底部附近部分は板状化で内面:不明 (特記) 器形や調整の特徴などから束腰式土器に近似するが、胎土含みがやや多い。(計測) 復原 底径9.8cm (束腰) 小破片、器面は内部を中心とする磨耗。(図14)
1084	石錘 整形/彷彿形/交差溝	溝427 /16層 G35-1033	〈胎土・焼成〉石材:潘石。〈調整〉長軸方向帯状の削り面で調整後、廢棄調整。部分的に削り面の繰り返して逆刺も刻む。(特記) 器形や逆刺に近い形態。(計測) 実測 長1.6cm×幅1.3cm×厚1.4cm / 14.0g (年代) 幼生/後期 (遺存) 表面の還存が不良。(図17)
1125	弥生土器 瓢	G35-1025	〈胎土・焼成〉胎土:粗砂を多量。器表:明るい灰みのみを帯びる黄 (10B 8/3)、内面:はわらかいい赤 (10R 7.5/5)。(調整) 外面:刷毛目・口縁部回復で、胴上部底堅厚、底面擦り:内面:暗黒き口縁部刷毛目線を形成。(特記) 突起を削り落す (計測) 実測 口径11.8cm×底径1.8cm×高0.9cm (年代) 幼生/後期 (遺存) 完存。(図14)
1154	瓦 平瓦	溝427 /16層直上面 G26-0242	〈胎土・焼成〉胚:粗砂・細砂を多く含む。軟質。器表:灰白色 (7.5Y 7/2)。(調整) 凹面:布口庄原底堅厚 (特記) 侧縁部の小破片、前縁部一部還存。(図23)
1261	銅錢 貨泉	溝427 /18層 G35-1023	〈胎土・焼成〉材質:銅合金。〈調整〉表面の内郭のみ。文字の読みがりは比較的明瞭。(特記) 後漢代以降の型式。(計測) 実測 径3.0cm×高0.1cm×厚0.8g (年代) 幼生/後期 (遺存) 鋒は部分的だが、全体に表面溶出か、極薄。(図34)
1262	ガラス小玉	溝427 /18層 G35-1031	〈胎土・焼成〉材質:ガラス (比重重)、発泡。黒色粒子を含む。器表:純いガラス光沢、鮮やかな青色 (BB 4.5/9)。半透明。(調整) 凹凸あり、孔辺丸み。(計測) 実測 径5cm×高0.2cm / 0.1g (年代) 幼生/後期 (図14)
1263	ガラス小玉	13層 G26-0313	〈胎土・焼成〉材質:ガラス。発泡、黒色粒子を含む。器表:透明、ガラス光沢。鮮やかな青色 (BB 4.5/9)。(計測) 実測 径4.0cm×高0.3cm / 0.1g。(図14)
1381	弥生土器 有孔	溝427 /18層 G35-1015	〈胎土・焼成〉胎土:粗砂を多量。器表:くすんだ濃みの赤。(調整) 外面:明き一口縁部近底回復で、胴部削り、様子拂て、内面:周囲削りて、裏面は荒め。(特記) 底部に焼成後の穿孔。(計測) 復原 口径21.6cm×底径7.8cm×高15.0cm (年代) 幼生/後期 (遺存) 略元形品。(図12)
1389	石錘 整形/分脚形/細形	溝427 /18層 G35-1015	〈胎土・焼成〉石材:片岩か。(調整) 胎土:右脚方向の細い削り面により調整。片面は研磨か、平滑面。(特記) 溝が廻りて、穿孔が行われていないが完成品か。(計測) 実測 長6.2cm×幅3.1cm×厚2.5cm / 63.0g (遺存) 肩部。(図16)

表2 遺物観察表(2)

遺物番号	遺物	出土位置	遺物記述
1405	敲打器 刻片素材	満427 /16層 G35-1024	(船主・焼成) 石材:玄武岩/片側(厚形) (調整) 材系の薄い側の側面裏面に小割痕痕続、両曲部の縁部は打ち落し状跡者。(計測) 実測 長12.2cm×幅6.2cm×厚3.0cm /216.0g (遺存) 完存。(図19)
1548	明石	満427 /18層 G26-0345	(船主・焼成) 石材:玄武岩円錐(偏平) (調整) 偏平な石材の中央に敲打による溝み。両側辺と、尖る側の端部に敲打痕。端部・側面側の敲打痕は微弱。(計測) 実測 径11.7cm×径8.6cm×厚2.9cm /431.0g (遺存) 完存。(図20)
1657	青銅器 不明	5b層 G35-1051	(船主・焼成) 材質:銅合金。《特記》黒先の袋部分細かく。(計測) 実測 長2.8cm×幅1.6cm×厚0.8cm /7.6g (遺存) 刃部(刃)の側面部細か。全体に磨滅し、丸みをもつ。(図34)
1704	轆轤車	満427 /16層 G26-0151	(船主・焼成) 石材:不明、比重大。(調整) 上下面、側面研磨調整。断面や凸レンズ状、穿孔は、片面に広がる。(計測) 復原 径4.2cm×厚0.9cm /11.0g (遺存) 半ば欠。(図15)
1836	青銅器 諸職	17層 G26-0122	(船主・焼成) 材質:銅合金。(調整) 片側の側縁をより大きさ取りを整形するほか、大部分説放つか、薄い縁地に異色。(計測) 実測 径3.8cm×厚0.9cm /2.5g (年代) 旁生/後期 (遺存) 輪が若しく進行。(器表形状、状態) (図33)
2039	ガラス小玉	11層 G26-9525	(船主・焼成) 材質:ガラス、透明。器表:透明、断面状況良。鮮やかな青色(98.4.5/9)。(調整) 片側の丸孔研磨跡。(計測) 実測 幅(径)0.6cm×高0.3cm /0.1g (図14)
2046	弥生土器 蓋台	11層 G26-9632	(船主・焼成) 材質:粘土。器表:粗糲。(計測) 実測 口径12.0cm×底径15.0cm×高15.7cm (年代) 旁生/終末期 (遺存) 脚を大きく欠く。(図31)
2102	土製品 土製丸玉	満427 /16層 G26-0614	(船主・焼成) 材質:粘土性、粗糲。器表:褐色(10YR 5/1)、黒斑に斬跡。(調整) 手捏ねにより整形し、細かな撚れを加える。器表は、細かな面で構成され、全体に平滑。(計測) 実測 径2.0cm×厚0.8cm (遺存) 完存。(図15)
2103	石睡 積形/分鋼形/細形	満427 /16層 G26-0623	(船主・焼成) 石材:滑石。(調整) 長軸に沿う方向の削り面で調整。下端面は直横横面状の削り面で調整。(計測) 実測 長7.3cm×幅3.2cm×厚1.3cm /388.0g (遺存) 完存。(図16)
2317	石床未完成	満427 /16層 G26-9654	(船主・焼成) 石材:板状岩。(調整) 全体に粗粒地、断面状の幾形に整形。(計測) 実測 長11.0cm×幅5.5cm×厚4.0cm /355.0g。(年代) 未化。(計測) 実測 口径12.0cm×底径15.0cm×高15.7cm (年代) 旁生/終末期 (遺存) 脚を大きく欠く。(図31)
2320	土製品 土製丸玉	満427 /16層 G26-0622	(船主・焼成) 材質:粘土性、粗糲。器表:褐色(10YR 5/1)、部分的に黒斑。(調整) 手捏ねにより整形し、細かな撚れを加える。器表は、細かな面で構成され、全体に平滑。(計測) 実測 径1.8cm /6.0g (遺存) 完存。(図15)
2441	弥生土器 蓋	満427 /16層 G26-0545	(船主・焼成) 材質:粘土。器表:明るい赤みを帯びた黄(10YR 8/3)。(調整) 体部:内外面刷毛調整(斜形)。一側口縁部底面に突起部位付いて貼り付けられ。口縁部:周回撚。(特記) 條状付着物、赤色化あり。(計測) 復原 口径2.7cm (年代) 弥生 (遺存) 上半部の大破片、器表荒れ跡。(図10)
2531	石睡 積形/分鋼形/太形	満427 /22層 G26-0442	(船主・焼成) 石材:変成岩。(調整) 全面に研磨調整を行うが、器表は粗面状。下端面は平滑。(計測) 実測 幅5.8cm×幅3.7cm×厚3.3cm /108.0g (遺存) 完存。(図16)
2780	弥生土器 高杯	満427 /16層 G26-3835	(船主・焼成) 材質:粘砂多く含む。器表:やわらかい赤みの黄(98.7.5/4)。(調整) 外面:織網目一字上部と脚部横面で横面。(内面):刷毛目一字。透孔なし。(計測) 復原 口径18.0cm×底径14.5cm×高18.2cm (年代) 早期 (遺存) 大破片(外部分の半を欠く)。内面削減。(図9)
2784	石睡 積形/筋鉢形/板溝	満427 /18層 G26-9823	(船主・焼成) 石材:片岩か。(調整) 長軸方向の削り面で調整。溝は長軸に沿って一巡する。(計測) 実測 長5.4cm×幅1.3cm×厚1.3cm /13.0g (遺存) 完存。(図17)
2789	轆轤車	満427 /18層 G26-9844	(船主・焼成) 石材:滑石。側面半ばは、平滑な研磨面となるが、残りは打ち欠き面を多く残す。穿孔部の縫は擦れで丸み。(特記) ひびつな円形。(計測) 実測 径6.7cm×厚0.7cm /54.0g (遺存) 完存。(図15)
2812	弥生土器 裏	満427 /16層 G26-9953	(船主・焼成) 材質:粘土。器表:日本経部赤引(赤色(5.7.4/6))、灰白色(10YR 8/2)。(調整) 外面:口縁部は斜方向の刷毛目(調整)、脚部撚。内面:口縁部、刷毛とも斜め方向の刷毛目調整一撚式。(計測) 復原 口径44.6cm (年代) 弥生 (遺存) 口縁部、1/2破片。(図7)
2815	土製品 積形	満427 /25層 G26-9952	(船主・焼成) 材質:粗砂多く含む。器表:やわらかい赤みの黄(10YR 5/4)。(調整) 体部の円盤に、縫となる粘土地や緑の粘土帶を貼り合せたもの指捺せぎ地で形成。(計測) 実測 径10.7cm×厚(高)3.0cm (年代) 旁生 (遺存) 完存。(図15)
2850	青銅器 諸職	杭列1058 G26-0122	(船主・焼成) 材質:銅合金。(調整) 斜面方向研磨、尖底整形、断面菱形。基部は、両側傾。中央の縁を厚く取り面取り、断面面立体状となる。(計測) 実測 口径5.2cm×底径3.3cm×高20.5cm /7.4g (年代) 旁生/後期 (遺存) 部分的に、崩れながら縫合。(特記) 他では封向する口縁を細い刻縫で結ぶ。(計測) 実測 口径28.6cm×底径10.8cm×高42.3cm (年代) 弥生/後期 (遺存) 略完形品。脚部以下はやすや崩壊。(図6)
2895	土製品 円板	トレンチ1075	(船主・焼成) 材質:粘土性、粗糲。器表:黄褐色(10YR 5/2)。(調整) 細形:手捏ね整形、撚式。側縁部の撚で、表裏に盛り上がり、表裏の対応位置に1対の不整で浅い穴。片面に、一方の2穴から、縫部に向かう縫合。他では封向する口縁を細い刻縫で結ぶ。(計測) 実測 径6.8cm×径5.7cm×厚(高)1.1cm /38.0g (年代) 旁生 (遺存) 完存。(図15)
2907	弥生土器 蓋	満427 /16層 G26-9941	(船主・焼成) 材質:粘砂を含む。器表:赤彩部は「すんだら黄みの赤(7.5H 5/8)」、非赤彩部は「明るい赤みの赤みを帯びた黄(10YR 8/3)」。(調整) 外面:刷毛目一字。内面:底面撚。内面:底面下部と内面の脚部に赤彩されるが、外面部下部は粘土剥離の可能性がある。(特記) 底部や上部に焼成後の穿孔がある。(計測) 実測 口径28.6cm×底径10.8cm×高42.3cm (年代) 弥生/後期 (遺存) 略完形品。脚部以下はやすや崩壊。(図6)
2911	轆轤車	満427 /16層 G26-9941	(船主・焼成) 石材:安山岩か。(調整) 上下面、側面を平滑に研磨調整。側面には周回方向の条線。(計測) 実測 径4.7cm×厚0.6cm /26.0g (遺存) 完存。(図15)
3001	弥生土器 蓋	満427 /18層 G26-9943	(船主・焼成) 材質:粘性、細糞。器表:「すんだら黄みの赤(7.5H 5/8)」、内面はやわらかい赤色(2.5Y 7.5/5)。(調整) 外面:刷毛目一字(調整)、口縁部付近は撚で主体内部:口縁部は撚で一横面撚き、脚部は刷毛目一字で外側と口縁部内部に赤彩。(特記) 外縁と口縁部内面に赤彩。(計測) 復原 口径28.4cm (年代) 弥生/後期 (遺存) 口縁部の小破片、器表荒れ跡。(図12)
3029	ガラス小玉	5b層 G26-0325	(船主・焼成) 材質:ガラス(比重重)、兔泡。器表:あさやかな青色(98.4.5/9)、断面状況良。(調整) 乳孔面直面:粗糲に回し捲合。(計測) 実測 幅(径)0.5cm×高0.3cm /0.1g (図14)
3064	弥生土器 蓋 細頭頭	満427 /22層 G26-9944	(船主・焼成) 材質:粘性、粗糲。器表:「すんだら黄みを帯びた黄色(6W 6.5/3)」。(調整) 内面:裏部(体部)と連絡部から口縁にまで指捺さき調整。外面:脚部上半部から脚部に粗目の刷毛目調整を散漫に。(特記) 乳孔面直面:底部:底縫は縫に沿い、縫底断続状にやや高くなつて、中央部がくぼむ底の目高台となる。(計測) 実測 口径6.2cm×底径6.0cm×高12.7cm (年代) 弥生 (遺存) 口縫端部欠く。体部に調査時の欠損(2孔)。(図14)
3111	弥生土器 手程	満427 /22層 G26-0441	(船主・焼成) 材質:粘砂を含む。器表:褐色(5W 5/1)。(調整) 手捏ね整形。内面:撚で調査。外面:指捺さえ。(計測) 実測 径5.4cm×径1.9cm×厚(高)2.7cm (年代) 弥生 (遺存) 口縫端欠。(図14)

表3 遺物観察表(3)

遺物番号	遺物	出土位置	遺物記述
3146	弥生土器 瓢	満427 /25層 G26-9931	〈船・挽成〉 素土: 繖密、粗砂。器表: にぶい黄褐色 (10YR 7/3)。上半部の対になる位置に黒斑。一方は、水平、3条の帯状に残る。〈調整〉 内面: 物体は斜め方向の刷毛目調整→口縁部水出しに描った刷毛目調整。外面: 底部小さな単位で下方に向て削り取り、丸底に整形→全体中位粗目印の印字目調整→全体上部) 水平、斜め方向の刷毛目調整。口縁部裏面・外面部は撫で、内面部の調整に先行。〈計測〉 実測 口径20.0cm×底径14.3cm (年代) 弥生 (遺存) 全身を復原できる4箇遺存。(図4)
3263	石錐 整形/分解/細形	満427 /18層 G26-9741	〈船・挽成〉 石材: 磐石。器表: はす全面に研磨調査。上下端面も研磨調査。平滑。下端縁部付近に削り取れ。下端部縁は削り面取り。〈計測〉 実測 長9.1cm×幅4.0cm /187.0g (遺存) 完存。(図16)
3341	青銅器 調鏡		〈船・挽成〉 材質: 銅合金。〈調整〉 両側縁を生かして、断面変形に面取り整形、逆刺も両面から刻む。〈計測〉 実測 口径3.4cm×底厚0.7cm×厚0.4cm /2.3g (年代) 弥生/後期 (遺存) 開闢が進行し、器表剥落状況。(図33)
3423	青銅器 鏡光		〈船・挽成〉 材質: 銅合金。〈調整〉 装飾部に中子の真跡が薄く残る。〈計測〉 実測 口径4.5cm×底厚3.6cm×厚1.4cm /35.2g (年代) 弥生/後期 (遺存) 片側刃部破片、器表遺存不良。(図34)
3783	ガラス小玉	満路1044 /626- 0113	〈船・挽成〉 素材: ガラス。器表: 明透、ガラス光沢。鮮やかな青色 (45.4/9)。〈計測〉 幅厚 0.3cm×高 0.2cm (年代) 弥生/後期 (遺存) 1/3枚。(図31)
3832	青銅器 調鏡	G26-0122	〈船・挽成〉 材質: 銅合金。〈調整〉 磨耗した状態にて、逆刺部と片側を面取り、整形するのみで、刃部の欠けは鉛造されたものとされる。身部を斜め方向に研磨したとのか、条線。(計測) 実測 長3.5cm×幅0.9cm×厚0.3cm /2.5g (年代) 弥生/後期 (遺存) 良好、婧し。(図33)
4272	弥生土器 瓢	満427 G26-04 大型形	〈船・挽成〉 素土: 繖密で含む。器表: やわらかい赤みの黄 (90Y 7.5/4)。〈調整〉 外面: 斜面に繖密な凹凸の、以下に斜め方向の粗目刷毛目調整。一頭部、頭部中位やや下る位置に突起部付け。腰部、内面部: 前側に撫で、部分的に粗目刷毛目調整。底部、肩部に指押え痕。口縁部: 外面部端部近くまで刷毛目調整が残す、内部、湖面は周回撫で。(計測) 復原 口径35.7cm×底径1.1cm×高54.6cm (年代) 弥生 (遺存) 口縫部・胸部接合等、ない部位の部材。(図7)
4300	弥生土器 瓢		〈船・挽成〉 素土: 粗砂を多量。器表: やわらかい赤みの黄 (90Y 7.5/4)。〈調整〉 外面: 周回撫で。内面部: 固定化。又様: 口縫部外面部竹質文 (單位不明) (計測) 復原 幅25.6cm (年代) 弥生/終末期 (遺存) 口縫部小破片。(図31)
4306	越州窯系青磁 碗	5b層 G26-0542	〈船・挽成〉 素土: 粒状性、種々に粗砂を含む。断面: 明るい灰色 (N 7)。器表: 内面部から底部近くの全体施釉、薄く。細かく発泡、貫入を生じる割ガラス状。不透明で、灰みの赤みを帯びた黄 (10Y 5/2)。〈調整〉 高台から全体手前側に掛けて研磨削り取り、高台は中央を削り込み、蛇の目状。器表: 内底面周縁間に開隙を開けて配する。直腹の位置で器底を捻込み、対応する高台部分に不整形形状の目印が残るが、べつに整な施釉部が生んでいる。(計測) 復原 直径7.5cm (遺存) 施釉細部。(図28)
4331	弥生土器 瓢	満427 /18層	〈船・挽成〉 素土: 繖密で含む。器表: 淡葱黄色 (7.5YR 8/4)。〈調整〉 内面: 上部では周回方向、下部では斜面方向の撫で、各部に指押え痕。外面部: 指の撫で。上縁: 周回撫で。(特記) 初削したものか、赤み。(計測) 実測 口径11.5cm×底径12.2cm×高12.1cm (年代) 弥生/後期 (遺存) 完存、器表荒れ。(図13)
5012	瓦 丸瓦	5b層 G36-1212	〈船・挽成〉 素土: 粒状性、種々に粗砂を含む。焼成: 軟質。器表: 暗灰色01。断面も同色。(調整) 凸面: 細粒の格子目印。凹面: 布目压痕。(計測) 実測 長22.0cm×幅14.0cm×厚1.8cm (遺存) 前半部破片、器表やや磨耗。(図22)
5013	瓦 平瓦	5b層 G36-1212	〈船・挽成〉 素土: やや粒状性、粗砂。器表: 灰色 (7.5Y 9/1)。〈調整〉 四面: 布目压痕。前端縁部に貫入凹 (底) と断続。凸面: 格子目印き (粗目)。(計測) 実測 幅11.0cm×厚1.8cm×高2.2cm (遺存) 前端縁部細片。(図24)
5019	土製品 調鏡	満427 /16層 G26-9823	〈船・挽成〉 素土: 粒状性含む。焼成: 軟質。器表: 内部に円盤状の粘土塊を貼り合せたもの、手捏ね成形し擦で。裏面は凸凹となる。(特記) 貫通しない粗目。絆部の相対する位置に2個孔の孔を有する。(計測) 実測 幅 (底) 13.0cm×厚 (高) 1.8cm (年代) 弥生 (遺存) 細部の一部を欠く。(図15)
5021	二彩陶器 広口 壺	5層下 G26- 0614	〈船・挽成〉 素土: 粒状性、均質。断面: 黄赤みの灰色 (5YR 6/1)。器表: 外面無施釉。全体に透明釉。ガラス質をもち、施釉部は明るい灰 (N 7)。部分的に縦縞 (青い灰) の縁 (1.5G 3.2/5)。柄輪 (ごく暗) に赤みの黄 (7.5YR 3/3.5) の網目状に沿し剥げ。部分的に剥落。(調整) 内底面周回側。(図29)
5023	石錐 整形/筋 縫形/板縫	満427 /16層 G26-0154	〈船・挽成〉 石材: 磐石。石錐部表面剥片利用。(計測) 石錐部底面に凹四辺形形状に切り取り、側面を磨き面。裏面は切り落としたような切面断面。長軸に沿う溝は、一通する。(計測) 実測 長6.7cm×幅1.8cm×厚2.8cm (遺存) 完存。(図17)
5024	瓦 平瓦	5層 G26-0242	〈船・挽成〉 素土: やや粒状性、粗砂。器表: 明るい灰色 (N 7)。〈調整〉 素土: 粒状性、堅致。細粒を含む。器表: 暗灰色05。(計測) 実測 長11.0cm×幅15.0cm×厚2.0cm (遺存) 側縁部の細片。(図24)
5025	石錐 角柱形有 孔	5層 G35-1014	〈船・挽成〉 石材: 磐石。石錐部底面剥片利用。(計測) 石錐部底面に凹四辺形形状に切り取り、側面を磨き面。裏面は切り落す。(計測) 実測 長4.0cm×幅3.3cm×厚2.3cm /60.0g (遺存) 完存。(図32)
5026	石錐 角柱形有 孔	5層下部 G26- 0342	〈船・挽成〉 石材: 磐石。石錐部底面剥片利用、内外面遺存 (煤付着)。(調整) 石錐部底面に凹四辺形形状に切り取り、側面の小口部分から穿孔する。内外の鬼面はそのまま残す。(計測) 実測 長4.9cm×幅3.7cm×厚2.8cm /93.0g (遺存) 完存。(図32)
5027	絆種陶器 高台 碗	5層下部 G26- 0622	〈船・挽成〉 素土: 粒状性、均質。断面: 赤茶 (8)。器表: 内外面、高台外縁部施釉。薄く、不透明でガラス光沢。灰みの赤みを帯びた黄色 (10YR 5.5/2)。(調整) 体部上部、周回側の糸割削り、底部は周回方向の磨削。底部: 施釉部に埋め込み、彫形か。(計測) 復原 口径12.8cm×底径6.1cm×高5cm (年代) 平安 (遺存) 底部、器表荒れ。(図22)
5028	白磁 壺 大室 府V型	5層下部 G26- 0641	〈船・挽成〉 素土: 粒状性、均質。断面: 縱縞 (N 5)。器表: 内外面施釉。薄く、半透明、強い樹脂状光沢をもつ。灰みの黄褐色 (5G 5/2)。(調整) 内外面回転撫で。口縁部に外側から押しつけ、輪花とする。(計測) 復原 口径13.0cm (遺存) 口縁部細片。(図29)
5029	絆種陶器 瓢	5層下部 G26- 0622	〈船・挽成〉 素土: やや粒状性、粗砂を含んで軟質。断面: うすい黄赤 (5YR 8/5)。器表: 全面に施釉、薄く透明。樹脂状光沢。くすんだ黄緑 (2.5G 5/5)。(計測) 復原 底径7.5cm (遺存) 底部の細片。(図29)
5031	絆種陶器 瓢 輪花瓶	5層下部 G26- 0621	〈船・挽成〉 素土: 粒状性、均質。断面: 灰茶 (N 5)。器表: 内外面施釉。薄く、半透明、強い樹脂状光沢をもつ。灰みの黄褐色 (5G 5/2)。(調整) 内外面回転撫で。口縁部に外側から押しつけ、輪花とする。(計測) 復原 口径13.0cm (遺存) 口縁部細片。(図29)
5032	絆種陶器 瓢	5層下部 G26- 9444	〈船・挽成〉 素土: 粒状性、均質。断面: 黄赤みの灰色 (5YR 6/1)。やわらかい赤みの黄褐色 (90Y 7.5/4)。器表: 内外面施釉。薄く、ガラス光沢。透明、やや緑み。施釉部に灰みの赤みを帯びた黄色 (10YR 5/2)。こい赤みの黄 (10YR 6/7.5)。(調整) 内面: 僅かに斜め方向の荒削り。外面: 周回撫で、下部周回方向の荒削り。(計測) 復原 口径16.9cm (遺存) 口縁部細片。(図29)

表4 遺物観察表(4)

遺物番号	遺物	出土位置	遺物記述
5034	縄輪陶器 瓢	5層下部 G26-9444	(船・焼成) 船土: 棒状性、均質。断面: 空隙。赤みの灰色 (2.5H 5.5/1)。器表: 内外面、高台内まで施釉。釉薄く、むらがあり、細かな入賞を生じ半透明、部分的に白堊。隠いガラス状光沢、灰みの黄色 (5.5Y 5.5/2.5)。 (調整) 内外面、高台部まで施釉。
5035	越州窯系青磁 瓢	5層下 G26-0525	(船・焼成) 船土: 棒状性。。粗糲あり、細糲。断面: 明るい灰色 (N 7)。施釉: 内面から外面中位まで施釉掛け。施釉: 船土は、薄く、むらあり、細かな入賞を生じ半透明、部分的に白堊。隠いガラス状光沢、灰みの黄色 (5.5Y 5.5/2.5)。釉の及ばない化粧掛け部は明るい灰色 (N 7)。露胎部は、黄赤みの灰色 (5Y 6/1)。(調整) 体部: 整形後、周回側。外底面: 底部は棒状の船土を貼り付け、整形したか、船土を押し広げて整形。外底面は、やや凹面を成す平底で撫でで仕上げる。目痕は、内底面外周と、外面の高台底面縁部に残る。白色の土で、不整な筋跡形状。(計測) 復原 底径 9cm (遺存) 底部細片。(段28)
5040	縄輪陶器 瓢	5層下部 G26-0621	(船・焼成) 船土: 棒状性、僅かに粗糲を含む。断面: 空隙。明るい灰色 (N 7)。器表: 内外面、高台内まで施釉。釉は、薄く、均一で、兔毫で半透明、幽玄状光沢をもつ。灰みの黄緑色 (2.5G 5/2)。(調整) 内外面: 握で、平底。(計測) 復原 底径 7.6cm (遺存) 底部 1/4。(段29)
5043	越州窯系青磁 瓢	5層下 G26-0525	(船・焼成) 船土: 棒状性、粗糲を含む。やや軟質の感じ。断面: 明るい赤みの赤みを帯びた黄 (10Y 8/3)。施釉: 内外面施釉。高台内に及ぶ。釉薄く、細かな入賞を生じ半透明。刷毛状光沢。内底面には発泡が著しく粒状感、外底面で「すんだ」黃色 (2.5Y 6/4)。(調整) 高台内中央を削り込み絞る目的とする。目痕: 内底面外周に開闊を囲む斜めに傾いた筋跡(船土)に、対応する高台置付にも不整形状の目痕。(特記) 蛇の目高台 (計測) 復原 底径 7.4cm (遺存) 底部1/4の破片。(段28)
5050	縄輪陶器 瓢	5b層 G26-9651	(船・焼成) 船土: 棒状性、均質。断面: やわらかい赤みの黄色 (9H 6.5/5.5)。器表: 内外面施釉。釉は薄く、むらにかかり、半透明、ガラス状光沢。 (すんだ) 黄緑色 (10G 4.5/3.5)。(調整) 体部内外面: 施釉方向、斜め方向、往復方向の荒削き。内底面には開闊を囲む斜めに傾いた筋跡(船土)に、対応する高台置付にも不整形状の目痕。(計測) 復原 口径 14.8cm × 底径 6.5cm × 高さ 9.0cm (遺存) 底部 1/3。(段30)
5051	越州窯系青磁 瓢	5b層上面 G26-0514	(船・焼成) 船土: 棒状性、均質。断面: 「蛇の赤みを帯びた黄色 (6H 6.5/5.5)」。器表: 内外面施釉。釉は、薄く、むらあり、細かな入賞を生じ半透明、ガラス状光沢、灰みの赤みを帯びた黄色 (6Y 6.5/5.5)。(調整) 内外面: 握で。底部: 外底面に回転割削り、縫合22mmの面取り。目痕: 内底面周縁部、不規則に配列(船土)。外底面縁部に対応する目痕。(計測) 実測 底径 7.1cm (遺存) 底部2/3の破片。(段28)
5056	越州窯系青磁 瓢	5b層 G26-0233	(船・焼成) 船土: 精良、均質。断面: 黒色 (7.5Y 9/1)。器表: 内外面施釉。釉は極薄く、細かく発泡して半透明、黒味(ラスク)を呈し、灰みの黄色 (5.5Y 5.5/5.2)。(調整) 内外目とも半滑。(計測) 復原 口径 14.8cm (遺存) 口縁部細片。(段28)
5057	越州窯系青磁 瓢	満427/5b層 G35-1034	(船・焼成) 船土: 棒状性、種々に粗糲。断面: 明るい灰色 (N 7)。施釉: 内面から外面下部まで化粧掛け。釉は、薄く、むらあり、細かな入賞を生じ半透明、ガラス状光沢、灰みの赤みを帯びた黄色 (6Y 6.5/5.5)。(調整) 体部: 整形後、周回側で、内底面: 周縁部に輪状に凹部。外底面: 釉面に回転割削り、縫合22mmの面取り。目痕: 内底面周縁部、不規則に配列(船土)。外底面縁部に対応する目痕。(計測) 実測 底径 7.4cm (遺存) 底部小破片。(段28)
5059	陶器 盆か	5b層 G26-0642	(船・焼成) 船土: 棒状性、僅かに粗糲を含む。断面: 層状の空隙。灰黄褐色 (10B 6.5/2) 器表: 内外面施釉。釉薄く、大部分は白堊で不透明、灰みの赤みを帯びた黄色 (10Y 5.5/2)。露胎部は黄赤みの灰色 (5Y 6/1)。底面: 不定方向の荒削。(遺存) 底部細部切片。(段29)
5062	瓦器	5層 G26-0221	(船・焼成) 船土: 均質、やや粒状性。施釉: 明るい灰色 (N 7.5)。(調整) 外底面: 高台貼付付ける一面高台内面、回転で利用した刷毛目調整。(外底面: 横方向の刷毛目調整で(柔緩き残さない)。(計測) 復原 口径 6.7cm (遺存) 底部細片。(段27)
5063	瓦器 瓢	5層 G26-0221	(船・焼成) 船土: 粗糲、粗密、粗糲を少量含む。器表: 燐、暗い灰色 (N 2.5)。(調整) 内外面強しく周回方向粗目荒削。(計測) 復原 口径 13.9cm (遺存) 口縁部細片。(段27)
5077	越州窯系青磁 瓢 平底碗	5b層上面 G26-0514	(船・焼成) 船土: 棒状性、種々に粗糲を含む。断面: 明るい灰色 (N 7)。施釉: 内面から外面の底部付近まで施釉。部分的に下廻し面に及ぶ。釉薄く、細かな入賞を生じ半透明、にぶいガラス状光沢、灰みの赤みの灰色 (5.5Y 5.5/2.5)。露胎部は、黄赤みの黄色 (5.5Y 5.5/4.5)。(調整) 体部: 周縁部に輪状に凹部。外底面: 底部は組状の船土を貼り付け、整形したか、船土を押し広げて整形。外底面は、瓦割りによるものかやや凹面を成す平底。目痕は、内底面と上位と、外側の高台直上の体部に残る。土によるものか、不整な雲状。(計測) 実測 底径 8.4cm (遺存) 底部小破片。(段28)
5087	縄輪陶器 瓢	5層 G26-0524	(船・焼成) 船土: 棒状性、均質。断面: 黒色 (N 6)。器表: 高台を含む全面上で施釉。釉は極薄く、むらがあり、灰みの黄緑色 (2.5G 5/2) (薄い部分は灰み色)。(調整) 体部内外面: 周回方向、やや細いた短い單位の荒削。(高台: 貼りつけ、撫で。内底面周縁に細い1巻線)。(計測) 実測 底径 8.0cm (遺存) 底部 1/2。(段29)
5088	縄輪陶器 瓢	5層 G26-0524	(船・焼成) 船土: 精良、均質。断面: 赤色 (7.5Y 5/1)。(調整) 内外面乾燥。(計測) 内外面縁部撫で。(段29)
5090	白磁 瓢 太宰府Ⅳ-a類	5層 G26-0642	(船・焼成) 船土: 精良、均質。断面: 珪藻。白灰色 (7.5Y 7/1)。器表: 内面から、外側体部下部まで施釉。釉は、やや厚く細かく発泡で半透明。施釉部がオーラー色 (7.5Y 6/2)。外側: 手方に広がる。体部下下から高台は、淀割り。高台内は体部跡より薄く削り混む。対応する内底面は、輪状に釉剥き取り(目痕が残る)。(計測) 復原 口径 12.0cm × 底径 5.8cm × 高さ 5.6cm (遺存) 小破片(全形を復元できる)。(段27)
5093	白磁 瓢 太宰府V類か	5層 G26-0642	(船・焼成) 船土: 棒状性、種々に粗糲を含む。断面: 空隙、薄い赤みの黄 (7.5H 8.5/4) 器表: 内面から高台付近の体部まで施釉。釉薄く、細かく発泡で半透明。施釉部は浅葱 (調整) 口縁: 磁石で。内面: 1回横削下に2つの凹、縦線、内底面周縁に1つの縦線(片岩形)を刻む。体部下部以下、高台まで、回転削削り。高台: 手軽な工具の使用で削り削りだし、費材部は研磨。(計測) 復原 口径 12.5cm × 底径 4.9cm × 高さ 5.5cm (遺存) 底部から口縁部までの小破片。(段27)
5095	白磁 瓢 大宰府IV-la類	5層 G26-0642	(船・焼成) 船土: 精良、均質。断面: 珪藻。器表: 内面から体部高台付近まで施釉。釉薄く、細かく発泡で半透明。施釉部は明るい灰みの黄色 (2.5Y 7.5/2)。露胎部は断面とともに黄みの白色 (2.5Y 9/1)。(調整) 内底面: 半球状で周縁を深い片岩形の縦線で区切る。外側下面に1巻線、高台を強く削りだし、内側を強く削り倒す。(計測) 復原 底径 5.3cm (遺存) 底部細片。(段27)
5097	白磁 水注	5層 G26-0642	(船・焼成) 船土: 棒状性、均質。断面: 黄みの白色 (2.5Y 9/15)。器表: 内外面施釉。釉は薄く均一で、発泡するが透明。施釉部は白磁色 (5.5Y 8/2)。(調整) 類部貯水部と体部と接合。頭部内部は指押さえによる整形。外側周縁部: 片側に把手貼りつけ。(遺存) 類部。(段27)

表5 遺物観察表(5)

遺物番号	遺物	出土位置	遺物記述
5100	弥生土器 壺	溝427 / 16層 G26-0342	〈胎土・焼成〉胎土：粗砂を多量。器表：やわらかく赤みの黄〔10YR 7.5/4.5〕。赤彩痕はつよい赤〔10R 5.5/10 丹色〕。内面は明い灰みの黄〔2.5Y 7.5/2 砂色〕。〈調整〉外側：緞刷毛目→横方向主体の擦り（口縁部直下は鏽削りに近い）。内面：刷毛目→口縁部周回擦り、頭部擦りで、押え（計測）実測 口幅25.3cm（年代）弥生/後期（遺存）口縁部、器表やや変色。（図5）
5101	石製品 粗戈鉢	5層下面 G35- 19	〈胎土・焼成〉表面質砂岩、軟陶質表面滑らか。〈調整〉間の規定幅は11cm前であり、中綱とC類前後の型式の粗戈鉢であろう。種印は無文。（特記）説型面は説金で黒化。説金使用の後、砥石に転用。種下部の穿孔を出す突起部は削平されしており遺存しない。裏面は欠損が大きい。（計測）実測 口幅8.3cm×幅5.5cm×厚さ6cm（年代）弥生/後期（遺存）表面の風化が顕著。（図32）
5102	白磁 高台碗 大宰府V類		〈胎土・焼成〉胎土：粒状性、粗砂。断面：明灰色〔N 8.5〕。器表：内部から外側高台近くまで施釉。釉は薄く発色し半透明で、樹脂状光沢をもつ。施釉部は灰白色〔5Y 8/2〕。施釉部は明灰色〔5Y 8.5〕。〈調整〉高台：回転擦削り、高台は高めに盛りだし、内部は、体部より厚く残す。内底面、高台に対応する位置に輪郭で浅い凹線、中央部には横方向の擦りを行なう。（計測）実測 腹径5.9cm（遺存）底部。（図27）
5108	縦袖陶器 瓢	溝427 / 5層 G35-1945	〈胎土・焼成〉胎土：粒状性、均質。断面：黄〔2.5Y 9/1.5〕。器表：内外面施釉、釉は薄く、半透明、ガラス質光沢。くすんだ黄緑色〔IGY 4.5/3.5〕。（調整）外側、周回方向、斜め、短い单位で繰り返す楕円形の凹窪を密に行なう。（計測）復原 口径13.4cm（遺存）口縁部細片。（図29）
5113	白磁 大宰 府IV類	5層 G26-0633	〈胎土・焼成〉胎土：粒状性、均質。断面：黄〔2.5Y 9/1.5〕。器表：内外面施釉、釉は薄く、細かく発色し半透明、樹脂状光沢をもつ。施釉部黄みの白色〔2.5Y 9/1.5〕。（調整）口部前：回転擦で、以下の体部内外面：鋸歯形で、口唇部とない長い背後を削成して低い段。（計測）復原 口径15.2cm（遺存）口縁部細片。（図27）
5116	須恵器 壺か	5b層 G26-0425	〈胎土・焼成〉胎土：精良、均質、稀に粗砂をふくみ堅く緻まる。器表：外面部青灰色〔5PB 6/1〕。内面明るい灰色〔N 7〕。（調整）底部：高台付り割り一剥离面周回側、内底部：横方向の擦り。（計測）復原 底径9.5cm（年代）奈良/（遺存）底部細片。（図26）
5133	黒色土器 高台 碗 内里	5層下部 G26- 0331	〈胎土・焼成〉胎土：緻密、細膩。器表：内部黒化、外面部のみ赤みを帯びた黄色〔6YR 6/3〕。黒化は器壁内部に及ぶ。（調整）外側：周回擦で、内底面：粗く横方向の凹窪（内部表やや光沢）。（計測）復原 底径5.5cm（遺存）底部。（図27）
5150	瓦 平瓦	5層 G26-0634	〈胎土・焼成〉胎土：精良、粗砂を少量含む。器表：灰白色〔N 7〕。（調整）表面とも無地。側面に崩り取り（計測）実測 長11.0cm×幅12.0cm×厚2.0cm（遺存）前縁部細片、器表やや変色。（図25）
5203	須恵器 高台杯	5層 G35-1045	〈胎土・焼成〉胎土：精良、均質、表面に粗砂あり、堅く緻まる。断面：色調変化に変化。（調整）外側面削り。（計測）復原 底径10.0cm（遺存）底部細片。（図26）
5204	越州窯系青磁 碗	5b層 G26-0914	〈胎土・焼成〉胎土：粒状性、稀に粗砂を含む。断面：黄みの白色〔2.5Y 9/1.5〕。施釉：内外面施釉、高台内に及び。釉薄く、細かな入裂を生じて透明感、ないがガラス光沢。外面部は半ば剥落、くすんだ黄色〔2.5Y 6/4〕。（調整）高台、底盤に体部下部は回転削り、高台は中央を削り込みの目状となる。（計測）復原 底径5.8cm（遺存）底部細片。（図28）
5205	縦袖陶器 皿 蛇の目高台皿	5b層 G26-0223	〈胎土・焼成〉胎土：粒状性、粗砂。断面：空隙。灰オーブル色〔7.5Y 6/2〕。器表：釉がごく一部に残る。施釉部強弱不均、釉は薄く、透明、暗い反光の黄緑〔2.5G 3.5/2〕。（調整）外側：周回擦で、内面：無地、半透明。高台：底面は施釉削除により、中に深く凹線をもつた蛇の目状とする。（計測）実測 口径13.1cm×底径5.0cm×高さ10.0cm（遺存）口縁部細片。（図29）
5209	越州窯系青磁 脚付合子か	5層下 G26- 0614	〈胎土・焼成〉胎土：粒状性、均質。断面：明るい灰色〔N 7〕。種：全面に化粧掛けの後、受部を含む外側面削除したものの、釉は薄く、むら、半透明、樹脂状光沢をもつ、反光の黄色〔5.5Y 5.5/2.5〕。化粧掛けをもつた部位は灰白色〔N 8.5〕、受部端外側は釉を搔き取り（部分的）、光沢のあるくすんだ黄色〔5.5Y 5.5/4.5〕。（調整）外側面周回側。（特記）身の口縁部（計測）復原 口径11.2cm（遺存）口縁部細片。（図29）
5210	縦袖陶器 皿	5層 G35-1043	〈胎土・焼成〉胎土：精良、均質。断面：灰白〔N 8.5〕。器表：体部内外面、高台外面まで施釉する。釉は極薄く、半透明で、むらに掛かる。釉色は、赤みの緑を帯びた黄〔5.5Y 5.5/3.5〕。（調整）外側面平面。内底面周縁に浅い凹線。（計測）復原 底径5.4cm（遺存）底部 5.3cm（図30）
5217	縦袖陶器 瓢	5層 G26-0141	〈胎土・焼成〉胎土：粒状性、均質。断面：明るい黄みの黄色〔2.5Y 7.5/2〕。器表：内外面、高台内部まで施釉。釉は薄く、むらに掛かり、半透明、ガラス状光沢、「くすんだ黄緑色〔IGY 4.5/3.5〕。（調整）内底面：周縁に浅い凹線。楕円形の底窪、底部：糸切り離し一底周縁に沿ひ削りの削り込みを行なった高台に整形。（計測）復原 底径6.1cm（遺存）底部 1/4。（図29）
5218	縦袖陶器 瓢	5層 G26-0541	〈胎土・焼成〉胎土：精良、均質。断面：灰色〔2.5Y 9/2.0〕。器表：高台内を含む全面上に施釉。釉は薄く、塗りむらがある。灰白色〔7.5Y 7/2〕を呈する部分あり。（調整）外側面回転擦で、体部中位で糸切り離し上方に立ち上がる。（計測）復原 底径6.1cm（遺存）底部 1/2。（図29）
5220	明染付 瓢		〈胎土・焼成〉胎土：精良、均質。断面：細孔、黄みの黄色〔2.5Y 9/2.0〕。器表：表裏前面に施釉。釉は発泡して半透明、骨に色をもたらす施釉部はうすい灰〔5G 8.5/0.5〕。（調整）表裏面に舟底に沿うるによる繊維。外側：口縁部間に2条の繊維、以下に蓬草。内面：口縁部間に2条の繊維、中央に2条の繊維。（計測）復原 口径6.1cm（年代）越国（遺存）口縁部細片。（図30）
5230	越州窯系青磁 碗		〈胎土・焼成〉胎土：粒状性、均質。断面：明るい灰色〔N 7〕。施釉：内面から高台外底面まで施釉。釉薄く、透明。ガラス状光沢、灰みの黄色〔5.5Y 5.5/2.5〕。（調整）高台：体部に沿った位置に削り付、底部をやや削り込んで区画する。骨部の削り跡が複数ある。高台内側は底盤に沿って開闊で密に配列する。対応する高台外側に残る。（計測）復原 底径10.8cm（遺存）底部細片。（図28）
5231	龍泉窯系青磁 大宰府I-5a 類		〈胎土・焼成〉胎土：精良、均質、稀に粗砂を含む。断面：明るい灰色〔N 7〕。器表：高台内をのぞく内外の全面施釉、灰みの赤みを帯びた黄色〔10YR 5.5/2〕。（調整）外側面方向の削りによる面取りと片彫りによる蓮瓣文が周回する。内面平滑。（計測）復原 底径4.7cm（遺存）底部小破片。（図29）
5234	須恵器 壺	5層下部 G26- 0543	〈胎土・焼成〉胎土：緻密、稀に粗砂あり、堅く緻まる。器表：青灰色〔5PB 6/1〕。（調整）外側面周回側。（特記）口縁部細片。（図27）
5236	陶器 無頸壺	5層 G36-1323	〈胎土・焼成〉胎土：粒状性、粗砂。断面：明るい灰色〔N 7〕。器表：口縁部以下外側面施釉。釉薄く不透明、赤みを帯びた黄みの赤〔10YR 5.5/2.5〕。（調整）外側面回転擦で、内底面周縁に口沿に開けで目植。（計測）復原 口径10.2cm（遺存）口縁部細片。（図29）
5241	越州窯系青磁 碗 平底碗	5b層 G26-0514	〈胎土・焼成〉胎土：粒状性、均質。断面：空隙。灰みの赤みを帯びた黄色〔6YR 6/1〕。施釉：内面から外側の全部まで施釉。釉は、薄く、むらあり、細かな繊維を生じて透明感、ないがガラス状光沢、灰みの赤みを帯びた黄色〔10YR 5.5/2.5〕。施釉部底盤の赤みを帯びた黄色〔6YR 6/5.3〕。（計測）外側面：回転擦で、底部付近の外側：回転削り、外側面削り跡、縁部削り（削削り）。内底面周縁に口沿に開け目植。大きさ不整（胎土か）、外底面縁面取り部に対応する目植。（計測）復原 底径8.1cm（遺存）底部細片。（図28）

表6 遺物觀察表(6)

遺物番号	遺物	出土位置	遺物記述
5244	越州窯系青磁碗	5層 G35-1935	〔船主・焼成〕粘土・粒状性、均質。断面：明るい灰色〔N 7〕。芯部は変色し明るい灰みの黄色〔2.5Y 5.5/2.5〕。施釉：内外面施釉、高台内に及ぶ。釉薄く、半透明、にぶいガラス状光沢、灰みの黄色〔3.5Y 5.5/2.5〕。 〔調整〕体部に沿った位置位置に高台を削りだす。体部をやや削り込んで高台を区画する。目前、内底面周縁に楕円形状の目皿(船主)か等開闊で密に配列する。対応する高台發付にも残る。(計測) 復原 底径 13.7cm (遺存) 底部細片。(図28)
5247	越州窯系青磁碗	5b層 G26-0612	〔船主・焼成〕粘土：やや粒状性、均質鐵器。断面：粒状、明るい灰色〔N 7〕。器表：釉は極薄く均一で発泡、磨ガラス状。反みの黄色〔5.5Y 5.5/2.5〕。 〔調整〕回転撫で、内面平滑。外面細かな波状。(計測) 復原 口径 15.2cm (遺存) 口縁部細片。(図28)
5248	越州窯系青磁碗	5b層 G26-0514	〔船主・焼成〕粘土：精良、均質。断面：灰色〔7.5Y 9/1〕。器表：内外面施釉、釉極薄く、細かく発泡して半透明、細かく買入を生じ、細胞状光沢、灰みの黄色〔5.5Y 5.5/2.5〕。 〔調整〕内面平滑、周回方向に細い黄緑色〔2.5Y 5/2.5〕。 〔特記〕口縁部外反。(計測) 器高 3cm (遺存) 口縁部細片。(図28)
5249	絵釉陶器 瓶	5b層 G26-0514	〔船主・焼成〕粘土：精良、釉に粗糸を含む。断面：灰色〔N 6〕。器表：内面面施釉。釉は極薄く、透明で既に掛かる。反みの黄色〔2.5Y 5/2.5〕。 〔調整〕回転撫で、口縁端を押さえ外反。(計測) 復原 底径 7cm (遺存) 底部破片。(図28)
5250	越州窯系青磁碗	5b層 G26-0514	〔船主・焼成〕粘土：精良、均質。断面：明るい灰色〔N 7〕。器表：内外面化粧打げ、施釉、釉薄く、細かく発泡して透明、ガラス光景を呈すが、買入を生じ半ばが剥落する。反みの黄色〔5.5Y 5.5/2.5〕。 〔調整〕回転撫で、口縁端を押さえ外反。(計測) 復原 口径 18.0cm (遺存) 口縁部細片。(図28)
5256	絵釉陶器 皿	5層 下部 G26-0731	〔船主・焼成〕粘土：精良、均質。断面：明るい灰色〔N 7〕。器表：内外面施釉。釉は極薄く、半透明、ガラス状光沢。くすんだ黄緑色〔1GY 4.5/3.5〕。 〔調整〕回転 口径 15.5cm (遺存) 口縁部細片。(図30)
5264	白磁 瓢 大辛 府庫類	5層 下 G26-0624	〔船主・焼成〕粘土：精良、均質。断面：細孔、明灰色〔8.5-9.5〕。器表：内外面施釉。釉はやや厚く、むらがある。外面は発泡によるものか、縮痕前、樹枝状光沢。内面は平滑でにぶいガラス状光沢。明るい反みの黄色〔2.5Y 5.5/2.5〕。 〔調整〕回転撫で、口縁端を削り下げる。口縁部裏面を平らに撫で。外面：体部中位以下は笠割りか。(計測) 復原 口径 16.3cm (遺存) 口縁部細片。(図27)
5268	褐釉陶器 注口 か	5b層 G26-0443	〔船主・焼成〕粘土：粒状性、粗糸。断面：赤褐色〔10Y 5/1〕。器表：全面に施釉。釉薄く、斑にかかり不明顯。暗い反みの黄色〔5.5Y 3/2〕。 〔調整〕粘土を板状に整形。(特記) 板状の手舟(遺存) 手舟部の細片。(図29)
5270	絵釉陶器 瓶	満427 G35-10	〔船主・焼成〕粘土：粒状性、僅に粗糸を含む。断面：明るい灰色〔6.5〕。器表はやわらかい黃赤色〔6.5Y 7/5〕。器表：内面、高台内まで施釉。釉薄く、むらに掛かり、半透明、ガラス状光沢。 くすんだ黄緑色〔1GY 4.5/3.5〕。 〔調整〕内面：重弧状の凹靡きを重複。外面：周回方向の凹靡き。 (計測) 復原 底径 7.2cm (遺存) 底部 1/4。(図29)
5271	越州窯系青磁碗	5b層 G26-0615	〔船主・焼成〕粘土：精良、均質。断面：明るい灰色〔N 7〕。器表：内面外面上部に施釉、釉はむら、発泡して不透明部と透明部を生じる。透明部反みの黄色〔5.5Y 5.5/2.5〕、不透明部黄色〔7.5Y 9/1〕。 〔調整〕織籠形、成塊形。周回撫で。内面糊打。(計測) 復原 口径 14.1cm (遺存) 口縁部細片。(図28)
5273	絵釉陶器 瓶	5b層 G26-0615	〔船主・焼成〕粘土：精良、均質。断面：赤褐色〔7.5Y 7/2〕。器表：内外面施釉。釉は斑にかかり、前面では黄緑路のみ。半透明で、ガラス状光沢が、半透明路。柔らかく黄緑〔0.5GY 6/5.5〕。 〔調整〕内面糊打。(計測) 復原 口径 13.6cm (遺存) 口縁部細片。(図29)
5276	絵釉陶器 瓶	5層 G26-0541	〔船主・焼成〕粘土：精良、均質。断面：釉に粗糸を含む。醸化焼成後、軟質。断面：うすい黄赤〔5YR 8/5.5〕。器表：内面糊打。釉薄く、半透明。ガラス状光沢が、半透明路。柔らかく黄緑〔0.5GY 6/5.5〕。 〔調整〕内面糊打。底部：糸切り離す。(計測) 復原 底径 5.1cm (遺存) 底部 1/3。(図29)
5285	絵釉陶器 瓶	5b層 G26-0613	〔船主・焼成〕粘土：粒状性。断面：くすうすい反みの黄色〔10YR 8/5.5〕。器表：外面から高台内まで施釉。釉は斑に掛かり、発泡、半透明、ガラス状光沢。 くすんだ黄緑色〔1GY 4.5/3.5〕。 〔調整〕体部：内面糊打撫で。内底部：中心付近に團線。高台：貼りつけ、高く整形。 (計測) 復原 底径 7.0cm (遺存) 底部 1/4。(図29)
5286	越州窯系青磁碗	5層 F G26-0614	〔船主・焼成〕粘土：粒状性。粗糸。断面：明るい反みの黄色〔2.5Y 7.5/2.5〕。施釉：高台内を含む全面に施釉。釉は極薄く、細かく発泡。買入を生じ半透明、ガラス状光沢。 くすんだ黄色〔2.5Y 6/4.5〕。 〔調整〕高台：高く作り出す。内面は、刮削を利用した撫でにより平坦、収付部は斜面によるものか。手揉みの断面形となる。端部の端縁を引き落としたものか露胎となる。目組は認められない。(計測) 復原 底径 5.5cm (遺存) 底部細片。(図28)
5291	越州窯系青磁皿	5層 G26-9353	〔船主・焼成〕粘土：精良、均質。粗糸。断面：明るい灰色〔N 7〕。器表：内外面施釉。釉は極薄く内面透明で買入を生じるガラス状光沢。外面磨ガラス。 くすんだ黄色〔2.5Y 6/4〕。 〔計測〕復原 口径 1.6cm (遺存) 口縁部細片。(図28)
5292	絵釉陶器 瓶	I3層 G26-0553	〔船主・焼成〕粘土：粒状性。釉に細孔。断面：反灰〔2.5Y 6/2〕。器表：内面から外面高台内まで施釉。釉薄く、やや絞りもち透明。ガラス状光沢。 〔調整〕内面：体部斜めの凹靡きが交差する。内底面は不正確な凹靡形。 (計測) 復原 底径 8.0cm (遺存) 底部細片。(図29)
5300	砥石か	満427 /22層 G35-1945	〔船主・焼成〕石材：砂岩/円錐状地質で軟質。(調整) 上下面に溝〔片面1条、多箇2条〕。溝と体部との境界は不明顯。(特記) 砥石としては画面とする平滑部が少られない。(計測) 実測 口径 7.4cm×幅 5.7cm×厚 4.1cm / 178.0g (遺存) 1/2の破片。(図20)
5303	石疊 整形/筋 跡形/被溝	満427 /22層 G35-1945	〔船主・焼成〕石材：緑色片岩か。 〔調整〕長軸に沿う方向の削り調整後、僅かに研磨をおこなう。削り面の研磨不明顯。溝は細く深い。長軸に沿い一々巡る。(計測) 実測 長5.6cm×幅2.4cm×厚2.0cm / 36.0g (遺存) 完存。(図17)
5306	石匣丁未成品	満427 /16層 G26-0443	〔船主・焼成〕石材：緑凝灰岩。〔調整〕平面形を大まかに整え、素材面を一部残して全体を研磨。背曲、刃縁の研磨素行中だが、刃縁には新たに剝離面。穿孔なし。(計測) 実測 長4.6cm×幅0.4cm×厚0.7cm / 57.0g (遺存) 完存。(図21)
5307	須恵器 蓋環 (身)	5層 下部 G26-9431	〔船主・焼成〕粘土：やや粒状性、釉に細孔、堅く織まる。器表：青灰色〔5層 6/1〕内面、外面は灰を被り粗面を成す。 〔調整〕内外面：回転撫で。(計測) 復原 口径 1.2cm (年代) 古墳/中期 (遺存) 破片。(図26)
5310	須恵器 環	5b層 G26-0431	〔船主・焼成〕粘土：精良、細孔。やや軟軟。器表：灰白色〔2.5Y 7/1〕。 〔調整〕上面：回転撫削で。(計測) 復原 器高 0.7cm (年代) 春良/後期 (遺存) 口縁部細片。(図26)
5313	須恵器 環	I2層 G26-9651	〔船主・焼成〕粘土：やや粒状性、均質。少量の粗糸を含み壓く織まる。器表：灰白色〔2.5Y 6/1〕。 〔調整〕内外面周回撫で。(遺存) 口縁部細片。(図27)

表7 遺物觀察表(7)

遺物番号	遺物	出土位置	遺物記述
5384	越州窯系青磁 瓶	5層下底 626-0711	〈胎土・焼成〉胎土：粒状性。粗砂を含む。堅密。器表：極薄い赤みの黄〔10YR 8.5/3〕。施釉：内外面から高台外底面まで施釉。釉は薄い。大半は剥離し、遺存部も表面粉状に変化。現状では器表粉状、黄みの白色〔2.5Y 9/15〕。〈調整〉高台：明瞭に立ち上かる。削面前の觀察から、高台部と体部との間に不整合部があることがわかる。高台内は浅く削り込み。輪状の高台を形成する。目付：内面は不規則、高台置付に比較的均一な間隔に配列する（注目）。〈特記〉被熱か、全体に凹みがかかる。器表粉状。〈計測〉復原 底径 7.8cm（遺存）底部。（図28）
5398	瓦 平瓦	5層 626-0243	〈胎土・焼成〉胎土：やや粒状性。粗砂を含む。堅密。器表：灰色〔N 6.5〕。〈調整〉凹面：布目压痕一撫で。布目压痕をほぼ完全に消す。凸面：格子目明き（粗目）一周線部撫で。側面：棒成形か。端面：鋸削り。（計測）実測 長9.0cm×幅8.0cm×厚2.5cm（遺存）前端部細片。（図25）
5401	縄輪向器 瓢	5b層 626-9652	〈胎土・焼成〉胎土：精良。粗砂を含む。断面：柔らかい赤みの黄〔10YR 7.5/4〕。器表：内外面施釉。釉は薄い。むらありながら、半透明。輪状気泡状をもつ。灰みの赤みを帯びた黄色〔10YR 5.5/2〕。〈調整〉体部：内面周回方向の剥離さ、外面部斜め方向の凹部。内面底面部に輪状に凹部。外底面底部は粗状の輪状に剥離する形態。胎土を押しつけ整形。外底面や凹面を成す小窪。全体に不定形柱状孔（革孔）。〈計測〉裏面復原 口径16.5cm×底径8.1cm×厚高5.3cm（遺存）小破片。（図28）
5402	越州窯系青磁 碗 平底碗	5b層 626-9652	〈胎土・焼成〉胎土：粒状性。粗砂。断面：孔彌、黑色織部。施釉：内面～外面上部半部粗引掛け、施釉。胎土：柔らかい。粗砂、粗入。手半以上剥落。長い青色〔5Y 6/4〕。化粧掛けのみの部分は青みの明るい灰色〔7.5B 7.5/0.5〕。露胎部は、黄赤みの灰色〔5YR 6/1〕。〈調整〉体部：ろくろ旋ぎ。口縁部：やや内底周回部に立ち上かる。凹部整形。内底面周回部に輪状に凹部。外底面底部は粗状の輪状に剥離する形態。胎土を押しつけ整形。外底面や凹面を成す小窪。全体に不定形柱状孔（革孔）。〈計測〉裏面復原 口径16.5cm×底径8.1cm×厚高5.3cm（遺存）小破片。（図28）
5448	砥石 陣形	5b層 626-0212	〈胎土・焼成〉石材：砂岩（調整）本來角柱状の砥石の部分を利用したものの表裏、両側面が砥面となるが、片側の広い面以外は、鉋用前のものか。〈計測〉実測 口径14.8cm×幅11.1cm×厚2.2cm（410.2g）。（図32）
5491	須恵器 高台环	5層 626-9932	〈胎土・焼成〉胎土：やや粒状性。粗砂。器表：外面明るい灰色〔N 6.5〕。内面吹みの赤みを帯びた黃〔9YR 5.5/2.5〕。〈調整〉内面：横方向の撫で。外底面：鋸削り→高台底付り→一周回撫で。（計測）復原 径7.7cm（遺存）底部細片。（図26）
5509	瓦 丸瓦	5b層 626-0711	〈胎土・焼成〉胎土：精良。均質。粗砂少々含み。軟質。器表：やや粉状。（計測）実測 長6.0cm×幅9.0cm×厚1.7cm（遺存）前部端細片。（図22）
5520	越州窯系青磁 碗	5層 626-9852	〈胎土・焼成〉胎土：粒状性。粗砂。断面：空隙、明るい灰色〔N 7〕。施釉：外底面以外の内外面施釉。釉は、薄く、柔らか。細かな入生を生じる透明。長い青色光沢、灰みの黄色〔2.5Y 6/2〕。〈調整〉底部：底部底辺に差し離す。凹面。内底面よりやや高い位置に目皿（胎土か）。〈計測〉復原 底径5.3cm（遺存）底径1.3cm。（図26）
5524	縄輪向器 瓢	5層下部 626-9354	〈胎土・焼成〉胎土：粒状性。均質。遺存焼成地で堅く繋まる。断面：うすい黄赤〔5YR 8/5〕。器表：内外面施釉。釉薄く、半透明。大部分剥落。灰みの黄緑色〔2.50Y 5/2〕。〈調整〉内外面周回削除で、器表は平滑。（特記）縄輪 同上。（計測）復原 口径12.8cm（遺存）口縁部細片。（図29）
5580	長沙窯系陶器 貼花文水注	5層 626-8851	〈胎土・焼成〉胎土：精良。均質。断面：やわらかい赤みの黄色〔9YR 7.5/4〕。器表：外面部施釉。釉薄く、細かく、発泡し、透明。施釉部はくすんだ黄色〔2.5Y 6/4〕、貼花部には施釉部を掛ける（軽い吹きの赤〔3YR 3/2〕）。内面露胎部は暗い吹きみの赤みを帯びた黄〔9YR 4/3〕。〈調整〉外面：周回削除。外面：貼花部を付け後施釉。又様部に施釉。（年代）古代（遺存）体部の細部。（図29）
5701	東渡系土器 瓢	溝427 / 16編 G26-0244	〈胎土・焼成〉胎土：細密。細孔なしでまばらな（灰色泥質胎土）。器表：暗い灰色〔N 3〕。遺存始燒成（調整）外面：同軸撫で一擦きの底面；静止条件一擦き調整。内面：放射状暗文か（計測）復原 底径10.0cm（遺存）底面周回細片。内面大部分割削。（図14）
5702	東渡系土器 瓢	溝427 / 16編 G36-1112	〈胎土・焼成〉胎土：細密。細孔なしでまばらな（灰色泥質胎土）。器表：暗い灰色〔N 3〕。（遺存始燒成）（調整）内面：強い回転撫で（底部付近の調整不鮮）（計測）復原 口径7.4cm（遺存）底部細片（器表粉状で磨滅感有）。（図14）
6045	軟質土器 瓢	5b層 626-99	〈胎土・焼成〉胎土：粗砂を多量。器表：くすんだ黄赤〔2YR 6/8〕。（調整）器表調整不明。惚でか（特記）底面周回細片。（図14）
6047	越州窯系青磁 皿	5b層 626-90	〈胎土・焼成〉胎土：粒状性。粗砂を含む。断面：白色〔N 8.5〕。施釉：体部の全面、外底面に及ぶ。釉は、薄く、柔らか。細かく発泡し透明。磨ガラス状で、灰みの黄〔2.5Y 6/2〕。〈調整〉釉下に、内底面では横方向の、外底面体部下部では周回撫でが観察できる。内底面では、周囲に状の線繩が刻まれる。底部は鋸削りによる平底であるが、中央が持ち上がり凹面となっている。（計測）復原 底径4.8cm（遺存）底部1/3の破片。（図28）
6068	旁生土器 壺	溝427 / 16編 G26-9733	〈胎土・焼成〉胎土：粗砂を含む。焼成：やや軟。器表：やわらかい黄赤〔2.5Y 7.5/5〕。赤部からくすんだ黄みの赤〔7.5YR 6/8〕。（調整）外面：縦方削引一回軸付近撫で、胴下部周回撫で、鋸削り内削：擦で。粘土細孔目と指押さ赤部。（年代）旁生（後期）（遺存）口縁部一部と体部3/4欠落完品。（図16）
6069	旁生土器 壺	溝427 / 16編 G26-0544	〈胎土・焼成〉胎土：砂粉を含む。器表：暗い吹きみの赤〔5YR 4.5/2〕。内面は暗い灰色〔NA〕。（調整）外面：刷毛刷引一回軸周回撫で、内面：口縁部刷毛刷引調整、脚部を撫で。（特記）外縁模様の付着物、被熱による赤堀。底部を除く胴内側におぼけ状の付着物。（計測）復原 口径19.7cm×底径7.4cm×高22.5cm（年代）旁生（後期）（遺存）略完形。（図10）
6071	旁生土器 有孔 鉢	溝427 / 16編 G26-0541	〈胎土・焼成〉胎土：粗砂を多量。器表：やわらかい赤みの黄〔10YR 7.5/4.5〕（二次被熱赤变）、内面やわらかい黄赤〔2.5YR 7.5/5〕。（調整）外面：刷毛刷引調整、底盤付近削り内削：刷毛目（底盤付近は層状刷毛目）。底部は焼灰付前孔（特記）内底面が底盤刷毛目。（計測）復原 口径27.1cm×高16.7cm（年代）旁生（後期）→鉢（後期）（遺存）断然完品。（図16）
6072	旁生土器 壺	溝427 / 16編 G26-0541	〈胎土・焼成〉胎土：細密。明るい吹きみの赤みを帯びた黄〔10YR 8/3〕。内面暗い黄赤〔5YR 8/5〕。（調整）外面：刷毛刷引一回軸周回撫で、内面：口縁部刷毛刷引調整、脚部を撫で。（特記）外縁模様の付着物、被熱による赤堀。底部を除く胴内側におぼけ状の付着物。（計測）復原 口径23.5cm×底径17.0cm×高29.8cm（年代）旁生（後期）（遺存）略完形。（図10）
6073	旁生土器 壺	溝427 / 16編 G26-0531	〈胎土・焼成〉胎土：細密。細孔や多く含む。器表：やわらかい黄赤〔2.5YR 7.5/5〕。内面やわらかい赤みの黄〔10YR 7.5/5.5〕。（調整）外面：刷毛刷引一回軸周回撫で、内面：主に周回削除。脚部周回撫で、部材的に赤彩刷毛。内面：刷毛目一部類別的に周回削除。（特記）脚部打削り（断面削除）。脚部中に焼灰付の穿孔。（年代）旁生（後期）（遺存）内外面表裏灰。（図16）
6105	須恵器 捶鉢	5層 G36-1111	〈胎土・焼成〉胎土：粒状性調査基。和田あり。やや軟。器表：明るい灰色〔N 7〕。（調整）内外面周回撫で。（年代）中世（遺存）口縁部細片。（図27）
6121	土師器 壺	5層 G35-1045	〈胎土・焼成〉胎土：粒状性、細密。器表：外面部：暗い灰色〔NA〕。内面灰色〔N 5.5〕。（調整）内外面周回底面の撫で。（計測）復原 口径28.1cm（遺存）口縁部細片。（図27）
6131	土師器 高台鉢	5b層 626-0514	〈胎土・焼成〉胎土：やや粒状性、粗砂を僅かに含み、堅密。器表：やわらかい赤色〔6.5YR 7/5〕。（調整）高台：削れ面では堅密に埋め込んだ状態。外面部：周回撫で。（計測）復原 底径12.6cm（遺存）底部小破片、内面遮れ跡者。（図26）

表8 遺物観察表(8)

遺物番号	遺物	出土位置	遺物記述
6146	須恵器 草	5層 G35-1043	(船士・挽成) 船士: やや粒状性、均質、粗砂粒を含み、やや軟質(粉枠)。器表: 灰白色(No. 7.5)。(調整) 底部: 手切り離しかけで(朱線を残さない) 内外面回転撫で。(計測) 復原 底径7.3cm(遺存) 底部細片。(図26)
6148	須恵器 蓋 大	5層 G36-1215	(船士・挽成) 船士: 精良、粗砂少量、堅致。器表: 暗い灰みの黄赤色(5YR 4.5/3)。(調整) 内外面回転撫で。(遺存) 口縁部細片。(図27)
6154	須恵陶器 磨	4層 G26-09	(船士・挽成) 船士: 粒状性、粗砂、断面: 明るい灰色(No. 7)。器表: 種の痕跡なし。(調整) 内外面撫で、平滑、内底面に縦に、不整な凹面。(計測) 復原 径6.6cm(遺存) 底部 1/2。(図29)
6155	瓦 平瓦	5b層 G26-0521	(船士・挽成) 船士: 精密、種々に粗砂粒、均質で、直質。器表: 植し状、石らのある灰色。(調整) 凹面: 植C- ² 布目E底(相目の組目)。凸面: 植で一部的に叩き目調整(組目)。(計測) 実測 長12.0cm×幅10.0cm×厚1.6cm(遺存) 前端部細片。(図25)
6157	備前系御器 蓋	満427 G26-0344	(船士・挽成) 船士: 粒状性者、細繩。断面: 灰色(No. 5.5)。器表: 器表のみ弱い灰みの黄赤色(1YR 4.5/4)、斑点。(調整) 内面: 回転撫で。外面: 小い刷毛目調整(植き目工具)。(遺存) 頸部細片。(図30)
6159	埴文土器 深鉢	土器段重1047 G26-0152	(船士・挽成) 船士: やや粒状性、細繩。器表: 灰みの赤みを帯びた黄色(6YR 6.5/8)。外面黒褐色斑。(調整) 外面: 矩い単位の刷毛目調整一辺部に突帯貼り付け。割込み。内面: 挽で、指押え。(遺存) 口縁部細片。(図30)
6160	須恵器 高台杯	5層下部 G26-8732	(船士・挽成) 船士: 精良、堅致。器表: 明るい灰色(No. 7)。(調整) 内底面: 回転撫で一横方向の撫で、外底面: 底面削り引り高台貼り付け一回回撫で。(計測) 復原 径8.5cm(年代) 奈良(遺存) 底部細片。(図26)
6164	土製品 土製丸	満427 G26-9835	(船士・挽成) 船士: 粒状性、粗砂。器表: 明るい灰みの黄色(2.5Y 7.5/2)。(調整) 手捏ねにより、底部に整形、全面削り。器表僅かに凹面。(計測) 実測 径1.5cm×厚0.8cm(遺存) 完存。(図15)
6170	瓦 平瓦	不整な甃目1041 G26-0351	(船士・挽成) 船士: やや粒状性、細繩。縦に縛る。器表: 灰色(No. 5.5)。下面は震し状。(調整) 凹面: 黃い布目印痕。凸面: 格子目叩き(組目)。端部: 壁削り。(計測) 実測 長9.0cm×幅15.0cm×厚1.7cm(遺存) 端部細片。(図23)
6172	瓦器 碗	5層 G26-0145	(船士・挽成) 船士: やや粒状性、粗砂。器表: 滴落する。黒色(No. 1.5)。(調整) 口縁部内面に、凹縫。(特記) 構内系(計測) 復原 長14.2cm(遺存) 口縁部の横細片、全体に麻縫。(図27)
6176	土師器 丸底碗	5層 G26-0241	(船士・挽成) 船士: やや粒状性、細繩。器表: やわらかい赤みの黄色(6YR 7.5/4)。(調整) 内外面回転撫で、底部競切し離し一凹底部出し(内底部押加壓、底部撫で)。(計測) 復原 口径14.8cm×底部高3.3cm(遺存) 1/4の破片。(図26)
6198	瓦質土器 碗	5層 G26-0244	(船士・挽成) 船士: 精良、均質、やや直質。器表: 光沢のある青い灰色(No. 2.5)。(調整) 内外面、縦一斜めの不整、粗い荒削り。(計測) 復原 口径15.5cm(遺存) 口縁部細片。(図27)
6204	須恵器 瓢	5層 G26-0155	(船士・挽成) 船士: 粒状性者、粗砂をふくらみ、軟質、断面: 色部赤化。器表: 灰色(No. 5.5)。(調整) 内外面回転撫で。内底面若しく荒れて底が陥る。(計測) 復原 底径7.5cm(遺存) 底部小破片。(図26)
6218	須恵器 瓢	5層 G35-10	(船士・挽成) 船士: 均質、やや粒状性。器表: 灰色(6.5N)。(調整) 底部: 手切り離し一部分的に撫で、内底面: 小挽き痕。(計測) 復原 底径8.0cm(遺存) 底部1/2の破片。(図26)
6229	瓦質土器 碗	5b層 G26-0612	(船士・挽成) 船士: 精緻、均質、やや直質。(計測) 復原 口径19.0cm(遺存) 口縁部細片、器表: やや削れ。(図14)
6233	須恵器 程钵	5層下部 G26-0651	(船士・挽成) 船士: 粒状性、粗砂あり、堅致。器表: 明るい灰色(No. 7)。口縁部から直下の外表面は暗い灰(No. 4)でやや光沢をもつ。(調整) 内外面回転撫で。(特記) 口縁直下に重ね焼き跡(色調の変化)。(遺存) 口縁部横細片。(図27)
6236	黑色土器 高台 碗	雨垂1024 /5層 下部 G26-0343	(船士・挽成) 船士: 精密、粗砂。断面: 色光明るい灰色(No. 7)。器表部黄みの白色(2.5Y 9/15)、内面削れ、暗い灰色(No. 2.5)。(調整) 外面: 口縁部周回方角の削り痕、把手台形状に削り残し、内面: 斜行工具痕。(特記) 口縁部回転撫で。(計測) 復原 口径19.6cm(遺存) 口縁部細片、器表: やや削れ。(図27)
6237	埴文土器 深鉢	5層下部 G35-19	(船士・挽成) 船士: 粒状性、細繩觀者。器表: 外面弱い灰色(No. 2.5)、内面灰みの赤みを帯びた黄色(6Y 6.5/5)。(調整) 内外面外縁に離す。器表部細片。(年代) 織文/晩期(遺存) 口縁部細片、器表見付。(図30)
6248	須恵器 瓢	5層下 G26-0614	(船士・挽成) 船士: やや粒状性、細繩。堅く縛る。器表: 外面暗い灰色(No. 4)、内面灰色(No. 5)。(調整) 内外面周回削り。(遺存) 口縁部細片。(図27)
6261	石鍋	5b層 G26-0254	(船士・挽成) 石材: 清石。(調整) 口縁部周回方角の削り痕、把手台形状に削り残し、内面: 斜行工具痕。(特記) 口縁部回転撫で。(計測) 復原 口径26.8cm(遺存) 口縁部細片。(図30)
6268	瓦 平瓦	5層 G26-0142	(船士・挽成) 船士: 粒状性者、粗砂細粒、やや軟質。器表: 灰色(7.5Y 9/1)。(調整) 凹面: 布目煎一後端部剥離。凸面: 直角格子(稲穂目)一後端部剥離。後端部: 周回方角の削り痕。(計測) 実測 幅24.0cm×幅17.0cm×厚2.5cm(遺存) 後部小破片、縫合一部遺存。(図24)
6276	瓦 平瓦	5層 G26-0252	(船士・挽成) 船士: 精良、細繩、軟質。器表: 器表部と明瞭な境界を成して色調が異なり灰色(No. 6)。器表: 灰色(7.5Y 7/2)。(調整) 凹面: 布目煎一は全底部撫で、裏面に及ぶ。凸面: 叩き目調整(植組目)、縫合部くわで(夷く条線状)。(計測) 実測 長13.0cm×幅9.0cm×厚2.2cm(遺存) 縫合部細片、器表部粉状に剥離。(図24)
6278	越州窯系青磁	5層 G35-1035 注口煎	(船士・挽成) 船士: 粒状性、均質、特に細繩。断面: 明るい灰色(No. 7)。器表: 色道存せず。(調整) 横転方向の撫で。(計測) 実測 口径4.2cm(遺存) 注口部破片。(図26)
6280	瓦 平瓦	5層下部 G26-0321	(船士・挽成) 船士: 精良、特に細繩、極度軟質。断面: 灰白色(2.5Y 7/1)。器表: 粉状、灰白色(7.5Y 7/2)。(調整) 凹面: 布目煎。凸面: 相目格子目叩き一縁部撫で。(計測) 実測 長12.0cm×幅7.0cm×厚2.2cm(遺存) 後部細片。(図24)
6287	土製品 土鉢	満427 /16層 G26-0241	(船士・挽成) 船士: 粒状性者、粗砂。器表: 植し状形、器表平滑に調整。中央の最大径部に浅い縁線、部分的に2条。(計測) 実測 口径 3.8cm×底径3.0cm×高3.0cm(0年代)(遺存) 1/3弱(遺存) 縫合部細片、器表粉状に剥離。(図24)
6293	越州窯系青磁	13層 G26-0551 碗	(船士・挽成) 船士: 粒状性、均質。断面: 明るい灰色(No. 7)。器表: 種は煎跡の底以外の全面施釉)。(調整) 内底面: 周回撫で、底部: 刮削部削り、中底の位置に片切りのII縁線、見た目蛇の目高台状に仕上げる。(計測) 実測 幅7.8cm(遺存) 底部2/3の破片。(図26)
6296	須恵器 瓢	11層 G26-9641	(船士・挽成) 船士: やや粒状性、均質。粗砂、薄青色粗粒少量、堅致。器表: 灰白色(2.5Y 7/1)、樹脂状灰斑、内面には被り。(調整) 内外面回転撫で。(計測) 復原 口径15.0cm(年代) 古墳/中期(遺存) 口縁部細片、油化。(図26)
6297	埴文土器 粗製 深鉢	13層 G25-0041 4.5/2	(船士・挽成) 船士: やや粒状性、粗砂、細繩。断面: 粗糸。器表: 薄い灰みの赤みを帯びた黄色(8.5Y 6/2)。(調整) 内外面: 断面削り。(不整)。(特記) 特製土器(計測) 復原 口径24.2cm(年代) 織文/晩期か(遺存) 口縁部含む細片。(図30)
6305	石錐未成品 円盤形	満427 /18層 G26-9834	(船士・挽成) 石材: 清石。(調整) 厚い板状の素材周縁を打ち欠き整形。突起複様の工具による穿孔。孔縁部研磨。(計測) 長18.1cm×幅17.0cm×厚5.1cm/2550.0g(遺存) 半手欠。(図17)

表9 遺物觀察表(9)

遺物番号	遺物	出土位置	遺物記述
6306	須恵器 亂	試掘トレンチ 1008 G26-97	〈胎土・焼成〉胎土・粒状性・稀に粗砂・堅密。器表: 灰色(N5, 5) (調整) 口縁部・頸部・内外面凹凸撫で、体部(底)で一部底面凹凸撫で。一類部内部指す痕・外側面部方向の彫刻痕状況。〈計測〉復原口径8.0cm (年代) 古墳/中期 (遺存) 片側1/4の小破片、底部欠。(図26)
6307	土製品 土製丸玉	25層 G26-99M2	〈胎土・焼成〉胎土・粒状性・粗砂。器表: 明るい灰みの黄色(2, 5, 5/2)・半ば以上に黒斑。(調整) 手捏ね整形。細かな撫で、平滑。(計測) 実測 径2.0cm / 7.0g (遺存) 極一部欠。(図15)
6308	砥石 板形	満427 / 22層 G26-0142	〈胎土・焼成〉石材: 砂岩(四辺削の板状) (調整) 表裏面、対向する側面を砥面。表裏面はほぼ平面、側面の一方は施して断面凸面、他方は割れ面を部分的に残す。他側面は割れ面。(計測) 実測 長17.0cm×幅1.2cm×厚3.3cm / 1850.0g。(図20)
6311	石錐 檜/交差形	満427 / 16層 G26-0615	〈胎土・焼成〉石材: 玄武岩/偏平な円錐。(調整) 素材種の長軸側両端、両側縁中央部を表面に向けて打ち欠き、生成した棱部を打ち直し調整。(計測) 実測 長12.7cm×幅10.5cm×厚3.4cm / 665.0g (遺存) 完存。(図18)
6312	磨製石斧 太形 蛤刃石斧	満427 / 21層 G36-1111	〈胎土・焼成〉石材: 玄武岩 (調整) 全面敲打調整後、研磨(凸部を削り平ら)。頭部削痕痕跡付。(計測) 実測 長14.9cm×幅7.1cm×厚4.7cm / 902.0g (遺存) 刃部折損。(図上表面から裏) 器表風化粉状に剥離。(図21)
6326	弥生土器 瓢	満427 / 19層 G26-0341	〈胎土・焼成〉胎土・織密・粗砂。器表: 灰みの赤みを帯びた黄(9Ⅲ, 5.5/2, 5)。(調整) 外面: 織目調整→1段階付近・頭部突起部に五角形切欠。内面: 織目削痕・頭部を周回切欠。文様: 口縁部外側面印文織、口縁部内側面工具により羽文式。(特記) 近江→東海系系広分布。M1041からも同一個体片が出土。(計測) 復原 口径21.4cm (年代) 弥生/後期 (遺存) 口縁部大破片。(図12)
6331	敲打器 砧	満427 / 18層 G26-9734	〈胎土・焼成〉石材: 玄武岩/偏平錐。(調整) 偏平錐の薄い側の側面の表面に削離痕連続。部分的に微削離痕が加わる。削離面はかが形成されないもの。(特記) 片面の中央部・側縁・縁部欠。器表や風化。(図19)
6334	石錐 檜/楕形	満427 / 18層 G26-9834	〈胎土・焼成〉石材: 玄武岩・円錐。(調整) 素材種の中軸中央部を表裏両面の削りにより打ち欠いた。さらに側面調整を加えて棱部を削す。(計測) 実測 長16.8cm×幅10.5cm×厚5.0cm / 1330.0g (遺存) 完存。(図18)
6337	敲打器 砧	満427 / 18層 G26-9655	〈胎土・焼成〉石材: 玄武岩/円錐(偏平)。(調整) 腹側辺に大小2箇削痕既存。両側辺及びゴーフの短辺棱部は打ち削れ。(計測) 実測 長12.2cm×幅2.2cm×厚2cm / 435.0g (遺存) 完存。(図19)
6342	石斧 太形柄頭 石斧	満427 / 21層 G26-0341	〈胎土・焼成〉石材: 玄武岩 (調整) 部分的に敲打痕を残し全表面を研磨。左側面は長軸方面形状の削き面で調整。(特記) 表上から裏に向かって折れ。(計測) 実測 長8.8cm×幅6.5cm×厚3.0cm / 287.0g (遺存) 下半断面片。(図21)
6347	磨石	満427 / 22層 G26-9751	〈胎土・焼成〉石材: 火山岩が「調整」壁のある卵形石材の広い側の端面に僅かな平坦面が形成される。周囲の削離はやや、平滑となるが、形状不整、境界は不明瞭。(計測) 実測 長10.5cm×幅9.5cm×厚6.0cm / 966.0g (遺存) 完存。(図18)
6348	石錐 檜/楕形	満427 / 22層 G26-9743	〈胎土・焼成〉石材: 玄武岩・偏平錐を利用。(調整) 偏平な素材の両側面中央部を敲打により切り欠き、さらに表裏両面の棱部を敲打し丸みを持たせている。(計測) 実測 長3.3cm×幅4.5cm×厚1.8cm / 102.0g。(図18)
6350	叩石	満427 / 22層 G35-1023	〈胎土・焼成〉石材: 砂岩/円錐。(調整) 厚みのある円錐の側面の西方と圓上表面中央が、打撃により深く抉れる。側面には三方に打撃痕があり、部部に磨ったような平坦面を形成している。(計測) 実測 長8.1cm×幅6.8cm×厚4.8cm (遺存) 完存。(図18)
6359	石錐 檜/楕形	満427 / 22層 G36-1111	〈胎土・焼成〉石材: 細粒岩/偏平円錐。(調整) 素材種の両縁辺を片側から打ち欠く。(計測) 実測 9.0cm×幅6.2cm×厚1.5cm / 94.0g (遺存) 完存。(図18)
6360	敲打器 砧	満427 / 22層 G26-0241	〈胎土・焼成〉石材: 玄武岩/削片(上打面)。(調整) 素材削片の片側の画面に小剝離痕連続、縁部は打ち削れ。(計測) 実測 長1.3cm×幅6.3cm×厚1.8cm / 135.0g (遺存) 完存。(図19)
6371	石錐 檜/楕形	満427 / 63-1945	〈胎土・焼成〉石材: 砂岩・滑石・小礫を利用するもの。(調整) 偏平な素材の縁部の対抗する位置に削り込みを入れる。(特記) 縁部の縁部が、打ち欠きはなく、削り込みであるところ、削り込みは对抗する位置に2箇所。長軸上側面部を2箇所にこなれている点別種のものかもしれない。下端部は打ち削れ。(計測) 実測 長5.1cm×幅4.0cm×厚1.4cm / 37.0g (遺存) 完存。(図18)
6378	筋跡車未成品	満427 / 18層 G26-0233	〈胎土・焼成〉石材: 砂岩。(調整) 偏平素材の縁部を粗く打ち欠き、楕円形跡に整形。(計測) 実測 長7.2cm×幅6.7cm×厚2.0cm / 38.0g (遺存) 完存。(図15)
6383	石錐 檜/楕形	満427 / 18層 G35-1014	〈胎土・焼成〉石材: 砂岩・大礫を割り取った偏平素材。(調整) 削離中央を左右対向する方向の加撃により打ち欠く。片側はさらに打ち欠きの邊の邊の邊をうち直して削める。(計測) 実測 長22.1cm×幅11.1cm×厚9.5cm / 1350.0g (遺存) 完存。(図18)
6402	石錐 檜/交差形	満427 / 18b層 G35-1015	〈胎土・焼成〉石材: 片岩か偏平円錐。(調整) 素材種の長軸両端、両側近中央部を加撃により打ち欠き、生成した棱部を打ち直し調整。(計測) 実測 長10.7cm×幅8.7cm×厚3.2cm / 467.0g (遺存) 完存。(図18)
6405	敲打器 砧	満427 / 18b層 G35-1014	〈胎土・焼成〉石材: 玄武岩/偏平円錐 (調整) 偏平錐の片側削辺2/3の表裏面に削離痕連続。(計測) 実測 長13.2cm×幅7.3cm×厚2.7cm / 474.0g (遺存) 完存。(図19)
6424	石錐 檜/楕形	満427 / 16層 G35-1041	〈胎土・焼成〉石材: 玄武岩・偏平な両縁辺を利用。(調整) 素材の両方の側縁中央を1打撃で打ち欠く。(計測) 実測 長11.0cm×幅9.0cm×厚1.5cm / 180.0g (遺存) 完存。(図18)
6436	砥石 角柱形	満427 / 25層 G26-9043	〈胎土・焼成〉石材: 砂岩 (調整) 直方体形状。両端面は削れ面、広い面を表裏としたときの削側縁を研磨している。砥面は奥曲りし、横断面形状は片側はやや凸面、他方はやや凹面。(計測) 実測 長5.8cm×幅5.0cm×厚3.0cm / 114.0g。(図20)
6466	敲打器 刃片/長辺	満427 / 25層 G26-9041	〈胎土・焼成〉石材: 玄武岩/削片(長辺削片)。(調整) 長辺削片の長辺縁部打ち削れ。(計測) 実測 長1.0cm×幅6.4cm×厚2.4cm / 186.0g (遺存) 完存。(図19)
6485	磨製石斧未成品	満427 / 16層 G26-0154	〈胎土・焼成〉石材: 玄武岩。(調整) 槍頭部の素材を大きく削除して両面調整。頭辺部に加撃を集中して打ち削しの跡をなす。さらに一部の縁にふくめ敲打調整を加える。(計測) 実測 長13.8cm×幅6.7cm×厚3.8cm / 624.0g (遺存) 器表や風化。(図21)
6493	石杵	満427 G26-0345	〈胎土・焼成〉石材: 砂岩/偏平錐。(調整) 向かい合った側面の下半部に敲打を加え彫り落める。下辺相当する面は打ち削し整形。中央部は削れ面で平滑になりつつある。(特記) 下辺部の縁部と側辺部は敲打跡がから未成品または使用初期段階とみられる。(計測) 実測 長13.1cm×幅11.0cm×厚7.1cm / 167.6g (遺存) 完存。(図20)
6496	筋跡車未成品	満427 G26-004	〈胎土・焼成〉石材: 不明/玄武岩か。(調整) 板状素材の側縁を両面から打ち欠き、荒く円形に整形。側縁も作出するものか、厚い。(特記) 素材は偏平鍬か。(計測) 実測 長6.1cm×幅7.5cm×厚1.5cm ×厚1.9cm / 105.0g (遺存) 完存。(図15)
6501	石錐木未成品 整形	満427 G26-0344	〈胎土・焼成〉石材: 蛇紋岩。(調整) 素材の分割石材の側面を長軸方向に削り整形。(下端部は、敲打整形か。(特記) 未成品。(計測) 実測 長12.0cm×幅5.2cm×厚3.8cm / 340.0g (遺存) 完存(未成品)。(図16)
6525	石錐 檜/楕形	満427 / 16層 G26-0623	〈胎土・焼成〉石材: 玄武岩・垂鉢鍬を利用。(調整) 素材側面中央部を表裏両面から打ち欠く。片側では複数回加撃し、交互刮離となって、側面波状。掲載された後部は残置する。(計測) 実測 長16.2cm×幅8.5cm×厚5.0cm / 801.0g (遺存) 完存。(図18)

表10 遺物観察表(10)

遺物番号	遺物	出土位置	遺物記述
6545	敲打刃器	溝427 /18c層 G35-1033	《船主・焼成》石材:玄武岩／横長刃形(調整面) (調整) 素材刃面の刃辺に剥離痕既成、縁部打ち済し化。(計測) 実測 長7.8cm×幅0.4cm×厚1.7cm /143.0g (遺存) 完存、器表風化。(図19)
6549	敲打刃器 刃片	溝427 /18c層 G35-1023	《船主・焼成》石材:玄武岩刃片(線状打面) (調整) 素材刃片の長辺と短辺の一方に小割離痕既成、縁の狭い範囲に打ち痕有り。(計測) 実測 長11.1cm×幅8.7cm×厚2.6cm /288.0g (遺存) 完存。(図19)
6550	石鍤 磐/横形	溝427 /18c層 G26-0142	《船主・焼成》石材:玄武岩／横形 (調整) 横円形縁の両側縁を打ち欠いた後、敲打を加える。 (特記) 回上表面の中央浅方に刻線。複数、重複する。まばらに敲打痕。(計測) 実測 長15.4cm×幅10.5cm×厚4.9cm /1289.0g (遺存) 完存。(図18)
6579	石鍤末疣品	溝427 /16層 G26-0613	《船主・焼成》石材:片岩か。(調整) 素材周縁を打ち欠き、偏平な筋跡状に整形。(計測) 実測 径7.1cm×(径)4.4cm×厚1.7cm /41.0g。(図17)
6585	石鍤 磐/横形	溝427 /16層 G26-0981	《船主・焼成》石材:玄武岩偏平円錐。(調整) 素材横の棱側縁を打ち欠く。片面は両面に、他方は片面に打撃し、大きさ測定取る。(計測) 実測 長4.1cm×幅1.1cm /83.0g (遺存) 完存。(図18)
6626	鉄器 手鎧	II層 G26-0514	《船主・焼成》瓦質:鉄(鉄) (調整) (特記) 瓦部は破損したものと思われる。瓦部は片減りしているものとみられる。(計測) 実測 径11.7cm×幅4.8cm×厚(高)0.3cm (年代) 幼生/萌木期 (遺存) 積層Xを行っていない。(図22)
6666	石鍤 磐/研形	溝427 /16層 G26-0435	《船主・焼成》石材:板岩紋か。偏平な円錐。(調整) 素材横の長軸方向の両端を表面に向かって打ち欠く。生成した棱部を叩き潰して、えみをもった断面となる。(計測) 実測 径11.8cm×(径)10.1cm×厚3.8cm /704.0g (遺存) 完存。(図18)
6678	磨石	溝427 /16層 G26-0992	《船主・焼成》石材:砂岩(珪藻土) /円盤 (調整) 両側面に研磨面、各側面にレンズ状の2面が形成されている。研磨面上に異なる位置、上面に鋸刃による不規正な凹凸状の裡かな窪み。両面にも點状風化、遺存する一方は、細かくぶつぶつした平坦面となっている。(特記) 側面の向き合う研磨面はそれぞれ併行で隣り合う面とはねじれた向かい残る。持ち替えなどによるものか。(計測) 実測 長12.6cm×幅8.8cm×厚4.8cm /645.0g (遺存) 滑溜部。(図20)
6694	石鍤 磐/研形	溝427 /16層 G26-0443	《船主・焼成》石材:砂岩/偏平な円錐 (調整) 素材横の長軸側両端を両面への加壓により打ち欠き。生じた棱部を打ら渡す。(計測) 実測 長7.4cm×幅6.8cm×厚1.8cm /143.0g (遺存) 完存。(図18)
6701	磨製石斧 太形	溝427 /16層 G26-0991	《船主・焼成》石材:玄武岩 (調整) 種類を敲打調整、刃部研磨。(計測) 実測 長10.8cm×幅1.0cm×厚1.7cm /481.0g (遺存) 上部斜、刃部から裏面へ移る。器表風化分布に滑溜。(図21)
6706	石包丁	溝427 /16層 G26-0442	《船主・焼成》石材:輝緑凝灰岩 (調整) 全面を研磨し、刃縁は锐利。2孔を両刃方向から穿孔する。(特記) 穿孔を中止した箇所が穿孔部に接してある。それからすると穿孔工具は説く細いものか。孔縁部の脛底は研磨できない。(計測) 実測 径3.9cm×幅10.0cm×厚0.6cm /21.0g。(図21)
6707	筋縫車	溝427 /16層 G26-0443	《船主・焼成》石材:不明(安成岩)。(調整) 上下面、側面とも平滑に研磨調整。中央をやや外れた位置の両側に穿孔途径。自転車用孔の痕跡。径5mm。(計測) 実測 径4.6cm×厚0.7cm /26.0g (遺存) 完存。(図17)
6709	石鍤 整形/筋 鍤形/太形	溝427 /16層 G26-0333	《船主・焼成》石材:輝灰質片岩か (調整) ほほ長軸に沿う前り面で調整するか、部分に素材削面を残す。両端は面を成し、片側は研磨して滑溜。溝は浅く、長軸方向全周を運ぶ。(計測) 実測 長8.6cm×幅0.5cm×厚0.9cm /235.0g (遺存) 完存。(図17)
6714	筋縫車	溝427 /18層 G26-0626	《船主・焼成》石材:不明(滑石)。(調整) 上下面、側面研磨調整。側面は曲面。(計測) 復原 径5.0cm×厚0.6cm×幅0.7cm /70.0g (遺存) 1/30倍。(図15)
6715	筋縫車	溝427 /18層 G26-0621	《船主・焼成》石材:滑石か。(調整) 上下面、擦り削り削り、片面は方向を補え、他面は他方向。柔線が明瞭。側面は、擦り削りにより多面体状に面取り、整形。(計測) 実測 径4.3cm×厚0.8cm /21.0g (遺存) 完存。(図15)
6716	筋縫車	溝427 /16層 G26-0435	《船主・焼成》石材:滑石(滑石片岩か) (調整) ほほ長軸に沿う前り面で調整するか、部分に素材削面を残す。(計測) 実測 径4.8cm×厚0.7cm /28.0g (遺存) 完存。(図15)
6717	石鍤 半球形	溝427 /21層 G35-1033	《船主・焼成》石材:蛇紋岩。(調整) 表面は平滑で、研磨調整によるのか。(特記) 上部孔縁部の片側が擦り切ったように凹む。(計測) 復原 長11.5cm×幅1.0cm /103.0g (遺存) 半欠。(図17)
6719	石包丁	溝427 /19層 G26-0153	《船主・焼成》石材:玄武岩 (調整) 全体を研磨。2孔のうち1つは、片側から穿孔後、調整か。片側に削れ目を生じる。(計測) 実測 長4.7cm×幅0.6cm×厚0.8cm /36.0g (遺存) 半欠。(図21)
6720	石鍤未完成 形 整形/分鋼形	溝427 /23層か G26-0445	《船主・焼成》石材:滑石 (調整) : (調整) 長軸方向の細い前り調整を行う。両端面は丸削面か前り面により整形し、下端は球状状となる。上端から下端近くまで、中軸柱状に溝を刻む。まことに耳穿孔を行ったよう、下端の中央に穿孔線。溝は、工具刃物を斜めに当てて切り込むようにして切っており、両面表面は研磨形跡となっていて、穿孔は行われない。(特記) 下端面の中心を通り、両面の溝をぐるぐる細い削線。耳穿孔線のようないか。(計測) 実測 長9.3cm×幅4.9cm×厚4.4cm。(図16)
6721	石鍤	溝427 /23層か G26-0445	《船主・焼成》石材:砂岩。(調整) 全体に研磨調整、下端部は複数研磨面で形成。(計測) 実測 長11.0cm×幅4.5cm×厚28.0g (遺存) 完存。(図16)
6723	石鍤 整形/分 鋼形	溝427 /16層 G26-0154	《船主・焼成》石材:滑石 (調整) : (調整) 前り調整後、研磨調整。(特記) 研磨工程上か、削り面の繊維が残る。(計測) 実測 長6.7cm×幅3.9cm /176.0g (遺存) 脊部欠。(図16)
6724	石鍤 整形/分 鋼形/太形	溝427 /16層 G26-0741	《船主・焼成》石材:滑石 (調整) 全面に研磨調整を行うが、部分的に凹面、直角状の凹路。両端面は平滑で研磨面となる。(特記) 表器が、冠状を呈するのか、石片によるものか、整体の工具痕か判然しない。(計測) 実測 長6.1cm×幅3.9cm×厚0.7cm /117.0g (遺存) ほぼ完存。(図16)
6725	筋縫車未完成	溝427 /16層 G26-0615	《船主・焼成》石材:滑石(板岩)。(調整) 素材周縁部を削り取り、円形状に整形。(計測) 実測 口径5.8cm×底径2.6cm×厚1.3cm /56.0g (遺存) 完存。(図15)
6726	石鍤 整形/分 鋼形/太形	溝427 /16層 G26-0543	《船主・焼成》石材:滑石。(調整) 長軸方向の細い削り調整を行うが、断面や多面体状となる。上端部には素材削面が残り、片側が削けた状態となるが、そのまま部分的に研磨し整える。溝も削れ面に沿て握り込んでいる。下端部は研磨により平滑面となっている。(特記) 断面積円形。(計測) 実測 口径6.0cm×幅3.8cm×厚1.9cm /352.0g (遺存) 完存。(図16)
6727	石鍤 整形/分 鋼形/太形	溝427 /22層か G26-0241	《船主・焼成》石材:滑石。(調整) 長軸方向、帯状の削り面で整形、上下端面は研磨調整により平滑面となる。中央溝は浅くない。底に工具痕が複数の条線状に残る。(計測) 実測 長7.5cm×幅0.6cm×厚3.2cm /142.0g (遺存) 完存。(図16)
6729	石鍤 整形/分 鋼形/太形	溝427 /16層 G26-9654	《船主・焼成》石材:安山岩か。(調整) 長軸方向の削り削り調整、部分的な研磨を行う。下端部では、横方向の削り面がわり、全体はやや偏心した波浪形。母端部を削り出す。溝に併せて穿る。上端は小さい平面的な整形。(計測) 実測 長7.6cm×幅4.6cm×厚1.4cm /188.0g。(図16)
6736	石包丁未成品	溝427 /18c層 G35-1023	《船主・焼成》石材:玄武岩/礎長片岩 (調整) 素材面を部分的に削り全体を研磨。刃縁、背部作出。穿孔なし。(計測) 実測 口径5.2cm×幅2.9cm×厚0.8cm /55.0g (遺存) 完存。(図21)
6740	石包丁	溝427 /25層 G26-0944	《船主・焼成》石材:輝緑凝灰岩 (調整) 2孔を両方向から穿孔。全体を研磨し、刃縁は片側から刃付けする。(計測) 実測 長4.6cm×幅10.9cm×厚0.7cm /44.0g (遺存) 部分欠。(図21)
6770	石包丁	G26-04	《船主・焼成》石材:片岩か (調整) やや削りをもつ滑る素材の全面研磨。背部に面を取らない。刃縁は体部より平滑に研磨(彫り面を呈す)。これは極一部の遺存であるが、穿孔の形が大きさ、尖端が钝いことがわから。(計測) 実測 長3.5cm×幅3.9cm×厚0.6cm /18.0g (遺存) 半ば欠。(図21)

表11 遺物観察表(11)

遺物番号	遺物	出土位置	遺物記述
6775	石鍼 角柱形	5層 G26-0244	(船・焼成) 石材・滑石。別の器物破片の利用とみるが、元の形状は不明。(調整) 素材を四辺形に切り抜き側面を主に研磨。裏側の小口から回転を利用した穿孔。(計測) 実測 長5.3cm×幅4.0cm×厚1.5cm / 40.0g (遺存) 完存。(図32)
6789	石鍼 整形/分脚形/太形	溝427 / 18層 G26-0341	(船・焼成) 石材: 滑石。(調整) 長軸に斜め方向に擦り削り。帯状に面取り。整形。横断面積円形状。上下端面は研磨。平滑。中央の溝に沿い針書き状の刻線。(計測) 実測 長6.0cm×幅4.0cm×厚3.2cm / 114.0g (遺存) 完存。(図16)
6807	弥生土器 壺か	溝427 / 16層 G26-0435	(船・焼成) 船土: 砂鉄を多く含む(白雲母含む)。器表: やわらかい黄赤(10R 7.5/5)、内面は弱い灰色(N2.5 9消色)。 (調整) 外面: 刷毛目一撫でか。内面: 横刷毛目調整一撫で。(特記) 異系統の口注付土器、山陰系か(年代) 弥生(遺存) 細部、外表面を中心に麻感跡有。(図9)
6810	弥生土器 壺	溝427 / 16層 G26-9953	(船・焼成) 船土: 粗砂を多く含む(白雲母含む)。器表: やわらかい黄赤(10R 7.5/4)。 (調整) 外面: 刷毛目一撫で付近と肩に半周回転で一撫で、底部に指押し痕。(計測) 実測 口径5.8cm×底径5.0cm×高さ4.0cm (年代) 弥生(後期) (遺存) 元品形、表や底灰無。(図9)
6811	弥生土器 壺	溝427 / 18層 G26-9735	(船・焼成) 船土: 粗砂を少量含む。器表: 赤彩(くすんだ黄赤) 7.5/5.0 (10R 4.5/8)。 (調整) 外面: 口縁部に近周回転で一撫で、胸部麻感。底面削り内面: 口縫部回転擦で一部摩耗。肩部擦で底部下外と底部内面に赤彩(燒成前塗)。(計測) 実測 口径14.2cm×底径6.8cm×高さ13.5cm (年代) 弥生(後期) (遺存) 異完品形。(図12)
6815	磨製石斧 柱状 片刃石斧	溝427 / 16d層 G26-0242	(船・焼成) 石材: 白質か。(調整) 全面研磨。角柱状で各面非常に平滑。刃研磨。(計測) 実測 口径3.4cm×幅3.0cm×厚1.8cm / 20.0g (遺存) 刃部破片。(図21)
6831	石笛丁	5層 G26-0314	(船・焼成) 石材: 磐渾凝灰岩(調整) 部分的に素材側面を残し、全体を研磨。穿孔丸孔で、両方からおこなっている。別々に開けた位置に中壙した穿孔路数。(計測) 長5.2cm×幅10.3cm×厚0.7cm / 44.0g (遺存) ほぼ完存。(図21)
6849	楽道系土器 短 頭壺	土壤1046	(船・焼成) 土器: 「褐色泥質船土」器表: 明るい灰赤色(NT)。還元焰焼成。(調整) 外面: 橋文叩き内面: 同じ状況但真頬あり(特記) 内面にて具痕(遺存) 本体部極端片、器表の磨耗跡有。(図14)
6864	石鍼 整形/筋 銘文溝	溝427 / 18層 G26-9823	(船・焼成) 石材: 滑石。(調整) 部分的に長軸方向の細い削り面が残るが、全体を研磨する。(計測) 実測 長5.0cm×幅1.1cm / 9.0g (遺存) 完存。(図17)
6865	彷彿車	溝427 / 16層 G26-9742	(船・焼成) 石材: 滑石。(調整) 剣面を削り落し整形。上下面、側面を研磨。側面に周回方向の柔度。(計測) 実測 口径4.8cm×厚0.7cm / 27.0g (遺存) (図15)
6866	石鍼 磨/縱形	溝427 / 25d層 G26-9941	(船・焼成) 石材: 砂岩: 膜厚の異なる凹面(縦)。素材側の長軸側面の両端を打ち欠く。片頭は素材の半ばまでの割離となるおり。さらに端部削り込み、切り落しを整形する。両端部とも、生成した棱部は打ち落し丸。(計測) 実測 9.0cm×幅5.5cm×厚1.3cm / 261.0g (遺存) 完存。(図18)
6869	須恵器 目	溝427 / 18層 G26-9654	(船・焼成) 船土: 細縫を含む。(計測) 容器: 明るい灰みの黄色(2.5Y 7.5/2)。(調整) 内外面周回擦。(計測) 復原底径8.8cm (遺存) 底部破片。(図20)
6870	土師器 高台碗	溝427 / 16層 G26-0614	(船・焼成) 船土: 粒状性。細縫を含むばかりに赤褐色粗粒を比較的強著に含む。器表: やわらかい黄赤色(6.5YR 7/5)。(調整) 高台貼り付け→内外面周回擦。(計測) 復原底径8.8cm (遺存) 底部破片、器表荒れ、磨耗。(図26)
6872	経釉陶器 皿	5層 G26-0623	(船・焼成) 船土: 粒状性。粗縫。断面: 明るい灰赤色(NT)。器表: 内外面から高台内まで施釉。釉は薄済、斑にかかり、手透青、ガラス状光沢。くすんだ黄緑色(14Y 4.5/3.5)。(調整) 内外面で。平滑。内表面: 中間に寄った位置に不整な團塊を刻む。(計測) 復原底径6.1cm (遺存) 底部1/3。(図30)
6873	越州窓系青磁 水注	5層 G26-0623	(船・焼成) 船土: 粒状性。細縫。釉を含むばかりに赤褐色粗粒を比較的強著に含む。器表: 質もくらべて、半透明。樹脂状光沢もつ。灰みの赤みを帯びた黃色(10YR 5/2)。(調整) 2本の桔子紐を接合。片側に押しあて凹門とする。(特記) 口縫部への接合部か。(計測) 長1.4cm×幅1.0cm (遺存) 把手部の破片。(図29)
6882	土師器 高台碗	5層 G26-0623	(船・焼成) 船土: やや粒状性。細縫。器表: やわらかい黄赤色(10R 7.5/5)。(調整) 底部: 跛切り離し、片目直痕と窓合貼り付け→内外面周回擦。(計測) 実測 底径5.1cm (年代) 平安(遺存) 底部: 器表荒れ。(図26)
6884	須恵器 高台杯	5層 G26-0623	(船・焼成) 船土: 粒状性。均質。断面: 赤みの灰色(2.5R 5.5/1)。器表: 内外面、外面部高台外側の全縫合。高台貼り: 高台貼り+部分的。柄は構造薄く、發達して半透明。ガラス状光沢をもち、灰みの黄緑色(2.5G 5/2)。(調整) 内面: 周回擦で一斜め方向の摩耗。外面: 目輪を利用したの荒磨き。高台内面: 周回擦で、平滑。(計測) 復原底径6.3cm (遺存) 底部1/2。(図29)
6888	経釉陶器 碗	5b層 G26-0555	(船・焼成) 船土: 粒状性、均質。断面: 赤みの灰色(2.5R 5.5/1)。器表: 内外面で。高台外側の全縫合。高台貼り: 高台貼り+部分的。柄は構造薄く、發達して半透明。ガラス状光沢をもち、灰みの黄緑色(2.5G 5/2)。(調整) 内面: 周回擦で一斜め方向の摩耗。外面: 目輪を利用したの荒磨き。高台内面: 周回擦で、平滑。(計測) 復原底径6.3cm (遺存) 底部1/2。(図29)
6891	瓦 平瓦	5b層 G26-9555	(船・焼成) 船土: 精良、細縫。器表: 白灰色(7.5Y 7/2)。(調整) 回面: ピカ直痕。凸面: 直縫子目縫(種類粗)。(前縫) 前縫側で、前面: 周回擦し、側縫、型縫目、崩り削り。(計測) 実測 長15.0cm×幅1.0cm×厚1.7cm (遺存) 前縫部破片、錫縫部破片、器表や底面。(図32)
6894	瓦 丸瓦	5層最下部 G26-0913	(船・焼成) 船土: 精良、細縫。器表: 黒(7.5Y 9/1)。(調整) 回面: ピカ直痕。凸面: 横で。(計測) 実測 底径: 9.0cm (年代) 平安(遺存) 前縫部破片。(図22)
6896	須恵器 甕	5b層 G26-0642	(船・焼成) 船土: やや粒状性。細縫を含み、堅く織る。断面: 色部色調変化、弱い灰みの黄色(NV 2/3)。器表: 外面: 灰色(N 5.5)、内面: 明るい灰赤色(NT)。(調整) 内外面擦で、把手貼り付け。(年代) 平安(遺存) 本体部破片(把手部)。(図27)
6898	瓦 平瓦	5層 G26-0254	(船・焼成) 船土: 精良、細縫。後土様粒子少量混じる。軟質。器表: BO灰赤(より明るい感じ)。(調整) 回面: 器表荒れで調整不良。凸面: 直縫子目縫(種類粗)。(前縫) 前縫側で、前面: 周回擦し、側縫、型縫目、崩り削り。(計測) 実測 長10.0cm×幅13.0cm×厚2.0cm (年代) 平安(遺存) 前縫部破片、器表の一部粉状に剥離。(図23)
6914	石鍼 整形/筋 銘文溝	溝427 / 18d層 G26-1945	(船・焼成) 石材: 片岩か。(調整) 素材を部分的に研磨整形。長軸方向に溝を一通させる。(計測) 実測 長4.0cm×幅2.2cm×厚1.8cm / 20.0g (図17)
6915	石鍼 整形/圓形	溝427 / 16層 G26-9743	(船・焼成) 石材: 砂岩。(調整) 素材の中央に、敲打によるとみられる穿孔。長軸方向の対になる位置を切り欠いた状態に整形する。(計測) 実測 長17.0cm×幅9.5cm×厚6.7cm / 1474.0g (遺存) 半ば(図17)
6916	石鍼 磨/縱形	溝427 / 18層 G26-0614	(船・焼成) 石材: 玄武岩/偏平な円錐。(調整) 素材の長軸側両端を両側から打ち欠き、生じた棱部は打ち削る。(計測) 実測 長7.2cm×幅2.2cm×厚1.8cm / 178.0g (遺存) 完存。(図18)
6917	石鍼 磨/交叉形	溝427 / 16層 G26-9832	(船・焼成) 石材: 绿色岩/円錐。(調整) 素材の四方打ち欠き、生成した棱部を打ち削り調整。(計測) 実測 長12.0cm×幅10.7cm×厚1.8cm / 884.0g (遺存) 完存。(図18)
6918	石鍼 磨/横形	溝427 / 18層 G26-97	(船・焼成) 石材: 玄武岩/偏平な圓錐。(調整) 素材の両端側中央の互いに異なる片面を打ち欠き(縁), 形成された棱部を打ち削る。素材中央接縫の対応する位置にかすかに敲打痕。(計測) 実測 長10.3cm×幅6.0cm×厚4.1cm / 360.0g (遺存) 完存。(図18)
6925	土師器 高台碗	5層 G26-0221	(船・焼成) 船土: 密緻、細縫。断面: 扇状、空隙。器表以外は黒化。(6YR 6.5/3)、底部の内外面里化。(調整) 底部付近の外側細い単位の磨削き、以上の外側・内面は擦で(内面平滑)。(計測) 復原底径6.6cm (遺存) 底部破片。(図27)

表12 遺物観察表(12)

遺物番号	遺物	出土位置	遺物記述
6926	土師器 蓋切底 环	5層 G26-0241	(胎土・焼成) 胎土: やや粒状性、粗疋。 器表: やわらかい赤みの黄色(9R 7.5/4)。(調整) 底部: 深切り離し一炒め痕。 内外面周回焼。 内面は滑に仕上げる。(計測) 実測 口径15.6cm×器高4.0cm。(遺存) 口縁部の大半を欠く。(図26)
6927	土師器 蓋切底 环	5層下部 G26-0331	(胎土・焼成) 胎土: 精良、均質、粗砂少量、軟質。 器表: 黄みの白色(2.5Y 9/15)。(調整) 底部: 深切り離し一炒め痕。 内外面周回焼。(計測) 復原 底径9.3cm。(遺存) 底部細片。(図26)
6939	石皿	満G27 /16層 G26-9733	(胎土・焼成) 石材: 砂岩。(調整) 上下面端面別れ面。 表裏、左右面を砥面としている。 各面長軸方向に拗曲し、表裏面は端断面凹面、側面は凸面状。(特記) 表裏面の形状は、石皿とも見る。 刻れ面の縁はやすりしており、現状での使用もあったものか。(計測) 口径11.2cm×幅9.8cm×厚5.6cm / 823.0g。(図20)
6940	砥石 板状	満G27 /16層 G26-0622	(胎土・焼成) 石材: 砂岩。(調整) 片側を欠く資料とみえる。 四周及び端面が砥面として施用の痕跡を残す。 着も広い表裏面は拗曲し、横断面は片面に厚くなる四形となる。(特記) 斜面の厚みが薄くなる側の側面に切り取り痕のような投げ差が見られ、あるいは、薄くなったり板底石を分割したもののよう。(計測) 実測 口径6.6cm×幅2.9cm×厚1.5cm / 35.0g。(遺存) 半ば。(図20)
6944	石鍬 整形/筋 鍬形/履溝	満G27 /18層 G26-0151	(胎土・焼成) 石材: 片岩か円礫か。(調整) 表裏面は表の面(面理面か)を残し、周縁部を磨き整形する。 両面端部面から刻むが、連続しない。(計測) 実測 長4.4cm×幅2.0cm×厚1.1cm / 13.0g。(図17)
6946	須恵器 蓋環	5層 G25-84	(胎土・焼成) 胎土: 精良均質、粗砂。 器表: 明るい灰色(7T)。(調整) 内外面周回焼で一面下半部、四回割り削り。(計測) 復原 口径10.2cm。(遺存) 1/3の破片。(図26)
6954	越州窯系青磁 碗	5層 G26-9555	(胎土・焼成) 胎土: 精細均質、粗砂。 器表: 稲毛状の緑色を含む。 断面: 灰色(7.5Y 9/1)。 器表: 表裏面に施釉、釉種く、細かく発して透明、純一光沢をもたらす。 番の黄色(3.5Y 5.5/2.5)。(調整) くろう形、周回焼で、内面平滑で透明、外側端面に凹溝。(計測) 復原 口径15.1cm。(遺存) 口縁部細片。(図28)
6957	須恵器 环 系 切底部	満G27 /16層 G26-0614	(胎土・焼成) 胎土: 精粒状、粗砂。 器表: 略に緑色を含み、堅く繋る。 器表: 灰色(9N)。(調整) 底部: 系切口離し、内外面周回焼。(計測) 復原 底径9cm。(遺存) 底部1/2の破片。(図26)
6961	土師器 高台碗	雨雲1026 G26-0245	(胎土・焼成) 胎土: やや粒状性、粗疋。 器表: 灰色の赤みを帯びた黄色(6W 6.5/3)。(調整) 外面: 周回焼。(計測) 復原 底径7.5cm。(遺存) 底部破片、内面端部削者。(図20)
6972	瓦質土器 不規	満G27 /21層 G36-1111	(胎土・焼成) 胎土: 灰色泥質。 器表: 灰色(N 5.5)。 遠山焼成。(調整) 外面: 織文印き一撫で。(遺存) 口縁部細片。(図44)
7018	越州窯系青磁 糸切り底	5層 G26-9452	(胎土・焼成) 胎土: 粒状性。 断面: 明るい灰色(7T)。 施釉: 内面から外面下部まで施釉。 種は、薄く、むらあり、織目な質を生じて透明、部分的に白陶。 純いガラス状光沢、くすんだ黄色(2.5Y 6/1)。 露出部は、黄赤の色(5Y 6/1)。(調整) 底部深切り離し、底部よりやや高い位置の内面に口痕(胎土)。(計測) 復原 底径6.5cm。(遺存) 底部1/2の破片。(図28)
7023	縁付陶器 碗	5層下部 G26-9451	(胎土・焼成) 胎土: 粒状粗砂質、均質。 断面: 明るい灰色(6.5)。 器表: 内外面施釉。 種薄く、半透明、ガラス状光沢。 番の赤みを帯びた黄色(10W 5.5/2.5)。(調整) 体部内外面、周回方向、斜けの方の凹靡化、内底面: 構方型で往々する凹靡化。 高台: 内側貼り付けか。 底面は凹面、中程に深い闊縁、蛇の目高台状。(計測) 復原 底径6.5cm。(遺存) 底部1/2。(図20)
7036	縁付陶器 碗	5層下 G26-0545	(胎土・焼成) 胎土: 精良、均質。 断面: 灰色(7T)。 器表: 内外面、高台外面まで施釉。 種は棒渦く、発して不透明、内面では大半剥落。 くすんだ黄緑色(10Y 4.5/3.5)。(調整) 内底面外延に、ごく浅い闊縁、全体に平滑。 外周は周回方向の凹靡化か、底部: 系切り離し一高台内に削り込み式。(計測) 復原 底径5.5cm。(遺存) 底部。(図29)
7040	縁付陶器 碗	4層か G26-0523	(胎土・焼成) 胎土: 精良、種類く、細かに纏織。 断面: 明るい灰みの赤みを帯びた黄(10W 8/2)。 器表: 高台内面を含む全面に施釉。 種薄く、半透明。 ガラス状光沢。 くすんだ黄緑色(10Y 4.5/3.5)。(調整) 内外周回焼で(基縁削者)。 高台: 脊貼りつけか。(計測) 復原 口径14.1cm×底径6.7cm×高2.6cm。(遺存) 小破片。(図30)
7044	越州窯系青磁 皿	12層 G26-9535	(胎土・焼成) 胎土: 粒状性、粗砂。 断面: 色部明るい灰みの黄色(2.5Y 7.5/2)。 器表部底面の赤みを帯びた黄色(6W 6.5/3)。 施釉: 内面から外面の底部付近まで施釉。 種は、薄く、細かく質を生じ半透明、ガラス状光沢。 くすんだ黄色(2.5Y 6/1)。 大半が剥落し、白色の薄膜。 露出部はくすんだ黄色(5.5W 5.5/4.5)。(調整) 外面端部から底部、底面付近の体部まで、周回深切り削り。 底部縁部は面取り。 且底: 底部縁部に割合、比較的小さなものが、削りで配置して配列する。 対応するように、外底縁部面取りに配列。(計測) 復原 底径4cm。(遺存) 底部細片。(図28)
7045	須恵器 蓋 (身)	5層 G26-0511	(胎土・焼成) 胎土: やや粒状性、粗砂。 器表: 青灰色(9W 6/1)。(調整) 内外面回転焼で一面下部割り離す。(特記) 下部に2条の併行する刻線。(計測) 復原 口径11.3cm。(遺存) 口縁部1/4の破片。(図26)
7054	須恵器 瓢	5層下部 G26-0641	(胎土・焼成) 胎土: 精良、均質、粗砂、瓦質。 断面: 明るい灰色(7T)。 器表: 斑状に変化。 破片。(計測) 復原 底径15.2cm。(遺存) 底部細片。(図27)
7062	越州窯系青磁 碗 輪花瓶	5層 G26-0612	(胎土・焼成) 胎土: 精良、均質、粗砂。 断面: 明るい灰色(7T)。 器表: 内外面無釉、発泡、買入を生じ半透明、糸の赤みの黄色(5.5W 5.5/2.5)。(調整) 内底面から輪花部、底面付近の体部まで、周回深切り削り。 底部縁部は面取り。(計測) 実測 高径4.5cm。(遺存) 口縁部細片。(図28)
7063	須恵器 高台环	5層 G26-0612	(胎土・焼成) 胎土: やや粒状性、均質、堅く離す。 器表: 明るい灰みの黄色(3W 8/3.5)。(調整) 内外面焼で、内底面: 構方型の横で。(計測) 復原 底径11.0cm。(遺存) 底部小破片。(図26)
7066	瓦 平瓦	5層下 G26-0525	(胎土・焼成) 胎土: やや粒状性、粗砂少ない。 断面: 粘質。 器表: 灰色(6W 2/2)。(調整) 上、下面ともに離す。 破面: 斜面で。(計測) 実測 長11.0cm×幅11.0cm×厚1.6cm。(遺存) 下部端部細片、器表遭存。(図29)
7068	須恵器 盖	5層 G26-8853	(胎土・焼成) 胎土: 精良、粗砂少量。 断面: 粘質。 器表: 灰色(6W 2/2)。(調整) 内外面周回焼で。(計測) 復原 口径17.0cm。(遺存) 口縁部細片。(図26)
7069	土師器 丸底环	5層 G26-0341	(胎土・焼成) 胎土: 精良、細緻、褐色粒子を少量含む。 器表: 明るい灰みの黃色(3W 8/3.5)。(調整) 底部端部に離す一底部成形(押し出し)。 器表荒れて細部の調整不明。(計測) 復原 口径13.1cm×高4.2cm。(遺存) 小破片、器表遭存。(図26)
7071	須恵器 蓋	5層 G26-9653	(胎土・焼成) 胎土: 粒状性、粗砂。 断面: 穴隙。 器表: 灰色(N 5.5)。(調整) 外面: 体部併行引き口調削一頭部筒削開口。 内面: 体部上下方向の不整な刷毛口調削。 口縁部周回焼で一部斜め方向に削り。(計測) 復原 口径21.9cm。(遺存) 1口縁部小破片。(図27)
7076	石鍋	5層 G26-9721	(胎土・焼成) 石材: 滑石(?)。 断面: 外縁部細部細片。(図30)
7077	越州窯系青磁 碗	満G27 /5層 G26-0355	(胎土・焼成) 胎土: 粒状性、粗砂。 断面: 稲毛状の細部細片。(図26)
7082	瓦 鬼瓦か	5層 G26-0641	(胎土・焼成) 胎土: 精良、粗砂。 断面: 暗い灰色(3W)。(調整) 部位不明、側縁部か。 跟により深い柔縁を刻む。(特記) 端にによる柔縁。(計測) 実測 長6.7cm×幅4.6cm×厚1.7cm。(遺存) 裏面を欠く様細片。(図25)

表13 遺物観察表(13)

遺物番号	遺物	出土位置	遺物記述
7086	須恵器 高台环	5b層 G26-0324	(胎土・焼成) 脱土: やや粒状性あり均質、粗砂少々、堅く締まる。器表: 明るい灰色(N 7)。(調整) 底部: 高台貼り付け、高台外周は回転擦で、内面は、高台成形痕。(内部) 周縁に沿い横方向不整な擦れ。(『計測』復原 底径7.1cm (遺存) 底部小破片。(図26))
7087	瓦 平瓦	5層 G36-1115	(胎土・焼成) 脱土: 精良、細緻、堅く締まる。断面: 中央部色調は器表と異なる褐色系。器表: RC灰色01。(調整) 依存する前辺、側邊は鋸削り、前縁凹面: 鋸削りによる面取り(不整)。(『計測』実測長6.0cm×幅2.3cm×厚さ5cm (遺存) 前端部細片。器表遺見。(図25))
7088	須恵器 楕	5層 G36-1311	(胎土・焼成) 脱土: 粒状性、細緻を僅かにふくむ。器表: 灰色(N 5.5)。(調整) 内外面: 周回擦で、底面: 擦れ。(『計測』復原 底径10.8cm (遺存) 底部1/4の破片、外面部欠け。(図27))
7089	須恵器 詩	5層下部 G26-8652	(胎土・焼成) 脱土: 精良、均質、僅かに粗砂あり。堅く締まる。器表: 明るい灰色(N 6.5)。(調整) 上縁部は、折り返して丸め。内外面: 口縁を含め周回擦で。(『計測』復原 口径22.1cm (遺存) 口縫部細片。(図27))
7090	須恵器 高台环	5b層 G26-0335	(胎土・焼成) 脱土: 精良、均質、細かに粗砂あり。やや軟質。断面: やや斜面。(『計測』復原 底径11.2cm (遺存) 底部細片。(図26))
7091	土師器 高台碗	6層 G26-9631	(胎土・焼成) 脱土: 細密、細緻、少し含む。器表: 黄みの白色(2.5Y 9/15)。(調整) 高台貼り付け→外面: 周回擦で、外縁: 扇形。(『計測』復原 底径7.5cm (遺存) 底部細片。(図26))
7092	土師器 壺	5b層 G26-0222	(胎土・焼成) 脱土: 粒状性測者、細緻測者。器表: 黄: 朱みの赤みを帯びた黄色(4.5W 4/2)。(調整) 外面: 口縁部周回方向の刷毛目調整一撃で、体部上方向の刷毛目調整。内面: 口縁部周回方向の短い単行の刷毛目調整・全体部鋸削り。(『計測』復原 口径21.2cm (遺存) 口縫部細片、生成物付蓋跡。(図26))
7093	絆袖陶器 碗	5b層 G26-0615	(胎土・焼成) 脱土: 粒状性、均質。断面: 空隙。明るい灰色(N 6.5)。器表: 粗筋的に施釉が認められる。釉: 黄緑色(IV 4.5/3.5)。(調整) 内面: 体部に周回方向の荒削り。内底面周縁に凹窪。外縁: 周回方向の荒削り、擦れ。(『計測』復原 底径9cm (遺存) 底部1/4。(図29))
7094	越州窯系青磁碗	5b層 G26-0542	(胎土・焼成) 脱土: 粒状性、均質。断面: 明るい灰色(N 7)。芯部は黄赤みの灰色(5W 6/1)。器表: 内底面から外底部まで斜め掛け、脚部殆ど脱落。極めて、細かな入生貝殻で充満。純いガラス状光沢、くすんだ黄赤色(2.5Y 6/4)。ガラス掛け部: 黄赤色(5W 6/1)。器表: 黄赤みの灰色(SV 6/1)。(調整) 体部: 形割れ、周回擦で。外底面: 底部は粗緻の脱土を貼り付け、整形したか。脱土を押し広げて整形。外底面は、やや凹面を成す平底、擦れを行う。口底は、内底面直上の体部に残る。外縁は不明。白色の土で、細い防錆塗抹。(『計測』実測 底径3.5cm×器高0.4cm (遺存) 底部細片。(図28))
7097	土師器 平口壺	溝427 / 7b層 G26-0145	(胎土・焼成) 脱土: 粒状性、粗砂。器表: 黄灰色(2.5Y 4/1)。(調整) 口縁部内外面・体部外表面: 周回擦で、口縁部内面で周回方向に細い刷毛目調整。(『計測』復原 口径20.2cm (遺存) 口縫部細片。(図26))
7098	須恵器 壺	溝427 / 5b層 G26-0145	(胎土・焼成) 脱土: 密緻、粗砂あり、堅く締まる。断面: 赤を帯びる部位もある。器表: 灰色(N 5.5)。(調整) 口縫部内面、脚部外表面自然擦。(『計測』) 内外面回転擦で、脚部と体部は接合するが、断面では不明隙。(『計測』) 体部: 形割れ、周回擦で。外底面: 底部は粗緻の脱土を貼り付け、整形したか。(『計測』) 体部: 形割れ、周回擦で。外底面: 底部は粗緻の脱土を貼り付け、整形したか。脱土を押し広げて整形。外底面は、やや凹面を成す平底、擦れを行う。口底は、内底面直上の体部に残る。外縁は不明。白色の土で、細い防錆塗抹。(『計測』) 実測 底径3.5cm×器高0.4cm (遺存) 底部細片。(図28))
7104	須恵器 盖	5層下部 G26-9515 (蓋)	(胎土・焼成) 脱土: やや粒状性、僅に粗砂あり。堅く締まる。断面: くすんだ黄みの赤色(8W 4.5/5.5)で、器表に漸移する。(調整) 内外面回転擦で→外上面上部: 回転鋸削り。(『計測』復原 口径11.9cm (遺存) 上部細片。(図26))
7109	石鍋	5層 G26-0642	(胎土・焼成) 石鍋: 滑石。(調整) 内面・西面部以上は滑石。(特記) 西面以下の外表面模様付着物。(年代) 平安/後期 (特記) 脚部細片、全体に磨滅跡。(図30))
7124	絆袖陶器 碗	5b層	(胎土・焼成) 脱土: やや粒状性、均質、やや軟質。断面: 明らかに赤みを帯びた黄(10Y 8/3)。器表: 色が、凹部の一部に僅かに残る。釉は薄く、半透明、ガラス状光沢を呈す。また、柔らかい黄緑(0.5gY 6.5/5)。(調整) 内底面に浅い凹窪。内外面不定方向の擦れ、高台は、底部に埋め込み、周回擦でを加え高め整形。(『計測』) 復原 底径6.7cm (遺存) 底部細片。(図29))
7134	瓦質土器 短颈瓶	櫛込1015 G35-19	(胎土・焼成) 脱土: 灰色泥質土器: 灰色8.5B.5 (調整) 調整不明。頸部外側横方向に押し当てられた工具痕みる。《特記》R135は同一個体資料か。(『計測』) 復原 口径19.8cm (遺存) 細片、内外面磨滅跡。(図14))
7135	瓦質土器 壺	流路1044 G36-1112	(胎土・焼成) 脱土: 灰色泥質土器: 灰色8.5B.5 (調整) 調整不明。頸部外側横方向に押し当てられた工具痕みる。《特記》R135は同一個体資料か。(『計測』) 復原 底径6.5cm (遺存) 底部細片。(図14))
7189	勞生土器 壺	不整な溝み1041 G26-0342	(胎土・焼成) 脱土: 粗砂多く含む器表: やわらかい黄赤(10R 5/5赤青)。(調整) 内外面調整不明。頸部に中央突起、その上下に4条前後の横擦痕状文様を残す。(特記) 西部脚部内底。(年代) 労生/後期 (遺存) 頸部小破片、内外面磨滅。(図31))
7224	須恵器 高台环	5b層 G26-0433	(胎土・焼成) 脱土: 精良、均質、僅かに粗砂あり。やや軟質。器表: 明るい赤みの黄色(2.5Y 7.5/2)。(計測) 復原 底径8.8cm (年代) 奈良 (遺存) 底部細片。(図26))
7231	瓦器 瓶	5層下部 G26-0323	(胎土・焼成) 脱土: 粗緻、粗砂。断面: 黄みの白(2.5Y 9/15)。器表: 全面磨擦し、暗い灰色(N 3)。(調整) 内底面: 磨き(單位不明瞭)。(『計測』) 復原 底径6.5cm (遺存) 底部細片。(図27))
7241	勞生土器 脼	溝427 / 16層 G26-0533	(胎土・焼成) 脱土: 粗砂少々。器表: 滑擦時: やわらかい黄赤(10R 7.5/5), 滑: 黄は赤みの里(2.5W 2.1/5.5)。(調整) 外面: 口縁部外側周回擦で、胴部縫隙磨き。内面: 周回擦で、内外面墨余迹(外縁大・部分削除)。(『計測』) 内面中心に厚く付着しており、漆を収納していた容器と考えられる。(『計測』) 復原 口径6.9cm×器高7cm (年代) 労生/終末期 (遺存) 大破片。(図9))
7448	同窯系青磁碗	5b層 G26-0631	(胎土・焼成) 脱土: 粒状性、均質。断面: 黄みの白色(2.5Y 9/15)。器表: 内外面施釉。釉は薄くむらがある。透明でガラス状光沢。赤みの黄(5W 5.5/2.5)。(調整) 内面: 口縁からやや下る位置に間隔を開けて2面磨き。外縁は緩方向の磨き工具による実線を施す。(『遺存』) 口縫部細片。(図29))
7454	勞生土器 高环	溝427 / 18層 G26-0634	(胎土・焼成) 脱土: 粗砂多く含む。雲母少量含む。器表: やわらかい赤みの黄(9W 7.5/4)。内面はやわらかい赤みの黄(9W 7.5/4)。(『計測』) 外面: 磨き?。口縁端面は強い周回擦で、周回擦で状の刷毛目・縫隙部付近周回擦で、縫隙部付近横磨き。(『計測』) 復原 口径3.0cm (年代) 労生/後期 (遺存) (図12))
7455	勞生土器 高环	溝427 / 16層 G26-9943	(胎土・焼成) 脱土: 粗砂多量。器表: やわらかい赤みの黄(9W 7.5/4)。内面はやわらかい赤みの黄(2.5Y 7.5/5)。赤彩部はつよい赤みの黄(9W 5.5/10 丹色)。(『計測』) 外面: 細刷毛目一口縁。縫隙附近を周回擦で。内面: 受け部が擦れ、脚部が削りか。(『計測』) 実測 口径12.8cm×底径15.3cm×器高20.0cm (年代) 労生/後期 (『遺存』) 槙形品 内外面磨滅跡。(図9))
7457	勞生土器 瓷器	溝427 / 16層 G26-9822	(胎土・焼成) 脱土: 磨きや多く、雲母少量含む。器表: 明るい赤みの赤みを帯びた黄(10Y 8/3)。内面はやわらかい赤みの黄(10R 7.5/5)。(『計測』) 外面: 細刷毛目一口縁。縫隙附近を周回擦で。内面: 受け部が擦れ、脚部が削りか。(『計測』) 実測 口径14.5cm×底径14.5cm×器高20.0cm (年代) 労生/後期 (『遺存』) 槙形品 内外面磨滅跡。(図9))

表14 遺物観察表(14)

遺物番号	遺物	出土位置	遺物記述
7466	土師器 高环	I2層 G26-9913	(胎土・焼成) 胎土：粗緻、粗砂。器表：明るい灰みの赤みを帯びた黄〔10R 8/3〕。(調整) 外面：刷毛目→磨き面；輪部上部弱い鉛削り、下部周回削。环部は不明文様；斜線2~3条段+列点文(刷毛目と同一工具)3段円形透孔3单位。(特記) 東海系贈入品。(計測) 復原 口径12.0cm (年代) 古墳/前期 (遺存) 脚付はほぼ完存。器表荒れ気味。(図31)
7469	弥生土器 袋状 口縁壠	試振トレンチ 1004 / I1層	(胎土・焼成) 胎土：粗砂を多量。器表：やわらかい黄赤〔10R 7.5/5〕。(調整) 外面：刷毛目→磨き面を中心周回削で内面：撫で主玉。口部に指押さえ痕。口縁壠部に粘土紐の跡目を残す。(特記) 周回削に焼成後の穿孔。(計測) 口径15.6cm (年代) 弥生/後期 (遺存) 口縁壠部はほぼ完存。外側面磨滅跡有。(図31)
7470	弥生土器 豆	満427 / 25層 G26-9942	(胎土・焼成) 胎土：粗砂。細繩を多く含む。器表：やわらかい黄赤〔10R 7.5/5〕。(調整) 外面：刷毛目→一部鉛削り状) 内面：撫で(脚部は弱)削り跡) 口縁部外側は撫で一括状気泡の横方向細刷毛目。(計測) 実測 口径11.6cm×底径5.5cm×器高9.9cm (年代) 弥生/後期 (遺存) 略完形成品。内面を中心磨き、器表の荒れ。(図34)
7471	弥生土器 豆付 壺	満427 G26-9735	(胎土・焼成) 胎土：粗砂を多量。器表：黄赤みの灰色〔STB 6/1 茶鼠〕。(調整) 外面：粗刷毛目一部分に撫で(一部鉛削り状) 内面：撫で(脚部は弱)削り跡) 口縁部外側は撫で一括状気泡の横方向細刷毛目。(特記) 本州の器表を受けた形式か。(計測) 復原 口径14.6cm×底径17.0cm×器高24.4cm (年代) 弥生/後期 (遺存) 身部 70%、脚部 40%。(図34)
7473	弥生土器 高环	満427 / 16層 G26-9244	(胎土・焼成) 胎土：粗砂。細繩を多く含む。器表：やわらかい赤みの黄〔10R 7.5/4〕。(調整) 外面：刷毛目→口縁部磨き、口縁部張り抜き 文様；3~4条平行弦文(斜上段は螺旋状) +列点文(斜上段)。(特記) 山陰・山陽系 (年代) 弥生/後期 (遺存) 図示部約50%。(図31)
7476	弥生土器 罐	雨剥1026 G26-0331	(胎土・焼成) 胎土：粗砂、砂礫を多く含む(白雲母混入)。器表：淡緑、やわらかい黄赤〔10R 7.5/5〕。(調整) 外面内側面磨きで文様；脚部張り抜き(特記) 西群馬県内系大財賀合口縁I801(5b層)と同一側面。(年代) 弥生/終末期 (遺存) 小破損。(図31)
7477	土師器 罐	G6 G26-9925	(胎土・焼成) 胎土：粗砂と少々粘土。器表：くすんだ黄赤〔21B 6/6〕。(調整) 外面：刷毛目→撫でまたは泥質。内面：周回削。(特記) 脚部中央に縦縫線、肥前系か。窓付土器か。(計測) 復原 口径12.8cm (年代) 古墳前期 (遺存) 脚周り約20%、外側面磨滅、器面の荒れ跡有。(図31)
7478	弥生土器 手程 土器	満427 / 21層 G26-9342	(胎土・焼成) 胎土：粗砂を多量。器表：くすんだ黄赤〔21B 6/8〕。(調整) 外面：指押さえ痕、撫で。(計測) 復原 口径3.8cm×底径3.6cm×器高6.8cm (年代) 弥生/後期 (遺存) 略完形品 器表欠れ。(図34)
7479	弥生土器 高环	満427 / 18層 G35-1031	(胎土・焼成) 胎土：粗砂、細繩を含むが白雲母(?)を含む。器表：やわらかい赤みの黄〔7.5/4 5/4 茶葉斑〕。(調整) 外面：刷毛目→磨き、脚部周辺は周回削で、脚部に刷毛目よく残す。内面：脚部張り目調整、脚中部削り痕、上部に絞り痕。环部は磨き跡、脚中の円形透孔は半位。(計測) 実測 底径10.8cm (年代) 弥生/後期 (遺存) 脚部はほぼ完存。器表や荒れ。(図32)
7480	弥生土器 罐台	満427 / 18層 G26-0332	(胎土・焼成) 胎土：粗砂を含む(白雲母も含む)。器表：淡褐色、やわらかい赤みの黄〔10Y 7.5/4.5〕。口縁部外面はやや茶化。(調整) 外面：口縁部付近周回削で、以下刷毛目残す。内面：周回削で文様；口縁部内側凹縫線或虫食。(特記) 西部灘内系庄口窓。(計測) 復原 口径25.8cm (年代) 弥生/後期 (遺存) 口縁部 20% 内面 破や磨滅。(図32)
7481	弥生土器 罐	満427 / 16層 G26-0331	(胎土・焼成) 胎土：砂粒を多く含む(白雲母みられる)。器表：やわらかい黄赤〔10R 7.5/6.5 一斤赤〕。(調整) 外面：口縁部下粗刷毛目調整→細刷毛目→口縁部周回削で内面：粗刷毛目文様；口縫部竹文(特記) 高防系長形窓か。(年代) 弥生/終末期 (遺存) 口縫部。(図35)
7485	弥生土器 罐	満427 / 18層 G26-0343	(胎土・焼成) 胎土：多量の砂礫。器表：くすんだ黄赤〔5Y 8/5〕。(調整) 外面：刷毛目調整→周回削で内面：横刷毛目調整→脚部(脚部内側凹縫線或虫食)。(特記) 西部灘内系庄口窓。(計測) 復原 口径54.0cm (年代) 弥生/後期→終末期 (遺存) 口縫部小破片 器表欠れ。(図5)
7486	弥生土器 罐	満427 / 18層 G35-1015	(胎土・焼成) 胎土：砂礫を多く含む。器表：粗粒状、黒色帶い(焼成の程度が低い)。器表：やわらかく黄赤〔10E 7.5/5〕。(調整) 在地系の大型形であるが、口縁部文様に異系統土器の影響。颈部に2つの突巻を有する可能性が高。(脚部)。(計測) 復原 口径52.0cm (年代) 弥生/後期→終末期 (遺存) 口縫部15% 器表欠れ。(図32)
7488	弥生土器 窓付 土器(裏面)	満427 / 16層 G26-0145	(胎土・焼成) 胎土：粗砂、細繩。器表：淡黄灰、明るい灰みの黄〔2.5Y 7.5/2 砂色〕。(調整) 外面：脚部張り目調整、口縫部付近周回削で内面：周回削で脚部の透孔は焼成前 (計測) 復原 口径18.4cm (年代) 弥生/後期 (遺存) 口縫部小破片 外面を中心に器表荒れ。(図31)
7489	弥生土器 窓付 土器彫形	満427 / 21層 G26-0343	(胎土・焼成) 胎土：粗砂、細繩を多く含む。器表：やわらかい赤みの黄〔9Y 7.5/4〕。(調整) 外面：刷毛目→脚部(脚部周回削で、透孔付近削り跡)の撫で内面：周回削で脚部鉛削り状(計測) 復原 口径14.6cm (年代) 弥生/後期 (遺存) 口縫部小破片 器表欠れ。(図31)
7490	弥生土器 窓付 土器彫形	満427 / 16層 G26-0331	(胎土・焼成) 胎土：粗砂、細繩を多く含む。器表：淡黄灰、明るい灰みの黄〔2.5Y 7.5/2 砂色〕。(調整) 外面：不明文；撫で脚部の透孔は焼成前 (計測) 復原 口径18.8cm (年代) 弥生/後期 (遺存) 口縫部10/10器表荒れ。(図31)
7491	弥生土器 窓付 土器彫形	満427 / 18層 G26-0151	(胎土・焼成) 胎土：粗砂、細繩。器表：やわらかい赤みの黄〔9Y 7.5/4〕。(調整) 外面：口縫部周回削で、脚部鉛削り状(計測) 復原 口縫部10/10器表荒れ。(図31)
7492	弥生土器 罐	I2層 G26-8944	(胎土・焼成) 胎土：粗砂を含む。器表：外面はくすんだ黄赤〔10R 5.5/6 内柱色〕、内面(体部)はやわらかい赤みの黄〔9Y 7.5/4〕。(調整) 外面：刷毛目→周回削で内面：横刷毛目→脚部張り目(脚部内側凹縫線等；口縫部外側列点文；脚部に2条の突巻帶、外面→内面)内面を中心に赤彩。(計測) 実測 口径43.3cm (年代) 弥生/後期 (遺存) 口縫部10/10器表荒れ。(図36)
7493	弥生土器 罐	I2層 G26-9925	(胎土・焼成) 胎土：砂粒多く含む器表：外側はくすんだ黄赤〔9R 6.7.5/5朱〕、内面は明るい灰みの赤みを含む(10Y 6.7/3)。(調整) 外面：刷毛目→脚部周回削で、脚下部鉛削り→撫で、内面：刷毛目→撫で赤系品目。(計測) 復原 口径10.0cm (年代) 弥生/終末期 (遺存) 口縫部小破片。(図31)
7495	弥生土器 罐	II層 G26-9555	(胎土・焼成) 胎土：粗砂多く含む。器表：うるさい赤〔5Y 10/8.5〕。(調整) 外面：刷毛目→脚部周回削で、脚下部でかぶ面；刷毛目。脚上部の粘土紐目を指押さえ痕、撫でで調整。(特記) 二重的な被熱。(計測) 復原 口径14.2cm (年代) 弥生/終末期 (遺存) 脚部小破片；外側半面を中心に磨滅跡有。(図31)
7498	弥生土器 罐	II層か G26-8854	(胎土・焼成) 胎土：粗砂多く含む。器表：やわらかい黄赤〔2.5Y 7.5/5 6加羅色〕。(調整) 外面：刷毛目→撫で面；刷毛目→脚部周回削で、脚部部分の2横で、底部付近削で。内面：刷毛目調整→脚付近と脚部を削れ。(計測) 復原 口径17.6cm×底径7.7cm×器高24.3cm (年代) 弥生/後期 (遺存) 大破片。(図31)
7499	弥生土器 罐	満427 / 16層 G26-9835	(胎土・焼成) 胎土：粗砂を多く含む(雲母含む)。器表：やわらかい黄赤〔2.5Y 7.5/5〕。(調整) 外面：刷毛目調整→脚部周回削で、脚部内側凹縫線或虫食。(特記) 二重的な被熱。(計測) 復原 口径17.6cm×底径7.7cm×器高24.3cm (年代) 弥生/後期 (遺存) 大破片。(図31)

表15 遺物観察表(15)

遺物番号	遺物	出土位置	遺物記述
7500 鉢	弥生土器 有孔	12層 G26-9925	〔胎土・焼成〕胎土：粗砂を多量。器表：やわらかい黄赤〔10R7.5/5〕。〔調整〕外側：刷毛目一回下部を焼き撫で（一部寝麿き状）。底部付近は指揮え痕。内面：刷毛目一部分に撒て。〔計測〕復原 口径25.0cm×底径2.5cm×器高14.5cm〔年代〕弥生/後期～終末期〔遺存〕大破片。(図31)
7504 土師器 鉢		12層 G26-9925	〔胎土・焼成〕胎土：粗砂多く含む。器表：やわらかい黄赤〔10R7.5/5赤系〕。〔調整〕外側：刷毛目一回頭部周囲方向撫で。脚部の中心以下縦方向撫で。内面：口縁部横で、胸部質削り。(年代)古墳/前期〔遺存〕口縁周り1/2、内外面質削り跡。(図31)
7507 弥生土器 高環		G427 G26-04	〔胎土・焼成〕胎土：3mm位の小粒。雲母を含む。器表：明るい灰みの黄〔2.5Y 7.5/2 砂色〕。〔調整〕外側：刷毛目一撫で、縱磨き（杯下部は磨かない）内面：刷毛目一撫で（杯下部は部分的に縱磨き）口面：刷毛目一回頭部周囲方向撫で。脚部の中心以下縦方向撫で。内面：口縁部横で、胸部質削り。(年代)弥生/後期～終末期〔遺存〕口縫20.9cm〔年代〕弥生/後期～終末期〔遺存〕杯底 70%、脚部 80%の略完形品。(図9)
7508 弥生土器 鉢		G427 /16層 G26-9941	〔胎土・焼成〕胎土：3mm位の小粒。雲母を含む。器表：にぶい黄褐色〔5YR 7/4〕。〔調整〕外側：縦方向の長い刷毛目調整～突席貼り付け、周囲撫で。内面：口縁部では、周囧方向の刷毛目調整。(計測)復原 縦径9.4cm〔年代〕弥生/後期〔遺存〕1/4破片。(図38)
7509 弥生土器 大甕		G427 /16層 G26-0541	〔胎土・焼成〕胎土：粗砂を多く含む。器表：にぶい黄褐色〔10YR 7/2〕。〔調整〕内面：脚部、斜め方向の刷毛目調整、口縁部周囲方向の粗毛目調整～脚部周囲撫で、指揮え痕。外側：脚部下半斜め方向の刷毛目調整。以上1周まで、縦・斜粗毛目刷毛目調整。脚部粗砂は刷毛目調整の境界部。(計測)復原 口径52.3cm〔年代〕弥生〔遺存〕各部が遺する所破片、全形の1/2。(図7)
7511 弥生土器 鉢		G427 /16層 G26-0541	〔胎土・焼成〕胎土：粗砂を多量。器表：薄い黄赤〔5YR 8/5〕。〔調整〕外側：刷毛目調整～突席周囲撫で、底面撫で。内面：刷毛目一回頭部周囲撫で、脚部以下平滑な撫で。口縁部は垂下気味で、外面部刷毛目調整～列点文。炎帯は刷毛目調整の後に付されたもので、脚部と胸部外面部2条ずつ、脚部内面に円形炎帶。(特記) 大形透。(計測)復原 口径50.8cm×底径16.0cm×高70.5cm〔年代〕弥生/終末期〔遺存〕略完形品。(図38)
7513 弥生土器 鉢		G427 /16層 G26-0342	〔胎土・焼成〕胎土：粗砂を多く含む。大粒のシャモットを含む。器表：やわらかい黄赤〔2.5YR 7.5/5〕。〔調整〕外側：明き一刷毛目一回頭部周囲撫で、脚部の中心以下縦き撫で。下部は寝麿き跡。内面：刷毛目一回頭部周囲撫で、脚部は部分的な撫で。底部に指揮え痕。(計測)復原 口径15.8cm×器高15.6cm〔年代〕弥生/終末期〔遺存〕大破片。(図6)
7514 弥生土器 鉢 台付小形甕		G427 /22層 G26-0333	〔胎土・焼成〕胎土：粗砂を多く含む。器表：下平2/3及び内面赤化、口縁部直下まで黒斑が斑に分布。炎黄褐色〔10YR 6/2〕。〔調整〕底部に突起を設け、台部を接合した痕跡。外面部斜め方向細めの刷毛目調整、部分的に残る。(計測)復元 口径4.1cm×高15.0cm〔年代〕弥生〔遺存〕口縁部の大部、脚部を欠く。器表は火薙れ。(図4)
7518 弥生土器 器台		G427 /16層 G35-1025	〔胎土・焼成〕胎土：粗砂を多量。器表：薄い黄赤〔5YR 8/5〕。〔調整〕外側：明き一刷毛目調整～突席周囲撫で、内面：受け部は横刷毛目調整～周囲撫で。脚部は撫で。部分的に粗い刷毛目状となっている。(特記) 脚部口縁の大形炎帶。(計測)復元 口径17.2cm×底径23.6cm×器高26.2cm〔年代〕弥生/終末期〔遺存〕略完形品。外面部やや質削り。(図11)
7523 弥生土器 鉢		G427 /25層 G26-9931	〔胎土・焼成〕胎土：緻密、細緻。器表：内外面赤色〔7.5YR 8/2〕。底部に黒斑。〔調整〕内面：口縁近くにU字に沿う方向の粗毛目刷毛目調整～内面全体に撫で。外側：上半部、口縁直下まで刷毛の叩き目調整～縦方向の刷毛目調整～一撫で。底部付近は、削り削り。口縁部：内外面側面で〔内面調整〕。(計測)復原 口径9.1cm×底径5.7cm×器高31.7cm〔年代〕弥生/後期〔遺存〕半ばを欠くが全形を復原可能、器表剥離。(図4)
7527 弥生土器 鉢		16層 G35-1023	〔胎土・焼成〕胎土：粗砂を多く含む〔雲母含む〕。器表：明るい灰みの黄赤〔4YR 6/4.5薄〕。〔調整〕外側：刷毛目一回頭部周囲撫で、脚部は撫で。底面撫で。内面：刷毛目一回縁部と脚部を中心として撫で。口縁部や脚部に指揮え痕。脚部の三角突起、脚部下方に列点文の施された台形炎帶。(計測)復原 口径5.6cm×底径5.3cm×器高41.3cm〔年代〕弥生/終末期〔遺存〕大破片。(図2)
7528 弥生土器 鉢		G427 /16層 G26-0445	〔胎土・焼成〕胎土：粗砂を含む。器表：くすんだ黄赤色〔10YR 5.5/6〕。〔調整〕体部：外面部細めの方向刷毛目調整、内面不定方針の撫で。後内部：外面部内面調整～周囲撫で。内面：撫で。(特記) 内外面爆状の付着物。(計測)復原 口径4.1cm〔年代〕弥生〔遺存〕口縁部1/4の破片。(図10)
7529 弥生土器 高環		G427 /16層 G26-0435	〔胎土・焼成〕胎土：粗砂～灰の赤みを帯びた黄〔8YR 6/5.3〕。〔調整〕脚部上部は整形で、瓶方向に斜め方向の刷毛目調整～周囲撫で。内面：撫で。(特記) 脚部、瓶方向の刷毛目調整。3方の活きの他に、2孔を穿つ。(年代) 弥生〔遺存〕脚部、器表は火薙れ。(図29)
7530 弥生土器 跡		G35-1015	〔胎土・焼成〕胎土：粗砂を多量。〔雲母含む〕。器表：やわらかい黄赤〔6.5YR 7.5/6 彩羅色〕。〔調整〕外側：灰～灰の刷毛目調整、口縁部付近周囲撫で。内面：撫で。(計測)復元 口径14.8cm×器高6.5cm〔年代〕弥生/後期〔遺存〕略完形品。(図10)
7532 弥生土器 器台		G427 /16層 G26-0245	〔胎土・焼成〕胎土：粗砂を多量。〔雲母含む〕。器表：薄い黄赤〔5YR 8/5〕。〔調整〕外側：縦刷毛目一回に撫で。〔計測〕復元 口径12.8cm×底径15.0cm×器高14.2cm〔年代〕弥生/後期～終末期〔遺存〕略完形品。内外面質削り跡。(図11)
7536 弥生土器 鉢		G427 /16層 G26-0245	〔胎土・焼成〕胎土：粗砂を多く含む〔雲母含む〕。器表：明るい灰みの黄赤〔4YR 6/4薄茶〕。〔調整〕外側：刷毛目一回頭部付近と脚部付近を周囲撫で。内面：刷毛目一回頭部で脚部横磨き。又様：口縁部内外面と脚部に横磨き波状紋。工具は口縁部等の工具と、脚部が刷毛目の工具と共通する可能性が高い。脚部には台形炎帶があり、「二工具による列点文」のものが混在。(特記) 西部輪中円系の壺入品。(計測)復元 口径24.8cm〔年代〕弥生/後期～終末期〔遺存〕口縁部大破片。(図5)
7539 弥生土器 跡		G427 /22層 G35-1032	〔胎土・焼成〕胎土：精良。粗砂を少々含む。器表：にぶい黄褐色〔10YR 6/4〕。〔調整〕内面：内面撫で。内底面に横状工具の痕跡。外側：刷毛目一回頭部周囲撫で、左上方向の刷毛目調整～周囲撫で。内面：脚部質削り跡。(計測)復原 口径18.1cm×底径6.1cm×器高9.5cm〔年代〕弥生〔遺存〕口縁部の一部を残し上半部を欠く。(図14)
7543 弥生土器 支脚		G427 /18層 G26-0152	〔胎土・焼成〕胎土：粗砂を多く含む〔雲母含む〕。器表：やわらかい黄赤〔2.5YR 7.5/5〕。〔調整〕外側：指揮え痕～瓶横幅で内面：縦・ビニヒで一腳端部付近周囲撫で。(特記) 陶背支脚。二次的な被熱により変形し、器表は紅褐色の付着物。(計測)復元 口径8.3cm×底径8.3cm×高8.9cm〔年代〕弥生〔遺存〕完存。(図13)
7544 弥生土器 鉢		G427 /16層 G35-1025	〔胎土・焼成〕胎土：粗砂を多く含む〔雲母含む〕。器表：薄い黄赤〔5YR 8/5〕。〔調整〕外側：刷毛目一回頭部周囲撫で、脚下部横き撫で。内面：口縁部周囲撫で、胸部横き撫で。(特記) 外面部保有。(計測)復原 口径27.5cm×底径6.0cm×器高26.1cm〔年代〕弥生/後期〔遺存〕大破片。内外面質削り跡。(図11)

表16 遺物観察表(16)

遺物番号	遺物	出土位置	遺物記述
7545	弥生土器 裏	溝427 /16層 G26-9822	(胎土・焼成) 胎土：細織を含む。器表：明るい赤みの黃褐色〔30R 8/305〕。頸部から口縁部の内外面赤色剥落。〔調整〕口縁部・頸部・内外面周回部〔板状工具による〕。腹部：内面縦方向の擦〔板状工具〕、外面部め方向の粗目刷毛目調整一頭部に突審貼り付け〔外面部擦〕で、対応する内面は板状工具による擦で。〔計測〕復原 口径24.7cm (年代) 弥生 (遺存) 口縁部、1/2破片。(国12)
7665	弥生土器 両形 (高杯)	流路1018 G26-9631	(胎土・焼成) 胎土：砂粒のない器表：やわらかい黄褐色〔50R 7/507〕。5/5洗柿。(調整) 外面：刷毛目調整一周回擦でまたは昆麻表面：横刷毛目調整一周回擦で〔特記〕11～12層の土器か〔計測〕復原 口径19.2cm (年代) 弥生(終末期) (遺存) 口縁細部。(国31)
8371	土製品 細縫	溝427 /16層 G26-0142	(胎土・焼成) 胎土：粘粒性、細織。器表：やわらかい赤みの黄色〔90R 7.5/41〕。〔調整〕成形：粘土塊を手程で、全体で捏ねてし、円錐形に整形する1孔、下半部にそれと直通する1孔を穿孔。中央部の孔は両側面の穿孔、下部は部分的に遺存。中央の孔から上端に向けて浅く凹、凹部下に周回方向に刻み、石鋒と同形状。〔特記〕器身か、石縫模造品か判然しない。孔から出更用品か。(計測) 実測 長さ20cm (遺存) 下半部、器表。(国15)
8795	弥生土器 裏	溝427 /16層 G26-0544	(胎土・焼成) 胎土：細織で多く含む。器表：ごく薄い赤みの黄色〔10R 4/2.5〕。〔調整〕内面：頸部と縦方向の刷毛目調整一縫口部に突審貼り付け、横方向の擦で、外側：頸部以下を縦方向の擦で。口縁部：斜め方向の刻み。〔計測〕復原 口径57.0cm (年代) 弥生 (遺存) 口縁部・頸部破片。器表あれ顕著。(国7)
8801	弥生土器 裏	溝427 /25層 G26-0543	(胎土・焼成) 胎土：細織を含む。器表：にほい黄褐色〔10R 6/4〕。〔調整〕底部：やや上方底状の平底。体部：内面刷毛目調整一板状工具による擦で。外面部縦方向の粗目刷毛目調整一上部に板状工具による擦。口縁部：内面周回部で〔特記〕穿孔か、内面からの衝撃で底部に孔。〔計測〕復原 口径14cm×底径11.0cm×高31.3cm (年代) 弥生 (遺存) 口縁部、1/5の破片。(国6)
8802	弥生土器 裏 袋状口縁壺	溝427 /16層 G26-0622	(胎土・焼成) 胎土：細織を含む。断面：黒褐色〔2.5V 7/3〕。器表：内外面灰黒褐色〔10R 6/2.5〕、頸部は灰褐色の変化。(調整) 類似外側：刷毛目調整一擦面で(平滑)。体部：内面に粗目刷毛目調整。(計測) 復原 口径23.7cm (年代) 弥生 (遺存) 口縁部、1/4の破片。器表荒れ。(国5)
8805	弥生土器 大形 壺	溝427 /16層 G26-0531	(胎土・焼成) 胎土：細織で多く含む。器表：内面はやわらかい赤みの黄色〔10R 7.5/4.5〕。〔調整〕口唇部下面に粘土貼り付けて口縁に沿う方向の粗目刷毛目調整、外面上縦方向の粗目刷毛目調整。(計測) 復原 47.9cm (年代) 弥生 (遺存) 口縁部・頸部の破片1/8。(国7)
8927	土製品 円盤	流路1043 G26-0114	(胎土・焼成) 胎土：やや粘粒性、粗砂。器表：くすんだ黄赤色〔5.5R 5.5/4.5〕。(調整) 粘土板を円形に整形、両面を押挿し、撹へ。一方の周縁には輪郭方向に強く擦でできた浅い凹窪が2つ残る。(計測) 実測 11.0cm×1.5cm (年代) 弥生 (遺存) 分厚部。(国31)
9019	弥生土器 裏	溝427 /18層 G26-9655	(胎土・焼成) 胎土：やや粘粒性、粗砂。器表：黄色〔2.5V 6/2〕。(調整) 内面：削め方向細目刷毛目調整一擦面で、外面部は周回方向で(平滑)。〔調整〕外側：内面周回部まで模倣付着物。一部は口縁内側に及ぶ。(計測) 復原 14.7cm (年代) 弥生 (遺存) 口縁部・破片。(国13)
9026	弥生土器 裏	溝427 /18層 G26-0341	(胎土・焼成) 胎土：細織を含む。器表：にほい黄褐色〔5R 6/4〕。(調整) 内面：斜め方向細目刷毛目調整、縦方向細目の刷毛目調整を重行。〔調整〕外側：内面周回部まで模倣付着物。一部は口縁内側に及ぶ。(計測) 復原 19.2cm (年代) 弥生 (遺存) 口縁部・破片。(国13)
9118	弥生土器 裏	溝427 /18層 G26-0341	(胎土・焼成) 胎土：細織を含む。器表：にほい黄褐色〔5R 6/4〕。(調整) 内面周回部で〔計測〕復原 29.8cm (年代) 弥生 (遺存) 口縁部・破片。器表の大部分脱落。(国13)
9120	弥生土器 裏	溝427 /18層 G26-0341	(胎土・焼成) 胎土：細織を含む。器表：純白色〔7.5V 6/3〕。(調整) 内面：体部・口縁部極めて平滑。外面：体部縦方向細目の刷毛目調整一帯部附近、周回擦で、口縁部縦方向細目の刷毛目調整一擦で(指揮され)。一端部周回擦。(計測) 復原 26.0cm (年代) 弥生 (遺存) 口縁部小破片。(国13)
9189	弥生土器 裏	溝427 /18層 G26-9654	(胎土・焼成) 胎土：細織を含む。器表：にほい黄褐色〔7.5V 7/4〕。(調整) 体部内面：削め方向・线条を残す。体部外面：斜め方向の棒目刷毛目調整一口縁部との境界部に突審貼り付け、突審下部を指揮されるが、完全に擦で付ける。口縁部：内面に周回方向の刷毛目調整一外面部周回擦。(特記) 口縁部下半部から全体までの模倣付着物。(計測) 復原 33.5cm (年代) 弥生 (遺存) 口縁部。(国13)
9196	弥生土器 裏	溝427 /18層 G26-0332	(胎土・焼成) 胎土：やや粘粒性、細織。器表：にほい黄褐色〔10R 7/2〕。(調整) 体部内面：前面擦で、平滑。体部外面：縦方向の粗目刷毛目調整一帯部直下、周回擦で。口縁部縦方向細目刷毛目調整一擦で(指揮され)。一端部周回擦。(計測) 復原 32.2cm (年代) 弥生 (遺存) 口縁部小破片。(国13)
9317	弥生土器 大形 壺	溝427 /16層 G26-0243	(胎土・焼成) 胎土：細織で多く含む。器表：下部：灰黄色〔2.5V 6.5/2〕、上部：格子色〔5W 6/7〕が広がる。黒斑あり。(調整) 体部：外面部では方向を変えた多段の刷毛目調整、体部中央・上部と粗目の刷毛目調整。一部、腹部最大部に各2段の突審貼り付け、周回擦で。内面では、体部中央に横方向の刷毛目調整一圓周方向、内底面は縦方向の擦で。〔計測〕復原 9.6cm (年代) 弥生 (遺存) 口縁部下部を欠く1/8の破片。(国8)
9320	弥生土器 裏	溝427 /16層 G26-0544	(胎土・焼成) 胎土：粗砂を含む。器表：灰黃褐色〔10R 6/2〕。(調整) 内面：前面に擦で、底部粗目刷毛目調整、縦方向の擦で。外面：斜め方向の刷毛目調整、4段階が認められる。口縁部：内面周回擦で。(計測) 実測 30.4cm×9.4cm×41.4cm (年代) 弥生 (遺存) 下部の半ばを欠くが、全形を復原できる。(国10)
9448	石鏡	石鏡	(胎土・焼成) 石材：滑石（調整）：外観：亀甲状の單位面から成るが、全体に研磨が行われて。境界不明瞭。内面：磨拭して平滑、光沢。(特記) 目縫部以外の体部外縫目地の付着物。(計測) 復原 24.0cm (遺存) 底部細片。(国30)
9449	鐵文土器 相製 深鉢	G25-0031	(胎土・焼成) 胎土：やや粘粒性、細織。器表：暗い赤みの黄赤色〔60R 3.5/4〕。(調整) 外面：横方向の集塵痕、内面：擦で。(年代) 鐵文(晚期) (遺存) 口縁部細片。(国30)
9519	瓦 平瓦	5b層 G26-0613	(胎土・焼成) 胎土：やや粘粒性、種々に細織。器表：灰白色〔7.5V 7/2〕。(調整) 凹面：布目刷毛。凸面：格子目明き(粗目)。側面：型枠割り取り。(計測) 実測 長11.0cm×幅7.0cm×厚1.5cm (遺存) 細片、側面部遺存。(国22)
9604	瓦 平瓦	雨剥1026 G36-1312	(胎土・焼成) 胎土：粗砂粗粒、粗砂少量。器表：灰色〔7.5V 9/1〕。(調整) 凹面：布目刷毛一擦で。凸面：擦で。側面は割り取っている。(計測) 実測 長10.0cm×幅11.0cm×厚2.4cm (遺存) 前面部細片、器表の遺存部。(国25)
9648	瓦 丸瓦	雨剥1024 G26-0322	(胎土・焼成) 胎土：粗砂、粗砂・褐色色。器表：くすんだ黄赤色〔2R 6/8〕。(調整) 凸面：側縁に分割割。削面は1/3。凸面：格子目明き(粗目)。凹面：粗目。底面：布目直压。(計測) 実測 16.0cm×13.0cm (遺存) 後部小破片、塑部を欠く。(国22)
9666	瓦質土器 広口 壺	5b層 G36-1213	(胎土・焼成) 胎土：粗砂、軟質。器表：明るい灰色〔N 7〕。(調整) 口縁部内面：周回擦で調整。外面：斜め刷毛目調整。(遺存) 口縁部細部、全体に著しく磨耗。(国14)

表17 遺物観察表(17)

遺物番号	遺物	出土位置	遺物記述
9689	越州窯系青磁碗	5b層 G26-0613	(胎土・焼成) 胎土：精良、均質、穂に粗砂を含む。断面：精良で明るい灰色（N 7）。やや樹脂状光沢をもつ。器表：内外面施釉、釉薄く、細かく発泡して半透明、磨ガラス状を呈し、灰みの黄色（5.5Y 5.5/2.5）。部分的にむらを生じる。(調整) ろくろ成形。内外面周回撫で。(計測) 復原 16.0cm (遺存) 口縁部細片。(図28)
9690	越州窯系青磁	5b層 G26-0613	(胎土・焼成) 胎土：やや粒状性。裡かく細孔。断面：灰色（7.5Y 9/1）。灰黄褐色（10YR 6/2）。器表：内外面施釉、細かく発泡して半透明、外面磨ガラス状、内面部分的にガラス光沢。<くすんだ黄色（2.5Y 6/4）となるが、裡状に灰みの黄色（5.5Y 5.5/2.5）の部分がある。(調整) 織輪成形、周回撫で。(計測) 復原 19.2cm (年代) 平安 (遺存) 口縁部細片。(図29)
9696	越州窯系青磁碗	5b層上面 G26-0512	(胎土・焼成) 胎土：精良、均質、穂に粗砂を含む。断面：黄赤みの灰色（5YH 6/1）。器表：内外外面上部に施釉、釉はむら、不透明。灰みの赤みを帯びた黄色（10YR 6.5/2）。(調整) 織輪成形、周回撫で。(計測) 復原 17.9cm (遺存) 口縁部細片。(図28)
9731	土師器 台付鉢か	12層 G26-9535	(胎土・焼成) 胎土：やや粒状性、細孔、堅致。器表：やわらかい黄赤色（6.5YH 7/5）。(調整) 内外面撫で、台付上部周回方向の刷毛目調整。(特記) 鉢部に2通の透し孔あり。位置関係から全周では2乃至3箇所あったものと推定。形状は円錐底状、海陸の成形はない。(遺存) 脚部細片。(図26)
9747	敲打刃器 刃片素材	溝427 /18層 G26-9733	(胎土・焼成) 石材：玄武岩/礫長剝片(平坦打削)。(調整) 斧刃剥片の片側削除及び打面と封肉する緣邊の前面に小剝離痕断続。(計測) 実測 13.9cm×8.0cm×3.1cm /495.0g (遺存) 完存。(図19)
9750	縞文土器 相模深跡	13層 G25-0041	(胎土・焼成) 胎土：やや粒状性、粗砂、細孔。断面：細孔。器表：暗い灰みの赤みを帯びた黄色（8.5YR 4.5/2）。(調整) 内外面撫で、不整。(遺存) 口縁部細片。(図30)
9751	縞文土器 相模深跡	13層 G25-0041	(胎土・焼成) 胎土：やや粒状性、粗砂、細孔。断面：細孔。器表：灰みの赤みを帯びた黄色（10YR 5/2）。(調整) 内外面撫で、不整。(遺存) 底部付近の棒細片。(図30)
9752	縞文土器 相模深跡	13層 G25-0041	(胎土・焼成) 胎土：やや粒状性、粗砂、細孔。断面：細孔。器表：灰みの赤みを帯びた黄色（10YR 5/2）。(調整) 内外面撫で、外面部不整。(遺存) 底部付近の棒細片。(図30)

遺物観察表について

表項目は、遺物番号、遺物(分類)、出土位置、遺物記述に区分している。

1. 遺物番号 登録遺物番号であり、発掘調査から整理作業の過程で付与したもの。本表に掲載のものは個体番号である。

2. 出土位置 出土遺構、出土層、出土区画の順に記述する。遺構記述がなく、層名で始まるものは台地縁辺部から谷部に掛けて生成した包含層出土を示す。両者の記述の無いものは採集資料である。Gで始まる数値は出土調査格子を示す。ハイフオンの前は100m区を表し、後ろの最初の2桁は10 m、最後の2桁は2 m区を表す(図3参照)。

3. 遺物記述 以下の内容順で記述した。紙数が限られたため、記述を簡略化している。

(1) 胎土・焼成 胎土、焼成、材質、断面、器表の色調、釉等について記述する。

(2) 調整 加工、施文内容を記述する。

(3) 特記

(4) 計測 各部計測値を記述。

(5) 年代

(6) 遺存 遺存状態。

(7) 図 本報告掲載図番号。

報告書抄録

ふりがな 書名 副書名	いまじゅくごろうえ 11 今宿五郎江 11 今宿五郎江遺跡第10次調査報告(3)						
卷次							
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	1137						
編集者名	杉山富雄 福岡市教育委員会 〒810-8621 福岡県福岡市中央区天神一丁目8番1号 TEL092-711-4667						
編集機関 所在地	20080331						
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	°' "	°' "	m ²	
今宿五郎江10次	福岡市西区 今宿町	40130	626	33° 34° 26°	130° 16° 24°	20040524 ~ 20050707	2,998 区画整理
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
今宿五郎江10次	集落 包含層	弥生(後期) 平安時代	溝	弥生土器(後期を主)、 網状器、縄胎陶器、輪 入陶磁器、土師器、漢 瓦		遺物報告	
要約							

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1137集

今宿五郎江 11

- 今宿五郎江遺跡第10次調査報告(3) -

2012年(平成24年)3月16日

発行 福岡市教育委員会
 福岡県福岡市中央区天神1丁目8番1号
 新交社
 福岡県福岡市中央区地行1丁目11番3号